或る修道士達の最期

桃 富

ŝ ľ \forall に神は天地を創造給《つ くりたま》えり

地は混沌 ح て闇は虚空を覆いたり。

が僕たちょ、 出でよ

群対神斯 《いっつい》
がく言い給い 顕れぬ。 ければ麗しき十二の両翼を背に の翼一翻《ひるがえ》ししその同 し天使長ルシフェ 胞 《はらから》 ル、 ミカエル率い ならびに優美なる たる天使

天 使 の 闇と光分かたれり。命に従いて世界を形造れり。

光生ま ħ

水生ま ñ 地と海分かたれり。

草木生まれ、水に根付き、地に芽ぐみたり

自在に 命生まれ、 に走りたる獣をばむまれ、神、水には白 ば配されり。は自在に泳ぎたる魚、晩には自在に飛びたる鳥、 地には地を這う蟲

を食むを得るなり。なれど、王冠《ケテル》、 ん、地と水に生くる草木、 し|生命の樹《セフィ 《ヘセド》、 神、人を祝して言い給いけるは、我、汝等に天使の加護と永久《とこしえ》の命を天使、美味たる果樹の茂りたる園造り、以て人の住処《すみか》とす。此処に於いて神、天使の像《かたち》の如くして土より男と女一対の人を創造給え 》、基礎《イエソド》、王国《マルクト》、 غ 使の恩寵を受け給い 公正《ケプラー》、 ロト 給いけるは、我、汝等に天使の加護と永久《とこしえ》の命を与え ー 》、 美《ティフェレト 》、永遠《ネツァー 》、反響《ホ、王冠《ケテル 》、洞察《ホクマー 》、理解《ピナー 》、慈悲水の魚、空の鳥、地の蟲と獣を治めよ。汝等は園の全ての果樹 し男と女、斯くして無垢安息の日々を過ごせ にして食むべからず、永久の命をは失わん 知恵《ダート》を司る樹木は我が霊力宿 ٠ .

さ れど、 或る時天使の長ル シ フェ ル、 人を 訪れ て、 知恵 **ダ**リ **├** の実を食むべ と言

わ失わん、と言えどもルシフェル応えて言うには、汝等|知恵《ダート》の樹の実を食め男と女、神言い給いけり、汝等|生命の樹《セフィロト》食むべからず、永久の命をば も永久の命失わず、善悪の 知恵を知りて 神の力を得るのみなり。

躊躇えど遂に 11 彩色形容美味し く芳香馥 郁た る 知 恵 я́ ŀ \forall の の 実を食

と答えけり され 男と女 相離を れ得 隠れ たるを ŧ 知仲 かりて、汝い睦まじか 等何故 隠が n た男と やなな 問るを け知 れり ばて 羞離して れ れ隠 ばる る。 ts. ŋ

護を解き、 汝等命を破 神、男と女 付るに、女は産む、永久の命を奪わり ŋ に にい 因給 りてけ ん。汝等土よ 汝等より り造り , 生命 知 ŋ tz のし れ樹は 知恵 《ダ ば 死 l T ・ロト》を奪いて我・ノート》の実を食み・ 土 に . 還る べ l tz ح 天る 使べ のし

男は 食を得 のる ,に触れし 女は産む 男と女、 むを罰とす

斯く して神 怒 ŋ 荒野 ^ د 投 げ 出 t n ŋ

男と女永久 をも うけて子々なへの命と楽園な 孫 \$ 4 ば くを増やせり。 は失いてやがて土に を増や 還れ ども、 子ら生ま n で 長 ľ

惑と 密事生まれ n ど 知 恵を 得 ŋ l 純真無垢なら Ŧ, n ばす ť, わ t 欲 より虚言を発し、 斯 く l て疑

ざわ 惑と密事を旨とす人 い》となり Ŕ の 間 《はざま》 に 7 は 嫉 妬 の 情生まれ、 遂にはおぞましき禍

人々、互いをは恐れれ禍を恐れたる人々、も ι 7 知 / 恵を手 iz 恨平和 入 れ l ての 、人と 人々 の 6人、家と家、:(掟をば作り、) 世は 不 和 のうち 村 破 とり に 村たれ 過ぎ が諍い tz ŋ けり。ましき制裁を加えた

ح 人 に 知 恵を 与え l 天 使長 ル シ フ エ ル ح 同 胞 ŝ か、 tz る 力 工 ル 1,

七十二柱 んとす 持て いに る程なり ti ح 1 れを ľ X2 Ŋ 打ち れど、ミカエル、天うふたはしら》の悪 倒 Ĺ 深き地 の牢獄へ 界の宝物庫より授けられた魔従えし天使長ルシフェ 幽 閉 **《とざ》** ι tz りしル の ル 勢 シい フ た エる いをも貫

創

シ 12 Ġ n た緋 \sim ŋ 7 ン ŀ に 包 まれ tz. 人 影が、 駱駝 《らくだ》 を ι, 才 P

をい 明 1 取 ゃ ŋ 正 んしさ 囲 t. 確 ţ 冬 12 誇 う は 12 っ 12 前 街 え に G は 風 れ街 に舞 tz 木々なた っ tz は 砂 7 l にのき 視 大 半 所 ががど う ^ 1 べ ŧ \forall ぎ倒ろ いた さう n · 、砂 か 漠 か つ の黄砂を 7 宝 石 防 の ţ ぐ う為 lz

人 か、 ら鼻 影 間 İİ かの上部の上部面 Ţ ŋ 光 るま 12 敷 で z かた IZ. 覆 n 刻 te li つ # tc 石 布 畳 n tz ځ ح 記 た現しぐ 憶 か る \$ しり 頼 'n 1 ۲ 破がし に界 tz Ġ + へつばと帯の、近られてい 力強さを 造保 っつな か たい 瞳た G でい 四 か身 方を に体 もか 頑ら 見 渡 丈 砂 そう す tì る 帽

酸を 嵐 か \$ のる 銳 わ ず 1, 眼か は の 逃時 さ間 なに かっそ か、 l tz 壊さ 1 tz 石 の 家屋 そこ l に かゞ

かっ たかそ

۳ う から老が 'n 男 Ġ l * 旅 装束に 包ま n tz. 人 影は布越 L に L ゎ が n tz 声で 呟 つ ゃ

気 事実、 ti はい 近 か付 け 繁近かえ 街付ば Ì っほ どう展 墟 ۳, がに辿り 進と遺骸 ^着くと 人 の と、老いた男はなる巨大な墓場との活気が増えてい どい っ l te 7 盛 況 ١, るの は や人

括 珀 て以の 足を 色 前 ŋ の 付 止 液 け 賑 め 7 冬 ゃ 体 た駱駝 内 tj. 12 流 《スズ》 \$ し込ん 繋 ι, tż で ح tž 中 tz ر د د 場所 鉛 で 入り、 出 来た 携帯 F用水筒《スキッ. 堡《さじん》除け 甪 ١ の 比 布を取 較 化 ル **>** 的 بح 損 手り 傷 に払 の l うと 少 ti 7 蓋を ١, ベ ル 空 家 H ト の

ح か かわ の G ず 12 近 彼 づく が 素 、人が居 面 同 然 tz てい 1 G ح ば ح z 驚 の 配い体 とた中 はにか 違 ι, 1 う 鼻を 刺 す *t*, ア コ ル 臭に

の 雑 面 12 荒 İİ G さに れ覆 わ n は ŋ 7 いれで < ついる ŧ tj. の が 死 G 年 骸 が 転 かぎ る 思 室内 Ź ね で見極 生気 \$ 放 め る っ 7 1, る の 銳 利 1 囯

p Ġ 生き 残 ŋ は 在 G Ţ , j Ű ゃ が : : から K)

ひを帯び tz いう tz 男 ١, は 光 を駝 放 مخ 繋ぐ際 つ 石 \$ 十 にぬ 個 7 B の 背中から ۳ 取 ŋ 出 取 す か出した、わ ح 砂 12 まみさ 1 n ょ袋から、 tz テ 1 ブ ル そ مخ n 振 ぞ ŋ n 払に 様々 ι, な色 ば G

石だ 7 n っつ II た鈍 . , だ綺麗 ` ti 男がテ 1 放 ブっ ルて のい 石にが 手をそ かれ ざにしし 7 ŧ 何 の 役 に 立 5 4 う に ŧ *t*j` 1, tz tž の

生命 Ď 樹 **令**セ フ 1 U ŀ \forall ţ ŋ 放 つ 天 界 の 光 Ţ 脈 打 つ 鼓 動 の在 処 $\widehat{\hat{b}}$ ŋ かゝ ŧ 我 に

ح 石 ż う で に つ 広な玉 がが石 っれは 7 行 淡く * い輝 半い ゃ 円て が 形宙 7 のに 消 光浮 滅 が * ι 7 の船玉の tz 石よう り発生し、こりな多角形をは そ描 のい 光て は中特 15 の に法 街 則 全で 体互 をい

位 す は 生 の <u>*</u> 確 広 残 が ່ງ っ 会……ん がて お く最中 る ようじ ? どう ゃ p Ġ ح 目 地 の 冬 下 気 光 5 の 配 ţ はせ ·····子 うじ 暫 ゃ く供か ? G ≥ ∀ こ く かし 5 7 遠か 4 6 1 ι, 1

ح t う _ 人 **₹** 円 形 光 ح 共 に 輝きを 失 tz 石を n tz ţ

12 建 後 す

物 は が ŋ 存 在 tì 12 l か 前 通い 7 っ ŋ tz 訪 ι, たにれ こ違 tz 会 土 ī 2 11 がな地老 いのい 信 記 ľ tz 教会の存在 憶が Ġ 男 n がに 無 1 H 駝 1, IJ n \$ し た ど ば 連 に 彼 n 崩 で でて 朋壊し あろ す到 着す G た、石塊のう場所は 7 のる 場所 ŧ で ` が 長 の 山一と見 教 < 会 は 1 L でか らって たちる から け ح 1 たで認 11 識 っ 7 すた ح 3 12 2

ح ľ ゃ 1

製 7 う の 杖 言う 八を取り 出 老 l ι, tz 7 男 のは 杖 再 をび 振駱 り駝 かざ 背中 l たか G 今 度 は 取っ 手 の 先 媏 に 大きな 水 の 付 1, tz

の 沿 一うの解 ح 分 間 1 に 横 水 っ 晶 7 tz 消 わ の Ź 杖 る 石 7 かぎ ι, 輝 の っ 残き 、老 tz 骸 が 砂い となり 9 0 五 7 っ 0 7 砂い はる 宙場 に所 舞か 11 6 • 教 町 会 にの 吹あ きす る一点 さん 12 で向 いか るう 砂道

の光現こう のをれし 先頼 たて 続い v to 7 男 水 が 晶 消 12 ż 手 tz を添え \sim てよ 何 っ p 7 ら小 行 出 来た < * く詠 道 の先を進ん 唱す る ح 今度 で ١, は < 水 ح 晶 かぎ 地 光 z \sim 放と 5 続 始く め階

ťž っ 階 た段 地に 下老 室い o t 小 男 部は 屋地 で下 老 人と が光 るで 水 晶 Ł か ま. L 7 囯 12 l tz 光景は お ŧ l 1, ŧ の

参さら \overline{z} を数 上 一半身 n 切 + it 🗡 りの さ 酷 は 裂累 いれないに か々 n る 分 喰い あい 死 大 3 3 勢 t 死い うぎら 体 で 体 はと 隐 Ó 様 n 火し n 7 tz 事 tz 相 11 の死 か tz 生 後骸 の t 4 Ţ が が う な地 l う ľ くに い下 に室 ゃ 消 らが 鼻を 失 もを l 関 埋 7 つ わ め ゴむくい 5 3 "ح 血る ず か ι, の 焼の の 匀地 け Ţ うい 上 焦 う かゞ 12 げに 部吹 て横 き荒 屋 おた \$ りわ 充れ ŋ 满 る ŧ たあ 砂 L 嵐 あ 7 る る死 ι, に た晒 死体 体は

tz 老 方 人 向 言葉を ら血 بح مخ ŋ 流向 l < L ح tz 瞬間 う つ 背 伏 後 か、 死 G 体 切 tì のい ŋ 山 つ て付 の --け G 角 n 7 n か tz はい Ġ ガ į サ 祭 ソ ッ 服 <u>چ</u> ح 纏何 っか たが 聖動 職 く 杳 者 と が おし I to l き男

お 7 ラテ う 1 ヌ ス ţ h なせ 形に で 再 숲 す ۲ ŧ tž 若 1, の 12 の う 惜 L ι, 奴 をな

ż か ŋ 4 ۲ В は 異な 1 がー ・ら老人 る Œ h が ゃ 囯 ŋ ح 冬 凝 l tz G 光 す ٤, が 浮 絶命 か び 上 l tz が 司 っ 祭の 7 お 亡骸に抱 ŋ 抱 * っ か < n 少年 る ţ う ۲ 思 ĺ して l *****

tz 在 か G 姿を 消 す 光 神 御 加 護 か、 そ う 1, Ż ば 司 祭 に は 子 供 が 出 来た ح

ح 人 は鈍い光を 放 つその場所 ^ と歩を進め

1 ッ 屋 の か、 Ġ か、 の起き 上 l 一がると、 光 ح 小鳥のさえずりで目を覚まし、 少年は気だるそう 12 粗 末

わ っ

ح メオ 末な ンの 肌 一日が 着姿 で 始まる 大 八き くあ くびを ĺ l ばらく l 7 からそそくさと着替えを 始 め tz

つ 眠シ 1 りま ι, *t*, ځ ŧ ح す ŋ 1 か Ġ 簡素な 木作 ŋ の Ē Ź-開 ι, 7 家を出る 空を見上 げ る ح

日 ない 陽い の天 tž

爽 ゃ か で 眠 気 を ŧ l シ ン は 满 足 7 う 望 す

n tz tz 周 道 囲 ι, < に 12 つ 沿 は 見 ŧ っ 7 の 渡 商 す 点 店 4 IZ ح ŋ 大 民 の い工名な 家 畑 が ゃ ど 位 草 の 置 原 職 l 人てそ ` ' ' しょ 酒屋等か る てオ 。遠く Ġ に £., 成 は る 馬 る村 村に車に の唯 や辺 中一人々り 地教の一 が会歩み ` さ にる < 7 1 の っ っ近て te < 生 。にみ 集 ŧ

の小シ 屋 X の 才 扉を ンは 空け 家 か G 瞬間 程 ti 12 朝 小 z 屋 ~ ۲ l tz 向 数 か 八十羽 の 鶏達 は tz ŧ l 叫 び声 ź 上 IF は

う。

屝 鶏 外 達 12 設置 が 餌 7 12 群れ がたた っ 栅 てで い囲 るま 胃 n にた庭察知 \sim ح 我 先 12 飛び 出 l てけ ١, くた。ま シ メく 才 ン は 庭 に 餌 \$ ľ 撒 < め

_ ち ょ っ とごめ h ţ _

た籠言 てかりな 中へと 鶏 小 かぎ 屋 に れ入 ŋ 込 ょみ う に小 気 屋 をに 1, 1, 羊なた が G の 詰 + め か 込ん Ġ 素 で 单 < 卵を < 探 l 出 l 7 持 っ 7

の 為 続 にい 設 改けた窓を 明 は卵 け 鶏 小割 慣 屋 のな n 隣 tz 手 12 5 ŧ 置 で l 7 乳 \$ ι, 搾 る ŋ 始 小 め 屋 12 る λ り、背 文い IJ ど の 高 さ に あ る 採

に 入る あ っ ح _ た籠を持 る 時 馬 間 小 ほけ 屋 ۳, っ羊 ر ک で 7 乳 数 教 の 入十 会の 入 ŋ 頭 っ の 羊 あた 馬 る _ 12 か つの 方 餇 G 向 1 乳 ~ vD 大 葉を E ***** 与え っな ŋ < 甕 ż ŋ ^ ح か 小た め 屋 シ \forall の X E 外 オ iz 置 ン Ô 連れ ***** は \forall 出 仕 7 に l 切 ι, 先 簡 ŋ 壁を (£ 素な < ۳ 拾荷挟 い馬 h 上車 で げを羊 た取小 ŋ 鶏 屋 卵付の 隣 のけ

の 土 の 街 か 側 12 G 路 位や 置 っ l 7 ば l 7 来る G ι, < た太陽 小さ 歩き、 1 が 教 神 会近 父 か、 11 \(\frac{1}{2}\) 1 駐 り高 にあ 在 l る 7 < まパ お らず、こ ン屋 で 登っ ^ てシ 祝 祭日 い た X 才 ンやい手 か 村 人 到 が 着 亡 ī tz < tì 時 に っ is to 際だ ` 早 け 朝 谏 地

っ お は Ţ うござ ι, す シ X 才 シ で す 3 ル 7 持 5 7 * ŧ l tz

を店 シ 4 ۲ X 内 才 ۲ っ ン tz 運 が び 人 į٨ の \$ 善さそ 4 * 1 う が 1 1 G 大 っ 中年 7 ***** ti 置 'n 。声で 店 1, 7 主 あ が叫 現 る h 甕 れで を tz か Ġ 31 l * シ 取る メば G 才 ンく は経 手際 į ` く扉 きが 開 ル クい のて 入中 っか to b 甕

n お つ のパに ン 4 1 ズ の サ ビ ス l 7 お tz 1

シ X ح ح か ŧ 千 1 7 n にい 銀 貨 _ 枚と 銅 貨数枚

ン 屋 の h

っ 7 \$ 出 る とお 才 次 12 でパー ン屋 か G 数 件 先 に あ る 雑貨店 の 扉を叩

ŧ す シ X ン す。 持 つ 7 きま l tz

っ人 が 7 tz

ン の の 入婦 tz 籠 冬 渡 す ح 彼 女 は そ n か ら店に 置 ι, 7 あ る λ n 物 に l

ぐ張 にっ くね

シ X で 才 ンに の の \$ はで 去 彼偉 っ をい 7 産わ ι, んね tz で。 す頑 せて 1, i ŋ 父 ŧ **二** 年ほ ۳, 前 シ X 才 ン かぎ の 時 に 旈

ŋ かゞ ۲ う 、お 取ば あ たさん メ <u></u>

8 振 貨 数 ŋ 返 枚 \$ 受け つ 才 ン は 馬 Ł 連 n 7 家 ^ ح 帰 ŋ 1 が 父 ŧ 失 つ 7 か、 G の 数 年

7 大 ŧ ι, で 丈 ح 夫 ح 同 ŧ ぐ ľ Ţ う 11 は 出 は 行僕 か る 12 さ な仕 いけ 事 の れや ど、方 村 ž-の教 人え 達もく 助れ t to 7 ° くそ れり てゃ い人 る手 l t 足 自 ŋ 分な - < 人な ŧ 養て 7

3 ^ < ル 7 を温た め シ X 卵 才 \$ ン 焼 は * 打 商 店 で ح 受 け l っ Ł ンて . か 1 "ح てズに と火 £-沢初にお 食事を l す取 ŋ H 7

tž 空腹 シ が なを満た 決オい して広 つ **‡** で l tz び ŧ 家を < 食後 つ 後 ろ の ただいひ l で ح てい時 る İİ b 今 度け シ にメ は 自はオ取炭 Ġ ι, ン のかにた使 畑なとパっ \sim ι, っ 0 7 ح 仕起チー 出 事は け るまか tž G 山め 残 7 っの てく つ るろ ぎ

はメ < 1 か っ

ン 畑い畑 tž \$-ゃ 維 の 持 正 麦と す確 3 12 言え の を比が 見較難 ば て的し 元 回手く 4 るの なは か っ広 作かてく しそ **\$** 2 育いってなた収 種 た穫 類 めす ` る の 果 畑 麦 E 樹 の 面主 対 植 積な を収 法た 縮穫 はの小と 父だしし 7 7 自い 分た がの 一だが に ` 必 父 要なの死

n 作 物 7 のけ 育ち tz 具 物ら のな 方 ゃ 害 虫 ^ のを 処え か、 4 ŋ ح įλ

 \bar{z} っ の 木 は ح + で * う 1 Ţ 異 常 l

Ł っ < や 度 ŋ ح l は 羊を 畑 縮 の 連 具 l n 合 ても見も 7 余 っ草てす らた地回れ 畑 \sim っぱ ح て収 牧草 か穫 向 から で地う 頷 0 * シ オたメシだ の 才 X tž 才 ン っはン た父は が再 せびし く小 な屋 って て鶏な かと 5 馬 数にと 食一 頭 だ事 っき た与 羊え

草 シ ź X 食 才 増 ~ ン 始 が め 器 用 る に小 指 笛 \$ 鳴 す ٤ ٤ 今 **‡** シと メし ン の 後 \$ 行 進 l 7 ι, た羊達 思 ι, ι, ĸ

う の っ 7 tz 9 ŋ 日 ح が 流 沈 れむ るま そ時で 間 の が間 がな好放 き牧 だが っ続 to 3 の tž が シ X 才 ン は 草 地 12 横 tz ゎ ŋ 1 が 過ご

の \$ う 少 l 増 や ì なか 、 ら う そ z n うな 5 と牧し て犬 る手 とに `入 第な 太や 陽な

X ン 7 tì 事 すを考え < ح いを 次れ にき が * め 空 が 才

X 才 ح ン にが 集 物 į 憂 っげ てに < ŧ る う _ 度指笛 Ł 吹 ح tz 方 に 散 ば 7

の \$ \$ 与し えた 7 シ 家义 ヘオ とン 帰は ŋ ` t 仕と 事を 無を 事ひ にき 勤か めえ te l 達成感を 感小 じ屋 なに が戻 G l

7 腹 12 1 っ tz シ X 才 ン は 自 G の 瞼 **^** J: *†*z ≫ が 重く 1 ŋ つ つ あ る

゜しを ح ŋ 这も う ۲ l tz が ţ ţ っ ح 思 ι, と ど ま り、 V ざまづ 1,

天「て感じ 習く私め脱 っ恵が祈 たみ今りべ 祈を日をり をに目げへ 済ませて、降らせ給-べわれ ッら た 事を 入と感 を謝 *i*≥ '' tz ŧ ず。 わ く ば 明 日 ŧ あ なた か

ドん にこ ŋ h tž シ メ 才 ン は 意識を 失 1, らぼ

ぐ僕まと街人んらはれ戦がそや子 しからはれれる。、、は、上手で大きない村るう全かり供で上手で、 オだか 前こ滅いとの成のを にとしゃ考時す神握り なら 出起がた こ出っ今るに如 る っ来て人 とたる 昔 間 なっん父達 んてださを ていっん魔 なうたが物 っ言が い魔 し物けっ襲 ことなてつ この ۰ たて ん大だない · 7 な戦け このど神七 と時 様 をに預か八 言ら年 ŧ こ者 預く ١, こも言ら 者い す は悪 被害もの力に の ŧ 眠一見をは りつた与 こえ辺 に受 ら境 つけと くなもれに 前かなたあ のっい人る おたしだオ 祈ら、けア りし僕 がシ のいが悪ススの 生魔の 悪ス

は らに ŋ に思 つい いか たけ のね だ波 っ乱 た。運命 待 つ 7 ι, う ح は 露 (Ē 知 る ح <

1 しっ 何 tż ŗ うるさいな

ľ 心地よい眠りはど真夜中、いつよ 11 2 断もな なら い切 られ 静 れかたに 寝静まっ 7 ι, る筈の 家畜 のあ け たたまし ι, 鳴き声に シ X 才 ン の

明るい。 不機嫌そう に 重 tz 瞼をこ す ŋ *t*j` が ら窓の外を見 ゃ る \mathcal{Z}_{h} か夜に して は

周囲に左 早く玄関 異常な事態は のの扉を ţ 込め 開 る 煙 け の てに 外シメ お陰 で 眺才 めンるの 建 物 近辺 と眠 気 教会や の様子 \$ 吹 * 商店 はよ のあた < 見 え 5 5 tì 村 l の中 ι, 1, 央が 慌 7 炎と 7 着替え 煙に包ま 冬 済 れま 7 l ι, る

「火事だ !

事が危機にさらさ 相互扶 助の 同 れ体 やいなや、後先も考えずれることを意味する。龀 غ l て成 り左 つ 村 に 街お 全速力で なべ も街が 配だだ なる ح は 自分達の 生活

X 才 ン 11 叫 Ĵ. ゃ 後先も考えず で 火 事の 現場へ ح 走 出

**

シ

いシ 山メ をン 奁 が ったて い駆け 出 した そ の 時 で あ る、 <u>_</u> つ の 人 影 が シ X 才 ン の 住 ť. 村 \sim ۲ 通じ る

O ししじ ン と通 スよ、もう夜 ľ る最短の ŧ 通更 り道 ک ر is s 11 0 えた 、馬も が 馬も通れぬ 道、よくぞここまできれば村が見えるは 碩 ず 張じ っゃ tz ŧ の

皺に 囲ま か بح n た水晶 tz 暗闇 6を照らす力にの木杖と、ご ٤ 滅 強 V ι, 眼去 は つ tz 才 < P かシ ぶス っ の た街 帽に 子 現 n の tz 下 か時 ŗ G りは 危険 な夜 幾分 旅 の < 道刻 連 ŧ nn 12 to

Ī 1, バ 73 7

かな顔左ちをし D 1 レ ンスと tz 少年 う 名 İ の 丁 水 重 晶 エに答え の 光を た反。射 射 l 7 暗 闇 に 映 Ż る 純 白 の 僧 衣を纏 う、 美 清

反応 「ようや が弱 く見 かったよう つけ たぞ、 Ű 40 か[、] 『無原罪の 辿り着く 御宿り 村 つのどこ か、 に ι, ۳ るぞ う ゃ 年 が 1, tz め ľ ゃ ろう、

バ 蒸留酒 ハク っけ で クと呼ば 、延二々 ≈ Z バ村人 ح ピばれ か は続 襲わ シ ι, X 7 y to 才 ツ》の入った携帯用 n ١, 緋色の た登り道が下 7 ン お が るわ 囯 マン 12 l tz トと旅装束を身に ゃ の ŋ ح 12 は 水筒 寸 変わる山道 奴 分 等も 違わ 《スキ 居 ね 炎上 ・・けけ 場所 の分岐点に 一する村 \$ tz ル いい手を 男が で の 到 O 達 はい中 2すると同 tz Ń 掛 か 地 けン بح たス そに 遠 の 時 目にした 時を で掛 あけ る

17 7 7 U ŋ 1, の 時 会

ブ を予感 L tz 次 の 瞬 間 で あ

界 の Ţ 1 翼を Ź え

る 「馬 白 \checkmark ١, 口天 僧衣を の儀 あ 鹿 く 1 の忌まれるを羽 ヘシン 弘法を ス l わ 教 手 の の ハえし の ţ 山 tz 戦 頂 1, う l の 記 カ ľ か , は間 憶 ŧ は G が 把 tz 煙 から 違 囯 握 め ح 筧 か 炎に l ľ め 7 せ n ゃ 7 飛 包 ι, tz っしないとかっと 翔 ŧ す n tz る ۲ : tz ι, 7 村 ح かう の の ŧ : Ċ Ó 様 方 12 に 角 İİ そ 露 ゃ ^ の 骨に まさ と姿 は さに翼を持て直線に飛 ŋ 飛び込ん あ ゃ つ に で **一** つ天 び浮 いく奴 去 * 命の 使そ tc. 上 が の ŋ ども 月 ح の 夜 セ にだ にく フ お っ輝間 1 t: くに O

7 う愚痴た 山 中を 信 ľ バ n 7 7 1 ι, は 速 さ 何 でかい 霊妙 駆 it かな言 下 ŋ 葉を 7 ι, 呟くと っ tz 度 12 数十 步 の 距 離 を 跳 躍 1 が

えさ ず、 生存 る せ 4 有無も 焔 我 夢中 ٦ آ はっ の で お 村 ***** \forall の tž + ŋ 211 0 ح した地 0 に 1 い燻駆 ざ H れっ け る 煙た のシ 為 X 才 十歩先で ンを 待 す っ 7 Ġ 容 1, 易 tz 12 の 見 は 通 轟 す 杳 ح ح ح 共 がに

「 ど う す ŋ 40 h tż : __

顏貌 メ 才 が ン 火 ţ は す <u>ن</u> د しば るど l ろ 1, 左 一ち尽く tz. か 火の 、して いを た押 がし • 留 やめ がる 7 3 燃える、 建近 付 物 Ł < 取 ح h e 巻く す G 煙絕 の隙 1 間 上火 ŋ 災 の 誰前 かで のシ

「パン屋 さん で す か、 大 丈 夫 で す か !

片方 黒煙よ iz れだ 黒 影 の ح 肘を の 察 ŋ ŧ 現 ĺ 突き出 tz n ح シメ tz \sim ۲ 面 オン 救 容 す ょう 助 が İİ 12 駆 12 朝 け l は 3 7 寄 G ル 5 は 7 もう を届 G tz l なげ 片 がパ 方 らン の 大声をサ 腕 で でー そ の叫じ 肘びス Ł l 立て 固 定ち ŧ 边ら l てめっ 煙る tz 煙馴 か、 染み Ġ の 中、 身 ŧ の 鼻パ 守 腔 ン ŋ の前屋の

あ ح ろう t ι, tž . う 、 ぎら が か 黒煙 ح 人 n 型の tz 1, う 空 の É 12 先 怪 大 揺 物 で 1 で 'n シ 斧 あ る X が握ら ŋ 頭 才 部 ン が ŧ ح n 囯 う 7 片 7 12 方 の l たの手 生 tz 首 の にを は は片 そ方 恐怖 のの 血手に 塗ら握を を歪 れっ たスススのたい、人 だ間ン けの 屋 でをほ 一の主 人 メど ŧ 才 の ンあ 首 ほろう か G もか引

才 恐 ン 怖 を li 捉える シ X 才 ン の 瞳 かぎ 怪 物 の 禽 獣 の 如 き容 貌 に 視 線を 移 ĺ tz 時 怪 物 の 両 眼 ŧ シ

ゟ っ あっ \vdots

シ X 12 凍 才 ģ ン は驚愕 付 < ۲ 恐怖 12 ţ っ 7 小 さ < 震えなが . 6 ` まる で 金縛り 12 遭 つ tz か の Ţ う に 7

怪 に 物 の 7 は 怯える ź tz シ 上 げ をメ ロオ る にン 放の り姿 ・込むと ر د د 頭 蓋 皿の破砕音をでまるで子供! 一月に響かせなが がか 50 手によう しに てパ いク たッ 大と

う 囯 殺 t n 3

分 の 人 生 の 終 b ŋ 7 の 時 で あ る

n セ フ L 1 ι, ロト 声 ح \forall 同 ţ 時 ŋ に 周放を 八つ天 囲 が ま界し ばのた 雷 VD **≈** < 光 か、 る とず ₹ *\ _ 閃 の 不 稲 净 妻が を滅 振 ^ ŋ め 上 っ IŤ \forall たす 7 の 斧

巨 1 **\$** tc

t 12 < n す シ X 7 才 ン が ぞ 飛 来 l 水した 上彩 方 \$ たに帯 目び ŧ tz 向無 け数 る の と水泡 7 ۲ ح ts 9 12 は 7 月 光 の に存 白在 いを 失 僧 衣を つ

か せ + 空 に 漂 う 麗 **参うる** ゎ \forall l ١, 姿 が あ つ

_ こ こ か G 離 n Ţ 少年 _

はう 優 雅 っ す 12 5 地 ځ 面 で 12 降 は あ ŋ る 五 がっ ز ک かロ 1 はレ っン きス りは と凛 11 2 < L つた 6 12 の調 巨で 大シ なメ 影才 がン 浮に か呼 んび でか いけ るる 煙 の 12

ヵ っ は ι, つ \sqsubseteq

よう < 我 IZ 返 っ ことメ いオ ン こは Ż ず お ず けと 火 をに え たる あ建 物 はら 走り 預去

燃え こう る 家 l あ 7 4 n か 窮 が G 魔 地 7 z 物 う 脱 か、 遠くな l たシ いメ 木 才 う ン 4 のだ ح 蔭 っ は tz から が 今 7 元 自 ι, の tz 分 化 婸 \$ 救 所 物 \$ っ 振た 倒燃 僧 ŋ l 返衣 る の 少 の 年 人か 'n 安否 : が 気 言 に者 1 ! ? ŋ

す る ح 、先 程 の 少年 れじゃ多勢に無勢だ……4が大挙した骸骨達とな 対 時し 7 ι, る が 囯 12 λ っ tz

ι, < Ġ なん で ŧ あ n \vee

,る獣を たそ シ X の 才 掌から ンは 2 tz 'n 光 細 線 ι, 、気持ち か 飛 v 出 で 僧 l 衣 7 の n 少年の身を案じ は + 空に 舞 1, 上た がが る と次 四の 方 瞬 に間 散 らば ŋ の 少年 巨 大 が な振 直 直上上

7 神聖な 行 <u>`</u> るカ が 邪 1 * 物 に 作 用 L tz の tż ろう かゝ 瞬 < 間 12 怪 物 が 地 に 伏 \sim ح 帰 Ĺ

ĺ tz シメオ かゞ · , ンが 驚愕 1 レ ンス ح 姿を顕 共 か 12 落 凝 h t 視 12 着 l l ₹ te tz 間視も線 なく の先 煙 に ある の 中か シ Ġ X 先 オ 程 ン は、そ の 数 倍 の は 時軽 あ ろう `\ 安 か 堵 ح ι, の う屍の大の鬼をも

「くっ、食人鬼《オ・キが煙の中からそのや ガッを 召 喚する元を ! Š めり 1 !

こう言 tz 葉を 発 し
 た オ 0 1 1 レ ン ス の 肩 は 人 外断 o to 秘ね 儀ば \$ 連 続れ して たは たき かが 疲い 労で 肩 を せ

7 の 時 で あ 3 炎と _ 1 l

7 れそ ぞ の ١, tz n 梟 に異な <u>ू</u> 3. < ろう る 表情を変え、 う》のような顔ぬ人と煙の中も の貌 脱は一つ際巨大 体 躯 İİ 人 の 首に物 と も に三様に 鳥 ۲ ŧ 並 現 ι, べ Ż is to ね おど n ろ 7 お n ど ぞ 3 n L が 同 ι, 様 形 心態を成 ながら

1, つ が軍 团 \$ 統 る 切魔 物 か !

1 レ ンス が 2 う 言 1, る H ŧ 1 < の 三 の 17 炎 が 飛 V 出 す

炎 で人口 地 間 面 離 を抉 n l tz G n 跳 躍で U 1 U レ 1 ン レ ス ン の ス 周囲 11 7 の بح 取 攻そ り巻 撃を がいかっ てわ がい l ったたか 食 がら 人 た鬼 振 ^ ŋ 向 才 1 1 ガた 7 \forall と の ح 先 ŧ 12 には 草灼 木 がの

命を失 っ た 生 命 の 跡 がを残さ 1 ١, 恐ろ こしない 光 景 広 7 ι,

^つ ! あ の 炎 が 直擊 す n ば 間 違 < ゃ G n る ばれ! \vee

の U レ ン ス ŧ 自 G \$ ヤ せ は くい Ġ tì 1, かー 撃の 跡 tž っ スた

の ح 浴 三 の 梟 け の 顏 بح つの 魔死 入 は意識 のず 嘴に 5 l \forall O 1 レ ン \sim 超 高 熱 の 火

っ Ť 1 避 け る け 精 _ 杯 tż !

U ン ス の 身 の ح なだ l をで ŧ 凌駕 ^ ŋ ţ う が l Ţ う ح ι, う 三 つ の 12 かゞ 放 つ tz

ン ス が ゎ ۳, ι, ح ころ で か ゎ l tz 次 の 間 ťž っ tz

の えん

ť べ す がる D る 7 1 か ーレ ス 全 12 て角 夢中 を焼気 ځ き付 尽い 1 っ < t てすロ 自 高丨 5 熱レ の のン 炎はは 身 É 守 残自 (像を るこ と残失 ŧ し態 てに 忘 消叫 n 7 木 te të 蔭 O か 1 G V は ン 4 ス だを し通 たり抜 メけ

ン め っけ 線 に 進 Ň tž の で あ

っう わ 1

ス に瞬 で く さえ 間 12 シメ す の なは ι, 不能 測 包 のま 事れ 態た tž ح っ たれ は 先 程 自 由 自 在 12 秘 絎 z 操 つ 7 来 tz U 1 レ ン

: 死成 K の か tì ?

の 獄 火 の 炎が 炎 に 包 身 ŧ n 全て の < す 筧 یچ の失 - 7 ん瞬た がシ く限す 長は ŧ 感の ũ < ら意れ識 tz の + で 自 G 12 ŋ か H tz

ろ め う 12 何 か、 碩 ŧ ? ここま 張 出 ネな * か で っ体 tz なん たを : : : な。父 も、考え j さ ? 2 7 母 n 7 さ でみ : れが : ばせ び返死そ りぬれなのン の以 っ た死か外 7 何以に遠 ? 来、 ŧ \vee 来 無 7 我 い夢中 かで っ幕 たら んし じを や左 なて いる ti ti

である が名を である。何か れが名を呼べ れが名を呼べ っ、この声は 🗀 🦸 か 意識 の Ţ うにろ の 奥 底 自 らか で シ の メ人こ 生を 才 ン 12 振 呼 ŋ か H に行 < 自 に 疑 問 ځ 投 IF H tz

シ の 意識 の 中 に λ ŋ 込 h tž 異界 の ĺZ

「 え 13 6 ? Ľ.

を呼 ~

自ら の 周 囲 で ど こ ι, 7 * tz ĺΙ び シメ 才 ン に 語 け

僅何 të 2 の の声 中はな · · · · メが 名か ー らっか て響

か 1 意識 ゛で、シ 才 ン は 声 'n 疑 問 投 げ け tz

か 名 11 3 力 エ ル

7 っう? ? 声 tj. ざ る っ声 ては 応 Ź tz

へえ 3 カ ? \vee

っ tz 少 なエ いル 生命 のの 一節が が記 想に憶を 浮 拾 かい ん集 だめ。た ۲ ***** シ X 才 ン に 亡 より子守 ŋ

のか z n 7 tz 聖典

名 11 3 ル

深層意識 に もカ う エ _ 度 7 の 声 が ι, tz そ の シ X 才 ン は 自 G の 僅 か 1 意識 振 ŋ 絞 っ 7

_ 力 で

そ の 同 で 辟 あ ľ る 7 1 れシ給 まメえ でオ 雲 ン のにの b れを は天にて燃 け時も使羽いや ばたし 舞た空て かがい せ突た りた如凄 ŧ 振らがく全れじ * 業火 空 がが 象光消 徴をえ 放て つ たそ の 身 体 が 光 に

7 で しれ 7 7 7 Ĺ の 光 ŋ もか 美 白 姿 \$ 翼 \$ 背 `晴 る 7 の天 カ Ł l tz Ţ う 1 強 靭

n 3 工 ルな しが ゃ こい 少 つ 1

はレ ン そスは何 のがっ のカ Ź 上! げそ たれし にそでた 向の 具 にのの降 か年て っ輝 たく _ <u>`</u> 振 ŋ の 剣 \$ 手 に 取 っ tz H

t, る ŧ 鬼 達 7 平 *

面 る Ţ \sim ۲ う に先 lh たか 真空の一 刃はオの刃 巨大ないが飛び 泉を群し 切れ、 は、まる ŋ 裂き、 そでさ の氷ら 胴がに 体真眩 は夏い 下半太が 陽 前 身 との方 分離で表で し瞬 っ 7 4 7 水間い 平にく に溶 地け

シ X か ι 才 たン · R の わ っ 7 ι, tz 焼 け 付 焔 は、 そ の せ ι, で 囯 標 の 遥 か 手 地 面 \$ 焼

tz 天 彷 界 徨 の重さ Ó lt t だう が骸 か尽き tz で れシ 消 メ滅 才 さ ン せ とが ` 昏日 シしレ メたン 瞬ス 間が 姿を消し した焔 の 悪魔を ーカ 両 断 に l

7 自 7 ζ っがのた抱重 抱き かかで か 地 える 12 叩きつ け Ġ n よう l tz 才 ン tż っ tz が そ の 時村 12 到 着し

tz

バ

か、 1

X 才 自 Ġ 背中を 抱 く 暖 か、 ١, 腕 の 感 触に 包 ŧ n *t*j` かぎ 意 識 ~ 失 っ tz

・ ロ シ 助 メー V ンンンは スは自んのか え止 ための バを ハクす ク の はじ ロや 1 ! \sqsubseteq

抱 レ ン ス に 막

承 知 っす !

そう tz 応 は別がれるた 焔 U ٤ ١ だ吐し スは 素 单 Ź 今や上半身だ 貫く け に 1 っ tz 怪 物 に 掌を か ざ ĺ 7 か、

常 怪 物 人光 っは での つ かい tz の 胃 のけくン たす。 ち気化 らまわったなりを失ってよ 後しま 絶い 命か ね l 1 霧い o t よう うにそ のわ 姿をい 失いび 声を tz 上 げ た炎

11 あ

12 0 レ ン ス ハがー 生 死 はを 賭 け tz 戦 ι, 冬 生き延び た こ ح 12 IJ っ ح 溜息を つ ι, tz 時、 シ X 才 ンを

tz バ クク

っ : 半 生に渡る 努力の 1, ! 『無原罪 応報を実感し の御宿 7 ŋ た <u>-</u> じ ゃ

の

Ż te L 傷跡 \$ 残 した 村 の片 隅 で シ X 才 ン Ł 抱きか か Ż る バ 11 7 7 に U 1

語 目を ŋ か け ľ つ 7 7 る お かる *t*, か 吐 息を 多分 左 3 てカ る 工 シル X £ 召 才 ン喚 に l 眼た 差の しは を初 向め 7 け tž *t*j` がっ 6 t の バじ ゃ 11 7 7 無 は 理 U ŧ 1 1 レい ン \sqsubseteq ス

で は 3 の の年 世が

う ľ ゃ ح _

輝ってる 1 こい レ 姿んれたス の ハしが確 認 に界 にバ ハニー ク人 返ら l た無 そ原 の罪 時の をで御 巻あ宿 るり 燃 — え じ 続 だけ る 家屋 ح 煙 の 上 12

7 空 F. く の 空 胃 か 渦 * した の

バも 堕閉 フ エ かル の! ?

7 ~ 渦 す

呼の 7 ん周 のう tž 囲 容 存在は にに左 よ 照 右 カクのかけに 0 6 うされてい 7 無 明 バいの微れに天 光ぞ呼ルさりと にれ応シれがお 化包六寸 しま枚る てれ いて あ わよ tov たせう にてに ŧ + **二** の 関 わ枚中 の心 G ず、翼をより そ背 のに何 バ纏か ハいが ク眩光 クく臨 が輝 ルいる シィ フぃ エた ルが

ŋ を居 え所 なを が掴 らん で クか **7** :

۲

ح

げ

シャ シャ メは tz 才 ン 抱場 ハた闇 は 痛 恨 の 表 情 で 闇 Ţ ŋ 君 臨 L tz 邪 z 統 べ る 王 ŧ 見 上

る よう 7 堕 の 天 な瞳ル 恐 をシ 見つ につエ 陥 れたも た時バ 73 そ ク のク 奥にあ る 留 暗 め 閣は大 賢者 の 瞳 İİ バ 71 り輝 クをに 包 ŧ ŧ 地 獄 n のて 奧底 ι, tz 12 かゞ 31 きバ įλ 73 7 1 7

堕天 ちがいお そハ前 は 確 か、 大 りス時 の こる小 中僧 ŧ * 呼て びい 掛た けと るは

7 1 の に 声 1 G 声を

っそ っ ぞ 1 お っ た

クバいバロハそ う皮 肉を よに返 浮しあり きたのと バ時口 てハく にわいクたレ戦 クばンの この と 額 か Ġ , ,, 今 į で 一度からだ生 tz 付り いと たも 囯 l tz ح の 1, 冷

7 7 ンの ス額 ンの出 口私叫りる カを ルロ の 1 レ ン ス は気気

1 レ J: 12 3 工 使 ι, 手を 安全な 場所 に 移 l 7 < n

7 クが D レ ス

つ か っ ŧ

ハえハ 7 7 の 示 12 対! l 7 1 レ戦 ンド スま はす 反! 駁 一 ÎÌ h ば く ※ l tz. të が l か l 7 の 瞬 間 バ

71 天ク は

堕 相 手 ح あ は 今 の お 主 は 役 左 tz ず ころ か tz tż の 足 枷 言う ح お ŋ 12 h

の 多 いりに ン ス 怒 ح 眼 前 12 浮遊 す る 今まで 戦 つ tz 敵 ح 比 較 12 1 IJ ۳, 威 圧

っ はロ っレ

無 能 12 J. ! がー ι, 1 さ を 感じ 1 か G 素早く シ X 才 ン 冬 受け 取 ŋ 人 外 の 秘 で 7

tz

の ι, 手を 退か せ tz. か

ル 声 1 Ŧ. る 声 かゞ バ 11 7 7 12

ゃ

ゃ か バ 7 の ځ

1 ۲ を **が** ー

ル シ フ 工 の 輝 * 増 ì n 12 従 っ 7 そ の 周 囲 Ł 取 ŋ 闇 ŧ 広 が 7 1, <

7 j か 1 ?

バば うれた にクし ク ががそル 迸るに ι 7 ι, tz 杖 ځ か ざ す そ の 先 媏 の 水 晶 か は ル シ フ エ ル の 放 つ 闇 に 抗

光

tì

7 う 言 Ź う雅 ぐ

次 の 間 で あ発 るし ° tz 大ル 地シ 震フ がエ 起ル きが た片 か手 のを よ優 にに ル薙 シ フ エ ル z 中 \mathcal{Z}_{l} ح l tz 地 面 12 \mathcal{C} び 割 n かゞ

割 n の岩 石 にな はっ 先た 程大 ま 地 て が えき 上上 が が つっ 7 7 1, 1, tc <

シ フ の 工結 ル果 背 後と 燃 浮 家 4 の 砕 H 散 つ tz 残 骸 が l 7 ι, る

お つ \sqsubseteq

石「ベル ハお 7 7 いは 7 う 叫 び 1 が 白 Ġ の 体 宙 12 か、 せ 7 ι, tz 7 の 身 体 ż 包 4 込 ť 光 が 岩

石 弾 命い のて る

 $\overline{}$ 生 樹 セ 放 つ 天 光 聖 tì 矢 ح 1 ŋ を滅 !

巨バ \$ 描 大ハ いなり 光ク あ のが 5 刃 l ND かゞ ゃ る が 杖 方 n 向 の 声 か 水 z Ġ 光 か す G る 矢 ح ル シ 継 フ 先 ぎ れ工早程界 12 0 の 発し 対けさ 発 レ す ン 3 n ス 7 闇 がる ι, 梟 \$ 襲 < の 怪 う 直 物 線にて 的止邪 にめを あ刺す る l v to II I 其り 7 6 の更

ゟ゙゙゙ tž の 攻 擊 Ł 続 け ざ ŧ にが : なル G 7 る !

シ メれ 才 ンけて E 抱 Ź 遠 < か、 G 光 線 < 岩 石 の 為 を粉 庭 の 1 4 たに 鈍 ι, 光 が 無 数 に 輝 < 戦 ι, の

z 見 守 ŋ tì が G U 1 ス の 利 感

が子 ۰ ر 度どバか これし 7 ti かりが Ġ ` の そ放 U 1 つ 表た レ 情渾 ンレ スン の はの 驚 猛 期はが 待バ砕 い攻 たに はハ 摩り 埃ク じ勝 なず h あ いル のシぃ予 \forall ェの 霧 ル のが 身晴 体れ にて は間 - 6 つな のく 傷失 ŧ 意 付へ 11 2

ι, なだ ι, ろ の に身 様も 子 ŧ えら だフ

 \overline{z} の 程 か : :

7 う 呟 1, tz ル シ フ バ数エ ハのル 黒が クいこ 光の が世 発した 優 美さ で 片 手 Ł 振 ŋ 上 IF る ح 地 割 n \$ 起 l 7

tz 地 面 の 底 か G

ロバそ ハれ は 刃 ح 1 っ て無 7 \$ 襲 ι, ι, ح ŧ 簡 单 12 バ 11 7 7 の 結 界 破 ŋ そ の 貫

7 7 1

1 ン ス様 の 痛 ti 外外び で う ľ 7 ` が たっ 工 バル

7 生 かせ S: tz っ地 7 割 n の tz 子 がにの 吹辿中 き飛 びいバ 、たり頭がり 、遂に りりはか わはろ 傷 \forall にの な為 **為か楊力を失い** 巻を行い らいな 血 が地ら 滴に っ倒ル たれシ

の す のと は帽 ル!

U スら 愕ねい 表 で: シ フ 工 ル ځ 視 tz 時 ځ tz 輝 H る tz ル シ フ

ŧ ね ば 1 G K

ルる 依摘 然 気 冬 失 っ 7 ι, る シ X 才 ン ح 人 の 未来が ・終焉す る ح بح 筧 悟 l tz U

ン っ隠 わい 7 の 手 ż 振 ŋ 上 げ Ţ う ح l tz そ の時 で あ

: ŧ 7 :

う 残呻 < Ţ う に終て 言 ž を吐は 残を味屹いお 止わ立たら ヘバぬか 73 クク の 震え る 11 12 転 かゞ っ tz 帽 子を 掴 4 大 地 に

Ł ľ ti が G 7 の 身 ح 導く

\ (I j ŧ tż 生 の 苦 ĺ みを めっ 7 ι, tz のか

クル シ フ 工 ル は 自 の 動 作 水晶 杖 に 寄 ŋ か か、 る ح で ゃ つ ح 五 つ 7 ١, n バ

7 へ怜 ^ ŋ \forall で tì 線を 移 す

「……儂 で は制 主礼 をいら 滅 すこ はと は酷 出 来視 ì : : ľ ゃ かゞ `

こう 言 っ tz バお 11 7 7 の 朣 l か L 依 然 ح l 7 1, や寧ろ 先程 Ţ ŋ ŧ 強 ι, 光 \$ 7 1,

ح つ 引 Ż 12 相 応 の 傷を わ せ る ح ۲ ぐ G ι, は わ

! *

クク は 両 っ手 ! 12 我杖 4 我を天 天 とげ

۲" 1 l

令う 「 ズ バ 使 ハ に …これほどが姿を現っが》った? 詠 闇 た夜唱 か、 ح Ġ 同 0光が差し込れは命を捧ぐれて命を捧ぐれる。 んが 光を発 聖 なそなた るこ 輝か、 きら堕 放天 か たを G 白れ葬 te 9 ι, 翼 光 給 をがえ 身 宙っ るに纏っいましま tz 数孔 7 z の 天

人達 l

^ :: :: ۳, の 天 召 1 か 禁 断

発口 すー ことではした。 シ フ使 エ ル喚 ح た同 にが種 o t ` す時し るにか 召し 喚その のっ で身! あ体〉 るよ バり ハ紛 クれ ク も のな 身い を聖 1 る たオ 1 ラ Ł 周 囲

に \mathcal{U} 強 、感じ 同 者 案じ

t) ふっ 上天 使を感 _ 度 召喚 ۲ は ! さ せ X ! 出 で **t** セ 十二柱 € T

tì

ľ

う 位 悪 魔 達 Ţ ! \sqsubseteq

エル シ フ 工 ル が バ 7 7 の 出 l tz だ天 使 に 対 抗 す る 召 喚 の 言 葉を 唱 ż tz 7 の 瞬 間、 ル シ

れル の 周 ŋ 聖 る 光 線 囲 h

7 Ł ŧ l 上を 空 模かなハのの 様ら を見 描て いいが呼 てれ取び いばり る 2 7 と の に光 気が 付バ 11 11 たり だり ろが うう。ななで 秘 儀 冬 用 1, tz よう *t*, + の

点か G tj. かる っ幾 何 学

「 さ せ る ! \sqsubseteq

結 界 \$ ŋ **※**ぜら や バ くハ × 7 なり 界叫 なん どだ

_ ز h す **(**"

ル シ フな 工脆ル弱 の 掌 玉かいせ らじた のは 黒 通い 力光 をが結が と失わせる。ジ中空へ発し、 ` がそに れ取 がり 結 除 界い のて 頂く 点れ のる 数 12 -分 散 L バ 11 7 7

念 が įλ め G n tz 石 神 të

 $\overline{}$ あ n ば 十 分 1

ルバ ハ瞬 7 ルが に叫 総ん 攻だ 撃を 掛に る悪 魔 召 喚が 遅 n tz そ の 瞬 の 間 12 天 Ţ ŋ 召 n tz 天 使 逹

シ フ エ け

っ

る

ルく シ 逹 ル 時の に美 作し りい 出肉 し体 たを 光 瞬 のく ネ 間 ッに ト 小 がさ そな の闇 逃の 走球 を体 阻と 4 ti l ル ` シ包 フ囲 エか ルら はの 再 脱 び出 肉を 体試 ~ 4

う 使 達が یخ 煕 あ G L G VD) 大 る 気方 向 は 揺か 11 6 ` N 地シ はフ 鳴 エ 動ル しに 向 外け はて 夜 聖 になる 光を 関 わ 放 G つ ず 白 日そ の の Ţ 光 う は なル 光シ

にフ

があ

シ ル の ~ びあ 声 なっ か攻く ら差し なって ショも暫 ルし ののば < 止 ť ζ 7 2 いの ったな か tz 天 使達 の 攻 撃が

l ۲ 天使、 7 はの 体 İİ へ消 滅 l

伏 11 S 这集 l う tz l n 7 再 達 び 空 が 闇 ح 星の光 12 込む 覆 b れーェ た関 そ の光肉ら 時 の中 か、 Ġ ۲ 飛 < ŧ V 歫 去 五 7 l てい ***** ι, tz バ 最 ハ後 クの ク天 は使 地が

ロバ 71 7 ンス様

1 は 師 の ŧ ح ^ ۲ 駆 ŋ 抱 か か

: ロレ 1 レ ン ス ţ 儂 İ ŧ う 口死け ぬ寄 \sqsubseteq

, 11 7 7 は 肩 で 息 を l tì が Ġ 1 レ ン ス 12 語 ŋ か H る

7 んな…

っ とそバ は Ż バ 73 だり 2 いの 用 1, そ使とた 召 手口喚 が 震えていませい。 修はた へて者 連いに たし か る ح の 出 来 1,

代 償 す る 儀 ح う ح \$ 1

 $\overline{\vdots}$ ŧ 血早税 ルのく シ咳き力 工 くル の のい ż n 7 行 < の ľ つ

は 声 ĺΙ ١,

は「倒天バ せ使ハ んのクーとい の攻ク刻 じ撃 やは お 工吐 そ ル 50 < 肉 、三年を消 滅さ 経 tz ずせ l te 肉体ぎ 体 をぬ 癒 ι : 再力 びエ 小ル 僧で のな 命く \$ 7 狙は っル てシ くフ るエ じル

さろう ` _

ささ 三

「 そ の 時ま 一で年 に 修 道 院 で \neg 無 原 罪 の 御 宿 ŋ 冬 _ 人 前 の 救 世 主 ح l 7 育 7 上 IF る の ľ ゃ

ι, っな::は::

ヿ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゚ には 行い **2** 0 う!

た今 ゃ ح ١, う 師 の 葉に 対 l 7 O レ ン ス は 応 Ż 12 外 の 選 択 肢 Ł 持 tz 1 か

ルバ のハ 光ク 線りては カ っ命 飛び Ł 、使 そい の片 掌を集 めか るせ る ح ル シ フ

の 玉 石を ミそ残 カのり 工効少 ル の徒失生 ١, 手ての にい灯 渡た火 し玉念と くがも れ宙し :: : ? L 7 ζ の 杖 は お 主 が 黄っ 7 n ι,

ろ

う

ľ るよ う に身 バ分 八証 ク代 2 わ がり 言に 葉なな 呟る くじ · 4

の

見

ゃ

11 1,

ン ス 囲シ のメ 炎を 反を 射 送 しり 沈け いをみた 掛遅行ら けあ のと 1 11 自 にら 暖の 思 くう 口县 ŧ 12 生 ŧ Ţ

7 の II 周 く 9 焼 う か 1 レン ス を 照らす

主 の 望 みと ンは スい ハにん、 過酷 1 日 4 5 7 4 バて ハし 7 t う is to 息を引 きまは

に る レ 何 か、 言 葉を 言 H 7 つ

tz

道 II 平 坦だ つ tz で こぼ っ た n ŋ っ tc 9 周 囲が曇り 畑だ tż っ った り、風が tz ŋ 湖 が見 強 か えっ te te 9 9 た雨 、立ちなな 止た **‡** ŋ

ح ح tì < \mathcal{V} す G 進 4 け 7 来た 道

H ح 揺 放 n tz n る 馬 後 車 方 'n Ē 中 か D G ţ ŋ h M ゃ っ < ŋ 眺 ŋ め ح 7 いれたる 緩 1 山 道 の景色 シ X 才 は ガ 9

魔 に わ っれ 、多く が 牲 ح 1 っ 7 の 日 ぐ 12

貨屋 れた l 7 旅支 のだっ の老婦 度 11 った 整 用 人 意 \$ 7 初 l 1, tì め シ と か の メ し っ 人 tz 才 tz が ン の生 飼き 村 残 つ は てっ ず た一連の必 いたれた 戦 冬 の家 1, 預 かを \sim っ目 出 て撃 掛 < i け旅 れて ては るい い始 なだ住 tz お 民かた 達け 極 的 がで ,、馬 に 事 協 とだ カ 馬車たった l 7

後にベッ で …。そう こ ん の暮ら 行を *t*, ι, が 出 なことをふ 最 しの 発 ١, ۴ えずば眠 Ż 初 l 何 の 7 ے つ ŧ 内 と考えな tz か は けのは 旅 間 ŧ ががほ 懐 1, -愉 ۳, っ週 かし 間 tz G か ほど前 馬 < つ tz tz të p 1 tc. 羊達 を出 II H 7 元れ でどる 気以 ŧ の に外 そは ŧ l は n ح 7 ず もれ う 11 0 後 三が と馬車 る 戻 日初 ッ だろう ト ŋ ŧ め に 1 7 で l Ť る ささぐにの **‡** か の 寝泊 っ tz 十 で 家 で ŋ が続な 粒 Ò の ベ 不 ッ 1, 1, 玉 謹 てんだ 石に F p か 今ま .手を る ŧ 最

前方 で手 綱 冬 握る 僧 衣が \$ っシ たメ 白才 いン ロは 1 胸 レの ン 内スポ のケ 中 ź つ め る

わろ う か

n É た掛 にように け 7 Œ る h が 答え ゃ ŋ ۲ が 考え 1 事をし づ 7 ι, 1, 7 る O 1 ス の 横 頻を ١, 7 4 る ۲ 何 か に 気

4 \$ う 通じ わ 7 の D なって ι, ス 11 る ζ シ , , ح イオンを が あ っ 守ろう tz غ 周 囲 に 神 経を尖ら せ 7 ι, tz. が、 そ n で ι,

^亡く 1 っ tz た、あって の とを る の だ ろ う ?

シメ 瞳を 才 1, ン 起こ İİ 魔 た物 達に襲わ が ح 案じ れた で夜、遠の 7 片手を 挙げ2本 く意識 の 中 の 指 でか をロ 囯 12 ひに咥え、無骨だが が 優しそう ť

ピー ッ <u>۔</u> ک 笛 吹 < ح O 1 レ ン ス は ビ 7 ツ ۲ l 7 後 ろ ź 振 <

b ろ

O ン ス ι, H 12

つ ż

ず 12 O レ ン スは 聞 * 返 す

わ ろ う か ح 思っ て : ŧ う 何 時間 ŧ ず っ ح 走ら せ 7 ι, る か、

ま だ 丈 大で す。 D 大き手 で す ね

「 う ん 話を せ る す るん ۲ të. す るよ 幾ら で ŧ 1 音を 出 せ ŧ ŧ 遠 < に 1,

で っ ح 意気 に 1 っ 7 シ X 才 ン は応える

いは 日か べかと 12 で n 7 る う う tž 5 子 にで Ź け 囯 ば に 9 方ま す る で *t*j` 12 h ては 思 都 っ ľ て到 ŧ 着 出 1, 来る *t*, か っ で te L ţ Ţ う

つ tj. < シ 才 ン の 表 が 明 3 っ

え ż 到 着 ĺ tz G す ぐ 12 宿 \$ み探 かし けまく l ţ うた

1 レ ス 11 シ メ 才 ン 12 微 笑 び馬 の 杳 tž

ĺ ١, ロがン 言 少 ti がな U 1 しレ たン **一 ス** 生に 命対 l て再 会話 フを車 イ 続 口け揺 よれ う る っと 7 1 言たけ シ が メ響 もオ マ ン lt 7 3. ح

「 あ の 夜 1 レ ン ス D に の ^ セ \forall l か L

ح 声を か、 け tz

一 に は 起 7 村 これが っ ŧ 襲 tz で わ投 八不思議半ば無 れげ 7 バ な出意 1 11 7 にこった 来 事 に人は とじ 関 ŧ め l て質問として す避多 るけく のての はお村 ح り人 ` tc n がロち 初しが めレセ てンく だスな っの っ た操た っ夜 tz の 秘 出 術来 事 10 シに メっ オい ンて

は 聖典 す

たに一 _ ゃ シか 生命 tž G つい 生 け ぱ شخ Ó ŋ 命 死ん言 の人 ^ かゞ セ だ母で ルフ ^ セ シ 1 ž フ フ O ŀ 1 工 h ロル \forall か の誘 بح ŀ 植聞 \forall z 惑 えい 取でてた 知 ŋ ح 恵 上 11 2 げ ≈ ÿ つが あ 7 もる l 1 . * 神。様人 ŧ っ の やが tz 樹天始 h 使め の tž 実を つ 7 食 助 ŧ it h ~ 7 出 tz 来る l ح **‡** * う Ţ う 神 ۲ に様 l は 様 7 はい園

X ン は 頷 う tj. づ **≫ 〈**

7 の Ţ う 印 ż で っ た l そ tz l で 7 す 7 l かし の後 ட் ル 数シ 十フ 年工 前ル は 封神 印上 きり れ授 たか はっ ずた 聖剣 の ル シを フェ ルた が大 蘇天 使ミ ŋ 人力 にエ

ž ľ < **と** て 4 -

ン ス 明 \$ H Ţ う tz の で あ

* *

11 馬 < 車 Ź 止 め 7 ż 周 囲 < る に 神 甲高 Źŋ つ 12 め Ţ tz 7 会話は、 中断さ n 運転を け 7 tz O レ ン

馬車 取 ~ り巻 Ü Ź 声 ν, ゚の 取 7 聞 ŋ 卷 ι, ح ۲ る え 連中 tz 7 前 けるか 方を見 G 物 日 \$ ゃ 持 12 る張 9 3 反 ح て射 遠 びるた 7 1 1, に う < つ台 ŧ の の馬 光 車 か が 口止 ŧ 1 レ っ ンて スお のり 囯 にそ 入の る周 ° ŋ どを うや団

ح O ŧ 全 1 メ 才 か 瞬 レ の 第一に ン ン シ ス X の 察 で は あ 馬 ン 全 知 \$ し た 車が \$ ŋ 保 大 襲 ŋ 返 l 義 助 わ 7 \$ けれ なて G 失く お って 車を 7 は はな叫いし Ġ tì 助 ti 声 H Ġ ι, ź-3 tj. べいと上だ ح いげ いう tž tz う義 ح の 理 務 は 感が 性 馬 か 車 l tz す 生に <" ず U 乗 さ 3 っ ŧ 7 しい U スーかる νι 女 ン 幌スシだ にメと の 働すい r に ンう <

ل ک 7 葉を言 ι, 終える ر ح が 出来な か っ tz 御者台を飛び 越え 7 U

才 方 ح 7

る レ l 12 ح X 面 ロレ 疲 ŧ ン 7 l 才 ス 弊 ラレ O 7 の 11 ŧ 来 ブ 懸念は 気 レ 申 た村 Ĺ ン 12 が の 訳 ス 1 時 る 的 はが ح * + 都立 か は に抜 込 でななの l 比 **‡** 7 4 べ n わた 宿 ι, で う 物 l る れシ **‡** 泊 ۰ あ すに を決 残 っ る 3 tì 立 tz りバ ح G ŧ 定僅八次 の だ 1 は しかりの村 ١, < B 1 道 1 がまど の る 命を何を tž っ o to 再 の た食 犠 日の 通 び が糧 牲も人魔 ŋ ` b 12 道い か命 物 都 買 l かがに 12 ŧ 7 っ っ 危 教 位た でて 守 て険 置 わ お っ しにれしだ とかた ま 晒 るて 少なミうさ よお け 力 う l n ŋ 工 tì 2 n シ る いば 事 ルメ 人 **う** い のオ 態 迁 け 召 回 ۲ ン から 3 *t*; 喚者 起 の l < 1 長 ろ こ便 7 を病 で 旅 進 れ利 ť 12 ばな O

ŧ っ tz ! 待 t tj. **t** (١, ! 何 7 無茶な : : 状 況 ι, る の で す か、 ?

D 1 V ン ス び が G か G V ŋ 7

がこ 明 う G l 7 か、 二 12 な人は っが叫 7 叫 びな 声 ゙の ح え tz 馬車 に降 近 付慌 < に連後わ 近れて、仮を追ういかって そ で 起こ っ 7 ι, る 事 件 の 様

取 ŋ 馬 卷 車を ĺ, 7 取 り巻く ι, る 汚 1, 1, 1 ŋ مخ l tz ならず 者 達は ゃ は りそ n ぞ n に 蛮刀を手 に l て馬車を

高 1, よう 7 る 級 _ 感 方 l 7 ۳, 1 から 包 あ 7 う 優 囲 やら 雅 っ た の さ 馬 1 n 先 車 ۴ 7 ź (£ レ 中い 取 ۳, スにる ŋ の をは 木 巻く 悲鳴 身 慌 製 ľ ての よはうこ 付ふ 車 けた てにの tz めは 三 少 可く 7 愛り近れほ 人 女 II かゞ しらし ど 発 らど の l 飾 旅 tz të * ŋ 心装束を 1 が 老 左 う 人て 同とて tž ` 時 ١, にシる 品メわ 位才け 4 をンで が 漂がは ど わ今 tì せまか ح たで っ 少見た 女たが がこ 乗と非 っの常 てなに

似 多勢に う つ 等けわ tž っ 無勢、 tz どう l < ゃ tì tì ι, 懐刀 G 少 ず女 者た を抜 t * 衛 にで 出 護 l ŧ 衛 相 応 tz 戦 t 当 がのし Ţ 7 倒 さ う お れだり っ 少た側 女がに 既 はし が 毒に何た 少人人 牙 12 1 ŧ か の か G 悪 か Þ 漢 る 手 tz の ちか 11 傷 \$ がら 時 間 負 倒か の っれ旅 てて人 題 いいに る たは の

少 女 の 叫 v 声を 聞 1, 7 反 射 的 12

助 け きゃ

tz ح なら 一足 ず 早 者 Ź 馬車 四に笑いながらきの衆が馬車を襲っ に無 て駆 いけ る つ こけ e te にシ 気メ がオ つンきだ 、った りが つ ١, ζ tz ح 12 来て Ţ う ゃ < 武装

そ の 下 品の 遠 ~巻きに 護 衛 ح の ١, بح 見 物 l 7 ι, tz 数 人 が シ X 才 に 気付

の ヤ P !

瞬何 す 驚 1, tz もガ のキ の 丸 腰 の 少年だ ح 分 か っ tz なら ず 者は 声を荒 げ 腰 の か 刀を

わ ż

12 いね tz 無 頼や 漢 のち 共 山 追賊 は シ メ 才 ン しに て襲 1, 1, た掛 ロか っ 7 ン い っ tz

の 時 シ メ 才 ン に声 ょとえ う がやにし < 1, つ ح う ح レ ス は 困 ŋ 果て tz 表情

7 の 様子 に使を 見 7 ι, tz

間

相

は

く と手 ` 12 あ手 持い ロった 1 てく レいな ンたい スバの のハだ 手りが 杖 授 か っ得 と杖い ` 12 L 念を 込 め る

止

t)

z

ŧ

で 3 にク ll たり か 輝 i te *t*j` Ġ ず 者 が 蛮刀 Ł 振 ŋ 上 げ tz そ の

١, 間、 < シ X 才 ン かゞ 胸 内 12 秘 め 7 ι, tz 宝 玉 が v 散 ŋ 宙 لح ι, 1 が G 賊 達 \$ 蹴 散 G l 7

っう h っ

こ の 突然 ~ 失 時 0 1 わ 攻 撃に 比 せ 較 的 傷 1 の G 浅 ず ١, 者 護達 は 衛 達が首に一気に 達 領統 格制 G を し失 ,, ,, 何 人散 かり の散 盗 り 賊に に逃 げ カ 出 の l 峰てい 打 < 擊 ŧ 加 Ż

* **

۳ 1 ح は 誠 に か tz け 1 ι,

Ġ G ず X 才 逹 ン ح ح D ン いが ス tz どう に 礼を p l G た護じ 衛 Ġ l 男達 は、 意識 失 わ せ た悪党達

ح X 開 才 < ح が 中 だかか G \$ 先 言 んほど叶い返そ いレ が声 う غ Ź l あ tz げそ t o 少女が 時、 飛び降 襲わ 'n そ n れて にい 続た 馬 ι, 7 車 の ア ガ

待ち く * ι,

ح ι, う 慌てた (声と共 八に先ほ ١, tz. 老 人 が 7 来 tz

に 礼を言 つ た護 政衛達が ず \forall <

顔の tz 立ブ 少同 t ず O 女時 G z ン は ์ *t*ะ っ ド + 色 背よ Ι£° < 可の 瞳を 輝 爱 ŋ 少し 1 G 7 l l 小柄 tz ι, tz 少 女 で ŧ (緑色の上品な)が素早く跪《ひばはどまで少女のは でう 、快活そう ワざ隣に なば 瞳そ ほの ピ いたって真面で形容は美しい 目にヴ 7 変工 う化 1 ですル いなな か あ っ 3 tz G う十 ど端 五 こかが正なっ、六

tž ح \wedge \vee も悪党 2 7 達 ١, ic to 馬 刃 車 物 をか 向 G けられ 命件 のが 危機き をた 迎こ えの た現 せ場 いま だで ろう か カ ? で そ走 れっ 12 to しか 7 G もだ 可ろ 愛う らか l ? いそ 人れ

車 か G が降 ŋ 7 るのを感じ、来る彼女を た目 12 l tz 瞬 間 シ X 才 ン は身体を電流 が 走 っ tz よう *t*j 感覚 lz

襲わ れ動 悸 高 鳴

助けて 助 くだけ さ足 で っ 7 O あ 1 りがと う と 。シ 先ほ X 才 ンの ۳ 乱 暴者達を追 ŧ ۲ へ近付 < ι, ۲ 払 · っ た不 思 議 1 技 預

言

者

tj.

の

12 ?

ろそし ح 興 回 7 味津 、言 て会 4 葉 の 釈 と様 \$ 共 子 すにで る ス礼 カを 言 n ŀ う İİ の 貴族 F レ ス の 両 が正端 ž っなそ た挨れ 拶 ぞ n tž っ 両 tz 手 がで 軽 < そ o to くし 少 女 か 上 げ 行 片 ح

12 混 ľ っ 7 手 z < す ぐ る よう tj. 爱 50 し行 さう あ式

ح

う

上

足

\$

l

シ 才 ン の 動 11 更 人に高 ŧ っ

人いメ 7 少 女 12 追悸 ν, いっ 上い tz 老 人 蝶がた ン ス ح シ てメ に 手深 く お 辞 \$ す

の は 白 ι, 髪で 7 黒 l 7 良 下 7 服 う に 1 風 貌 7 かタレ 1 G 従 \$ 順締 7 ø ح まおオ めりン ŧ め L λ さ n の が 渗 行 H き届 出 7 1, tz tz 髭 ح 下 が ŋ

は ア野眉 お の か は G お セ 1, そバ下 のス t 杖チ ŋ はゃ 誠 12 ン 大 12 有 ۳ 難 預 言 Ŧ. う خ 者 ι, バま ざ す 1, 71 ます 7 先 13 ح ۳ の t っ何 Ġ ŧ は b _ l たが 人国 外 の 第三 の 秘

7

で

華 1 ル が そ か、 る 7 l 大 7 Ţ さ 何 z う Ţ 31 の りも 1 * 画 立 tz 隣 の せ 今 席 7 ľ る 美 グ Ù マダいら P テれに Ì た装 ブ広 飾 ルい * ク部れ 屋た O 生、不 ス の 自天 敷 然井、 か ti n た程給 細 に仕 長席達 1, のが 長 余 五 方 5 つ て並

ず < 7 彼 女 z 見 る ζ ۲ は 出 来 ないる がマ グリ < る

ス か ひュテ恥 \$ ニ 1 いげ 身 合 مخ ッブかブ っ 生 7 ル てや 纏 の っ 座 す そ tz う、左 席 l 7 **-**が見 シ 派 赤 渡 の メな 色 女才 押 \$ t 性 ン る l l 席 が tz の 出 席を 隣に Ø ľ l の は っ 占 は 男 tz ŧ 性 ŋ ば め 7 グが 2 m 7 長 いダ 座 ١, たり \$ V, 宝 ア占 前 石 がめ 開の 散ダア * 7 7 のりり ばア しの ガ て両 ウ めの 口隣 ンら付 をれたた 1 12 シ レ tz ハクラウ ンメ スオ ンと 鼻 の 下 ン淡 ŧ-U に に 堂戴薰 は 1 レ 4 ***** ン ح いス l ドがたの

て ^ ι, たの とか人 がに G ځ ح ののの <u>_</u> 宫 人殿 混はの人 彼 主 っ 7 お ζ 姉 ۲ ž は h 国 か、 王 1 7 の う か いえそ ばし `` 7 テ似マ てグ ブいダ る ij な。 ン アが笙 第三 皇女 ۲ 呼 ば n

ン 緊張 とは でかり、 考え λ tz ŋ ľ っ女 to o 奇 妙 tì 浮 遊 に 包 **‡** n t_} か G 1 ル 12 着きな Ġ シ X 才

美 ι, 7 こぼろん 人 1, で くそ tz の美王家 貌の は三 花人 婿姉 候 妹 補は tz る知 子息をなせれ 持 能 つに 諸長 侯 じ のて 間い lť te かば りか でり なで < 1t tì 民く 衆 にい もず 広れ < t 行大 き変

n の 7 国 る 間 代 が 王 l で 7 議 人に \$ とっ ŧ + 制 襲うて ۲ ح で ŋ ŧ *t*, わ 三 っ ţ は 女 7 うに見 う け 美 のい 人でで マた なを 為、 っ ダ てけ 将りそ 12 5 来にある事 来れな には最高は、少々 世襲制 が 国王 のじ の 度 事 なり王は少々 政 相 ゃ 公治的立い 少々残 手じ とゃ の馬 ・七く で今 場を 縁談 念 で は不 なもあ が 期ま 利 ご っ 待だ 12 左と さ幼 tz れさたにが てがせ 国 い残は 国 王 l が王 たっ のて 1 諸 でいか 侯 ある っ よが るがた り ル 選シ ばフ

厳 ti 面 5 で 王 が D 開

tž 7 本来な して 度第 O 三 U 皇 G レ 女 レ ば ンで ン 都 スあ İ ス 勿 る 殿 がマ tz 論、 っ 救グ 7 近を っダ の隣 てり 建言に 下ア さが れ賊 t t te 12 のじも ŋ で ` の こ諸 やれ 7 の 侯 貴族 そい Ţ う l te にさ て窮 12 、地 そを さ集 の預 p め 公言者 かて 執 晩の 事のせるの資質 餐と大 すな ること バを ス持 チっ ۲ l ヤシ 12 te ンメしか tz にオ っ tz よン っ殿 この

お の お かぎ 終 わ る の ŧ っ 7 1, 7 は 食事 が 喉 ŧ 通る 前 に _ 日 が わ っ 7 l ι, す

王い口 た舌 下口の 途 レ中 ン 、 スマ のグ 隣ダ にり で座ア 左る二人が茶目 しまっの皇女 はっ 上ぷ にに 笑う と挟 h tż

n \$ 1

Ź 国 預 言 殿 の 御 で言葉を 達 途中 同 ľ 摭 っ 7 達 7 は 御同い品り け ませ h わ っ ١, で

身

お

で

ح の 理 が て様も ま私 つ 7 2 ι, け生 ŧ せめ んお し、体。 ま私 ず はと 食 にお 致 腹 しが ま 滅 l 1 7 う

末娘 の 7 グ ダ ١J P لح 産ん で す ぐ に 妻は 亡 < 1 つ 7 L ŧ う 7 の う

お

で

ん佟 に ŧ 育 ず 11 7 で食 っ た始た っめわ 1, りと ŧ Ţ あ l tz ι, ح は 山 B ۳, あ る が 娘 達 の 言う 通 ŋ か ŧ l n

tz の 威廉を ふる のし 国 王う かー Ġ 子 煩 怄 1 父 親 の 顏 に 1 つ tz 王 は 食事 の 開 始 مح 宣言

ŋ の す る 人 数 ح 同て じ部 五 人と の 給 う 仕に たは ちあ がま 次り 々に ح 広 食 す 事を ぎる 運ん会食 で の 来間 る入 ŋ D 12 侍 7 ι, tz *****

後 12 食 卓 11 料 が理 で 埋 R < n 7 ι, tz

魚、そ 才 か分 ン は n 特 気 12 别 見 後 *t*, 出 れた 7 ح 来 と も 何 事 \$ 食 tì あ べい る てが時め ぐ いと 並がいに G のかいさ かり l か か 味 食 Ġ べる l 7 tì う ζ < ななと 料の ŋ う理な ろ がい 並肉 tz えびや ` ` tz そ食 のベ 光る 景に 機 会 が 圧 あ 倒 さ ŧ n ŋ たな シい

7 の 時 隣 か G 7 グ ダ ١J ブア ルの 声 聞 こえ tz

玉 「今前 12 の シ 瑕 か エ 菜 l G か フ 来る が ね作 わ \sqsubseteq る バ テ ン 11 1 美 味 に 1, ゎ h で ١, る ス 料 1 プ 理 11 II 御 後 父 で 様 取 の ŋ 分け 御 加 减 7 12 く 合 n わ る せ か 7 G 味気 \mathcal{U} 1 l 7 1, の がこ

野菜に 悪戯っ 運ばれ Œ < 笑う 7 来る 7 グ ダ ١J P の 言葉で シ X 才 ン が 緊張 冬 Ž 9 ン グ 冬 待 7 1, tz Ţ う

思わず 乗 っ tz 海 鮮 類ら しき前菜、 ぎこち *t*j < ナ 1 フ ゃ フ 才 1 7 を 操る シメオ ン tż っ tz

がい

と言葉し 出

グ ダ り P は 7 言 Ź 7 妖 の Ţ う 12 笑 h

<u>盛</u>り 食 7 方 付 女 ~ 終える 7 け の の最中 言う る 通 シ ح 国 X ۳, ŋ 才 王 ζ ン か D は G ン 隣 は 1 ح レ 12 ŧ ح ンい tì ス る く ŧ 再 美 の 7 間 グ 味 び 12 ダ 給 숲 り仕 < 話 アが ス がを 現 始強れ プ微 まく 7 は った識テー あ っだ ブ Ĺ なル ŋ がにと G 並 l h ŧ 7 料だい 理料た に夢 夢中 シ 素早 12 くン 1 綺麗が っ tz に

t S の 料 理 ŧ 1, かと が か 12 ` ン ス 殿

「有難うござ 前菜を 終え、 ŧ 給 す * n l t 食事 l なめ がら - D つー 私 をレ は軽 肉く 17 ゃ 魚 12 は 含み 控 Ź *t*_ てが お G ŋ 国 かすは のロ でー \sqsubseteq レ ン ス 12 尋 12 る

お っ な る っ ti ŋ わ セ 7 (£ ۳. バ う スチ ť ヤロい ヤ 1 ン さ レ がてン 山、スかし、大人が をグの 倒ダ高 潔 す ŋ ロア tj 容 救 1 姿 レ 出 ンには ス殿の ら来 ľ 活 躍 ゃ をがて ι, 改る る にめのま王 至て っ礼 ては言 2 n わは D せ儂 角 泡 7 ŧ も見 \$ G 習 ばいう した必 てい要

王た は 相 好を

_ ~ î ダ の 言葉 7 っ様 シ \$ メ で か救オ あ ンれし 1, バはのばた 警 シ l 1 護メ りかにオ 専ン っ tz 念に かし掛 ŧ てけ しいて れま下 しさ ŧ せ tz っ 。たち h \sqsubseteq メが オよ **ン**ろ がし 助い けか にと 行。 か私 なは け師 れバ ばハ 私り 自ク の 身 は言

11 主ク の 言 葉 で といあ n オ た ば 方 従 う をたの し置だが 当 い然 かじ X

ン

 \mathcal{Z}_{l}

Ţ

や 世 シ X 才 ン 殿 ح っ が l 1

X 才 ン しは て慌 7 7 ナ 1 フ のフ 1 7 てき 顔を 赤 G め る

3 主 御 邪 \$ は 悪 < っ 7 Ţ

< 12 7 1 つは 17 クにを な挟 っ 4 tz 7 グ ダ ŋ P の 言葉で更 12 顏 を G め tz 国 王 は 豪

l な悪 7 tz か n 魔 っに tz が てが る ح 家 はに ۲ の ŧ っ ても t か 者 失 11 11 極 7 ま 殿 りが t, 命 いき 。落 何と よす りと もは 大 賢者 バせ ハめ クて 7 6 殿う 0 -命度 を杯 奪を う共 よに

ええ Ġ の 3 償 還 力 I 绗 を用 ル 国 ځ 王い 様 召 ١, 還 の 命を考え す なる ζ 賭 7 î ۲ ι, は 7 Ġ 出 ル っ 来ませ シ l フゃー エる h ル そ でをの 退ま l たけさ まか して · たす しか 残 しの な王 がで 5 1 あ のバ バル ハク 7 7 ク師 師は で禁 す断

U 1 ン ス の ,の端 表 情 曇 5 tz

は 7 樂 1, う け ι, l ね ŧ いレ tz せ 御 でそん 食 す れわ 事 Ţ b 一 り 政 最 麗 ŧ 12 + 宮つ ti の 殿い にて にが 閉は こ ん じ後 3 13 もってな時に ばにま かごで りゆ辛 の 2 11 私く ح 達りと にと \$ いなロ ろさし いっレ ろてン なくス 地だ様 域さに い思 の ない ح ح 起 を 教え せ 7 7

U 1 ン ス 上

tì 12 ŋ か にの ちじ 食表情 食事 'n 40 のに と常しまけ 最 中 バヤ 話い 反題た 11 クク でニ は人 ておいの皇 の 死 るわ女 ゃ 。是非 ル いは シフ 偎も エ ح ŧ ル こ話 こ題 に聞 でを つ か せの変 ١, てて執え く政た n れが G い長 n < は l 各 1 地 か の っ 勢に tz つ

*

Ĺ P ts う ح < O IJ \forall 越 1 す る レ ح ン せ ŧ のろ スん っし はそ 殿え Ţ 世 では諾半う 主 、つ l D し刻し 後》 ح V 1 ほな あ がレ だら ろ ロン う 1 ス V 程寝 お 殿 室を の 人 ン ŧ 続き \$ スお 用 あ 殿前達 意さ \$ 達 ŧ 4 ŋ M の っせか ろ 質 < 7 G 7 問 りもか ろ攻 Ġ う 食 め って 7 事に うたなの疲れ ι, 時れ 後ゆよ 間て っ はお Œ どく シ ζ ろ 部 りょ 2 う ŧ 休才 屋 にまン で ح セれ殿 ŧ バる ح l スがロ 1 味 う 千 1 1 深 ٠, ١, ヤいレ ン マ話 ン 7 ス z グ \$ 遣れ殿ダ間

口話 題 £ シス 承て 二人ど のし 皇て か、 1 b い国に王 残は 念がった軽の た。参考を 宣言 l tz

しレ は 人 女 大

ゃ 7 グダ 1) P

片

۳ め h なさ ١, ŧ 救 ん ŧ

ح X けオ弁 ン 明 何は l tz で顔 \$ ろ真 い事の最 っ ? 赤 かに 5 L P かて マ世 われて グ 主 ダ 様 りっ い進アて るめはと 彼ら何て 女れ度も のなも楽 隣なかしい 悪 席っ かてって らいぽす 離た < れのシの X るだ のっ 才 がたシこ。を 見 つ め そ の 度 12

tž tž う 1 に 残 念だ 1

つ n でに る は あ上 気 初 るげ 恥 め 7 ず 7 シいか味 メたす l わ ささを う ン 腕 奇 の片膝 隐 妙 す 1 手に た気 め持 ふせ 申 5 わた ĺĸ 訳抗 程う 度よ にう 飲に ん安 で心 いし te te スふ 1 9 プを にし 用て · ' たマ スグ プダ 1 1) ンア をに

に つ ح tz 感 触 かゞ 伝 わ ŋ 手 の 平 に 紙 片 の 感覚が

X ン は ι, 7 そ の 手 の 方 \sim ح 振 ŋ 向 ι, tz が そ の 方 向 に ι, る 7 グ ダ ŋ P は 何 食わ

した描 ろいいこいシ 泉牙 た作 の 才 造 ۳ E ン ۲ *ا*لم つり っ ての l 直 ι, い彫 ŋ 感 か ŋ ح す に と込いま l る ŧ いった材 ح 上 ح 1 to 木 の ti に 出 ベ テ 来る はッ 加 1 F Ź ブ 美 観の 7 ル (しゃソ 的一サ なっ 1 ド風 に フ 写とっし 景画 P ح 1 17 にい てい ム彩 はたや is to ~ n 調 tz ッ 度 公品、 ド広 ボい 一部屋 7 ι のて フッ 素 並人 h ŀ 囯 ボでに 設 1 ŧ 置名 ۴ にさ人 美れの

tž う。 や、座 る 客 描 放 ľ l 7 ι, る ۲ 言 つ tz 方 かぎ 正 l 1,

tž か レ ン ス無 に理 7 6 れあ とる 悟ま G 1, n 寝 1 室 1, よに うにち 12 読ん だ だ 紙僅 片か にの は荷 こ物を 書か n l 7 7 ,, ,, たる ような の të 振 7

後あ わほ ti ź れど tz お 御 に助 迎え 心け を頂 \$ 奪 ι, 返遣わた れ時 ^ Î Z 7 1 l ŋ ₹ ≫ ŧ いしい ŧ ŧ す l tz

tz

 \mathcal{Z}_{h}

Ł

お

l

<

tž

7 グ ダ ١J P

ŧ 1 理 石 ι, O の Ţ 製 う レ の tž ンサ ス ح tz が 放 ボ う つー 12 たドは 半か 随 円ら 分 ` ح 状 のバ距 淡ハ離 いりの 光ク 離 ががれ 滅 シ 7 メび ι, 才 去 る ン っ D *t*z 1 \$ 透オレ 過アン しシス たスの が の ベ 街 ッ F シで くれない。 の 側 12 は旅 設 その 置 途 n l に気に 7 付何る

あ ŧ ŋ ŧ 来 過 ぎ 7 スい 何はる

他 方 で 光 Ł 放 っ O レ 麗 tj. 表 情 \$ 沈 ŧ 呟 <

出 来 過 ***** 7 ν, る o to 7 何 がン ? が端 変 1 気 配 で あ の がか ` v ?

O 合 1 l レ 7 ン 1, ス tz の 言葉は ح ۲ に シ 驚 いメ たオ シン メに 才 向 ンけ はら 我れ 7 に 返は りいも 1 口かっせ 1ったて tz ン ス 自 12 身 語 1 ^ かの け反 た駁 ح l 7 余 ŋ 12

011 Ż tz të

1 レ ン ス は l げ 12 \$

そろ 用 が 7 ts 1/2 うろい 深 t ii の のがそ は れい訝 Ţ っ ι, 7 ŋ ح < ŧ ح だ首 る 国 h 王 l 様にぼげ ľ ゃ tì 御 d to 呼に ١, ばと れっ l 7 \sqsubseteq 7 ŧ い有 る難 のい だけ かれ 5 6 ゆあ っ ま < 9 り疑 樂い し深 むく 2 ti 11 0 いて ŧ ŧ l う ょ

ヮセ 5 バ Ţ ス どそい チ ヤ ン に時や "ح ざい 寝室 ŧ のド す ア ロに 1 ノ レッ ンクか スのな 様音 が 国 響 王き 殿 下聞 がい 御た 待事 ちめ であ ごる ざ声 いが ま聞 すこ Ż 御 tz 準 は

整わ にロ n ン tz G ス 五 そ 止 の **‡** 声 íz か 応え 7 数 瞬 考えを出口に 巡近 らづ しい 7 セド バア スを チ 開 ヤけ ン Ţ にう ح l tz かぎ F P の 取

ŧ

l

で

l

ţ

う

?

ح 直 ŋ 細長 < 美 l \$ 額 の 央 あ 7 ι,

^ セ フ 1 D ト \forall にのい 光 指 ح ح に中 た満 つに \sqsubseteq

\$ 前 方 ^ ح 軽や か 振 ŋ か ざ l

1, 1 ح 共 う に l 霧 7 が 室内 7 を < tż 满 さ tz いし、 す ۲̈ 12 消 滅 L tz

う tj. 界を O ŋ V ŧ ン ス tz は 寝室を 部屋 か に 出 l tz ţ に ι,

髪型を 手紙 ŋ \$ 読み 整え 直 1 が す ₹. Ġ ح n 、半ば無 期 tz 待 シ と不 X 才 安に 意識 ンは 胸 12 l を 設 か、 ک * 置 l ī 再 め 7 か、 あ び せ る今 tz 化 度 粧は 台 ľ の っ 鏡く にり 向と きマ 合グ っず てり ーア 生 か 懸 G 命 受 にけ 自取 分っ

りを気 考え 12 : . 心 を 7 べにす 奪わ みたら鏡 ° うること n る tž の っな 前 んて無 でこん 7 7 かった なこと h 1 こと考え する *t*₁ 1 そ h 7 n ŧ に 7 生ま v l て も 1 n か っ 7 tz 何初 だろう け ど ` 嬉 ŧ ح L l の気な ι, ĺ 八持ちは 1, 何 1 か ۴ 僕 丰 分 なん ۴ の 丰

今 の シメ 結 過 ぎな どっ

z PP 7 Ź グ グリ 音が 聞こ アオ の。定 え、 外か 7 2 かて Ġ \forall い界 11 ti そど れ無 か用 らの 数長 分物 後に 驚 ζ ほか 早た < に や つ 7 * tz 静 か に F P

す ッシ X 才 ン 今 ぉ _ 人 で ι, Ġ っ L ゃ ι, ŧ す 12 7 グ ダ ŋ P 様 の お 部屋へ 案内 ι, tz

۲, Ĺ は , る 奇 Ň 丸 出 l 女性 の 声が 聞 こえる

tż ヘどう · · やら ど殺 z [かて の 陰で セが バ好 ス チ ヤ ン が ロな 1 レ ン スを 迎え に 来る の Ł 伺 っ 7 ١, tz Ţ

シ のメ 女 才 + が が う る 考え 7 か Ġ F P を 開 け 7 4 る ح 小 柄 1 掃 除 か 何 か で

ŧ

担当

L

7

そう

1

こう 私 いう iz つ ζ ح 7 来て は 昔 から 下 さ ځ 1, っね そ ŋ 静 す か る 12 げのだだ 足 合を立 ح 相 笑 場 いが 7 决 G まれっな 7 1 ます よう かに G お ね願 ι, l ます。 何 Ü

中年 Ó 女中 7 İİ ح う 言 っ 7 意味あ tz ŋ 含 4 \$ す る ح 周 囲 に 気 \$ 配 ŋ 1 が G シ X 才

道の先 بح 途中 通 る で いか 絨に 感の敷 かめ n tz 大き *t*j` 廊 下 か G 外 n 7 人 気 の 1 ١, 庭道や 台 所 12 置 部屋

普段 自 外 分 tj. が 客 < 観 通人 の か っが シ G メオ 决 7 l ι, l 7 る 7 ン 通 ح 12 ŧ ۲ 5 はは ti 1 け ι, 当 は ţ 然 何 はっ う tì 学 的 1 が きりと自 ・裏道を G 12 宫 巨大 殿 のな ど地何か 見する p なと ح Ġ どし 皆目 人 ح か、 が 囯 を避け で 見い きた 当様の る つな たかい めな広 故かっ 壮 意にた な王宮を 遠が 回 りそ訪 をれれ してて ても間

\$ と再 12 庭 ゃ 道 け V ゃ 誰 さ 赤 絨も せ 毯 1 居 が の 1 広 Ġ ι, シい 部 X 廊 屋 才 下 \$ ンへ 何 と出た を案内 度 ŧ 通 処り抜け ۰ す 中 る 年 北非 女 + İ 常 よ用 ŋ G 一層慎重 しい暗 ι, 12 階 段 ح \$-上 同 時 が っ に Ţ 7 ŋ ι 一層表 ΙÍ 5 す

っ こ ち の 屋 で す さ っ 早く」

か シ ŋ げ X 才 1 ン 顏 は で 屋 囲 の z 中 注 一意深く \sim 飛び įλ 見 h 渡 tž l 1 が G 後 ろ 手 に 部屋 の 屝 \$ 開 け 7 ι, る 女 中

7 ツ 7 ッ

の る のを 感じ 1 が Ġ シ 才 ン 室 內 を見 渡 す

い明 t 7 ι, は 暗く テ ン 、、窓か の 中で 光 る λ 蝋 ŋ 燭 这 * ť. の 光月 だ明は か H が広く 天高 井 ١, の天 高 蓋 ι, 室 7 内 12 が 輪郭

与え 7 がた

蝋 燭 o) 光 灯 る の 側 か ゚ゕ゙゙゙゙゙ 聞こえ

ッシ メ オ ン様、御 待絹 5 0 しカ 7 1 いテ まン l た内 \sqsubseteq

の 声 İţ っ Œ ι, 少 女 ح は 思え 1 1, IJ ど 妖 < シ X 才 ン に ι, tz

つ っし 7 つー ン ス は セ バ ス チ ヤ ン 12 Ţ っ 7 丁 重 に 開 け G n tz ۴ P か 王

王 n は お tz 対 2 気 食 面 器 す ۳, フ入棚 る う ح 各 の う 地 に 素 か 1 G ż 絵 取 7 画 ŋ あ 人 が る 数点飾 ż tz び や私 5 酒 か ti ti n 冬 て取 フ ι, ŋ ア間 tz Ź ح の 7 tz Ţ ものう う 間 で つって 意図 の1 ガブ l ラルて 美 小 ス 棚、 t l < そい作 しグ Ġ てラれ 壁スた 室 にの は飾内

の 国 上に 王 は ありに グ P ラ 12 ス座 ح っ 芳 7 た香を 1, tz 放 つ葡萄 食事 の 時 色 ŗ の 液 ŋ ŧ が血 色 Ż Ł て良 いく る l 7 る 7 の 理 由 は テ 1 ブ

1 っ ١, 7難う る、あとよる < 忍 来 耐 7 が < 無 n < にな まあ っ 7 らい 座 h ŋ tz tì まえ D 1 レ 先 ン に がス酒 殿 5 飲ま ŧ 酒しな せ ۳ 7 う ŧ të Ġ 12 っ tz Ţ の 年に

有 は対面 7 私 is is 左い は 12 ざざ 設置 っな っ てか は 11 0 つ ι, る た n ŧ ほろ tz す 7 うう 席 う 小に座を 椅子 がな tž ح っセ 占 は てバ っ 7 いス 座 め 7 いな る よャ たがせか , 6 , 7 ŋ ン 1 ŧ ŧ ١, 座 まい tz にる あ か、 tž ごと 12 * ざいそ ŧ ŧ う 慣 す 1, 1, **‡** ° でれ す椅 1 tz 子 お < 17 て調 御が そ はで ح バロ 遠 慮 いにハー クレ あ 7 言 る 7 ン せ 葉有 師 ス 7 か 11 G の ι, 弟 酒 tz 子 をだ う きます は辞 す。 ざ 務 ŧ ι,

スロ チ 1 ヤレ ン ン いはス ŧ-応 の接 意を 室 12 通 l l te te 後 入 ŋ 17 に 近 1, 応 接 室 片 隅 に V っ 左 7 1, tz

す

辞そ ح P う ľ ι, う ざ う ン ť. ゃ 言 ح は ح う っな l ず 長 J°. tz ح っ っ tz ŋ のと 国 と時 ľ * 来 王 に ゃ 合 の は İz は 片 らぜたバ 豪 腕 12 快 バそ Ł tì 12 ١, ス n 勤 笑 l 7 なめ が っ tz ヤ G 7 tz ŧ ン ば < h ΙŦ ح れス でど 7 7 チ な頼 グ のャ う ダ ŋ ン 儂に : は ŋ とな P 共る の の に男 世 ľ 前 話役がで 国は をお を頼 を 見も G 治 めん 頼 る の h 前 よだ だ衰 っ えた りが の を感じ 難 : ľ ï ゃ い何 が ゃ l ŧ たな 6 3 っ 5 11 ح 知末 l れ娘 ŧ < セ 今職バ んの で てじ をス

の 命を落 っ 通 たりせ まバ ح 飲 ス いし 7 4 チ ヤ にい Ţ Ţ る ン う は ۲ 当 ŧ は 然 う : 酒も + 年 12 ゃ 上らん 遂 12 堕天のじ がおゃ らが 姿 きず 現れがい し開ク ょを 7 っ楽 殿 te Ù が かみ訪 にれ した 一 て と いき ただ のけ じは や別 がで

王 声 色 つ 1 < さ مخ V tz

Ź か で 7 才 力 工 召 冬 7 の す 傷を 儀を で あ ば る 1, シ l tz こメ ル なオ せ シ ン を、 フず エ 無事修道 ţ ル がし 再ん びば 私; 院 たカ に 工 送 t ル 12 ŋ 牙 z 届 を召 け 向還な けし け るてれ まもば

12

で 道 ح ι, う わ H ゃ 1

1 1 る "ح つ ゃ で る あ n ば 悪魔を寄せ 付 け ね 結界 が 張 ŋ 巡らさ n てお る ĺ 修道院長 の

国 王 が う 7 肯 1, 1 レ ン ス の 見 せ tz 微 妙 な表情に 国 王 は 気 付 ι,

シ ト 殿 \$ ľ 1 はい かかた ねな際 が?ロ 12 <u></u>

シ X で 才 師 Ĺ ŋ お 聞 1, 7 お ŧ L tz かぎ 実 際 12 は お L tz ح が あ ŋ **‡**

h の

う ح か う くむ ゃ りバ こいやにハ tj. る 安 7 お 方 1 ح 表 じは や異 情 · +1 の 0 15 1 配厳 1 レ御格 無な ン ス用御 \$ で 方 元すで 気 ぞ 付 儂も け tz 大 $\overline{}$ 戦 あ 12 来御 で 会 , 王 は L 対 7 談 は お の 囯 的 が 1, ż ح

る 質 問 ŧ 思 出 たげ

: l 7 の 主 が ځ す ŧ で

11 7 言 Ī ţ れ傷 ば 長 < 7 三 手年

かロバ ŋ 1 + レ ンク ス師 の言 ', 言 そだが だがを 聞 ١, 7 して 国王 気を は 片 ŋ 直 で 7 17 É V 決げ 意を ŧ 込 4 ١, 7 ソ フ r の 背 に ŧ tz n

n 害を カが 備 n し起 \$ ば 7 3 整 少 生わ え 子りのできる ti < る n < る現そす人た仰 在 の 1 る 間 の 後 ح で ! 国 谏 ۲ は れが p が 家 太 ŧ で 暫に 備 か肝 カ 蓄 12 要 打 ちす 儂は 食料 住 民都 にを 市 る 国 こ王 移 部 加 住の ح と取 Ż 住 がし 7 ŧ 民 せ 出 7 倹 来ん る 逹 出 約 来る 令を のを 各 ۰ ľ や地 預限 促 ° 12 言 l ŋ そ疎 者 の 国民 れかか の数力の数 G せ \$ 8 に 分 魔ね 限し 配 物ば is t す になれう ţ G 7 3 る h *v* : 被 ţ セ ŧ う魔 バ 害 ず スや 天は まに チ 変住居 ャ ず はわ

温 厚そに う しない セ バ ス 7 ャ ン の 囯 が 瞬鋭 < 光 っ tz

法 令 成 tiv ŧ す - ''

勿

御

座

ŧ

す。

つ

tì

かゞ

完

壁な

政

早速

有

識

者

\$

集

め

翌

日

の

執

務

開

始

で

lz

う 国 王 t) は 宜 < 頼 1 レ T. ン スを

ぞ

修道 Ţ + う分な 院 行食料 に再 無び と事口 に シ は金 今銭 X そ 夜 才 ン + 殿 にれ 早に を視 送線を 馬余 \$ 'n 走らせられる。 ` すれ ぎ 旅 る のね Ţ 疲が う、 広 n がく ح 取て 5 れ快 G る適 ح とような馬 ι 7 宿 車 ŧ のに協 準 国 カ <u>*</u> 備 * \$ っせ 整えても て名 G お馬 う < E 一 つ

有 難 う 御 座 ならい ŧ す

護 衛 t つ け がれ る が ?

ι, G 物 相 手 は か、 Ż つ 7

レ ン ス は Ł した

そ手 皮 つ にと ح ح る っ 7 自 l の 主 預 ŧ 7 G や 言 のう うと魔 者 ふか もなって かゞ いそ 争 襲 統 なの b 括 さ通 ι, \$ す やれ ŋ る る 7 日じ 修道 ح 4 n がと 引で 院 感 U き今 にせり 起ま託ずレ こで すにン 内 す Ţ はス 飢紛り お殿 餓 なれが や 権いぬつ カ の 日い 気 嗣 tž 4 7 に争 かじお 苦に らゃれ まな l 4 4 1/2 死れそ天配 んてれのあ でいに主る いたしとま

王 は テ 1 ブ ル の 冬 か 溜息を つ ١, tz が そこ で か をふ ح ١, L tz Ţ う に け

れう はい ょっ う 引 ح かぎ あ る h ľ ゃ かぎ

h で

予 感 \$ 感じ は ず

身を 賊 [「] tz 取 り挺決いむ か、 : l っ l # 7 7 7 今 り彼 人も 回 ١, 1 b 4 敢を ţ-事 5 え守 襲 の 件 てっい 生 12 緩ては活 気 続 の 12 めいし てたな為 1 け おたかに るて いめっせ 2 11 た寧た いとた のだ義がせい はぜ がロ あ 旅 が賊 寧ろか のと てン うし の ,....、 周 G 囲小マす 額 グ わ の か なれ村 のダ 通 7 10 ぜ お 今 町 行ア 回っが税を * こた魔を襲 物取 の つ よだたりてた うか t 五 tj. G にてた 龍 あ るム の わ 程賊 1 地れ度じ こ域たのや の際半が、 ۲ ځ し賊はの山

が の l 室 のり 響 ι,

王七国 礼のバ王 前 ス れたがげ 素た 山单石 道く で ド時 山 P 賊をけ ځ 開た いロく レ 衛 ン のスの 一がド あ る た人。 の 青年 が 駆 け 込 4

識を失り 失 やい調 ح マスト 首を 第 N.いたいたが とれたが ろ、個 . ど急の 女 様を 大 襲 别 に事 擊 となったな 記入断戦けた 憶 れいっる す厳たてと l G l < t to 1 問 し護 ١, ۲ i 7 国 証 詰 言 め 王 ・アが鳴 ・アが鳴 į 関 ί l わ上 らげ tz ずま そす。 の 捕縛し 全員 ゟ゙゙゙゙゙゙ ,山中で意

何 ح ! ? \sqsubseteq

シ X 才

国 王 かゞ きが は遠くびたな 異文! のせに 合ら気 れづ たい あとた D 角るレ ン ス ! かが 五 t 上 が っ i te そ の 時で あ

۲° 1 G **一 音** が 室 内 響 1, tz

II メか オン 図 ! のわ 方か は高 0 6 ? 1

ア 屋 ľ ゃ あ !

12 あ る 愛娘 の 居 突き 止 め 国 王 は悲痛な叫び声を

れ王 スび ピ声 F で 切 屋 G \$ 1 う v 出 t L 12 tz U レ ン ス は 護 衛の青年 が 開 け 放 っ tz F P か ζ 人

H 7 三 人 が 11 慌 U 7 1 7 レ 我 ン ス 12 返 が ŋ _ 瞬 U の 内 1 レ に ン 部 ス 屋 にか 続 Ġ 姿 ι, 7 8 廊 消 下 l ~ 7 2 11 走 く り様 出 \$ た数 瞬 状 況 n 7

ŧ ح 百 n 歩 の ĺŦ 7 ど っ ŧ _ 步 tz n の た内 廊に 常 下 の 人 の が数 り十 角 步 の ^ と距 到 離 達を し跳 躍 す る < O 間 12 1 残 レ 像 ン \$ ス 残 の 姿 L İÌ 7 応 建 物接 の室 陰の ヘ 入 とり 吸口 いか

質 \$ ŧ l の カ < ŧ \$ ţ 三 う 人 tì の 2 7 敏 脚ず をれ 目 か ح にが 気 てメ 付 いオ たン ι, なの tz ら村 12 に達ばに 1, tj. O 逹 1 1, す V る ン 際 スバ がい 今ク 何ク らが か用 のい 秘た 儀 あ で の バカ ハモ ク シ **クカ t**

た階 段 7 n z 四 飛 か、 つび G の 越数操 ż ス 秒、 ツ 曲い プの つ で r tz 駆 央 に下 上 設 の が 置 数 7 っ 百 7 n 歩 ١, tz 先 踊 < り場か あ る 階 Ġ 段 <u>_</u> \sim 階 ح 到 そ達 ll 7 t 次口 の 1 踊レ りン 場ス かは G 三十 階数 へ段 と の

tž \wedge たがはた と + くを飛れる 失ハ ŋ · · 熊 7 だりの手感 ^ 1 そが はテ ts れ堕天 的 + うふ して主 ί 7 tz ŧ をいけ 上は 退 tz ر د * 今また ح ₹ 1 で ζ の一柱 気 ۲ 配 で で 魔物 مخ か --魔 ! 切 物 の 感じの襲来 \vee さ邪が せカ _ なが度 い弱 ŧ とっ tì はたい ! の ح こだ ح のとが 高いお いうか 知私し 性のか 慢 つ も心た しがの

定 階 レ Ū 同 ン 段 7 ス 時 li の 1, tz 屋 移 翔 為 敷動 す のにる で あ 地一かじ図瞬のゆ る \$ の "ح 迷 ح 左 体い < 的 ŧ にな ŋ * 把い 握の ŋ しは 更 7 先 に ほ速 の 時既定度を 寝室 上 に マで げ グ邪 7 ダ悪 7 りな グ ア気 ダ の 配り 部をア 屋感の まじ 部 でる 屋 の 際 冬 走用 囯 行い指 経たす 路 秘 \$ D

運動 ス レ ン 神 9 ス 経 1 は 12 ŀ ŧ 自 l tz の 信 の の 寝 あ 室 3 か ځ 近 ι, 衛 囯 う 兵的 時 が地 間 全 で で 速あ 部屋 で る 走 7 っグ の たダ とり の 前 しア ŧ ての で も部 到 数屋 達 分ま ĩ 11 で tz 掛 か、 常 ろ 人 う で とあ いれ う ば 道步 のい りて を十 分 O

ロだた ح が、 奇 の が 心時 + 疾 12 風負 年 先 女 のけ刻 + Ţ たシ の のメナ う にか 才秒 ンを 扉 厚 ^ IÌ とい 部 近 屋 瞬だ付 の ŧ け 隙 で 1, でて 間 案 は来 内 か tz G l 口何た扉 女 1 ۲ レか + っ ン 必 が ス 死 -にに度 驚 室内 11 部 1, を覗を 7 き離 z 抜込れ 6 tc か l う ŧ ک م 試の 尻 餅 行 を錯 つ誤え l 🗦 ι, てれ

1 レ ン ス が 重 ٠, ا 扉を驚愕 開 けこ たれ 間 に済 l £ たな 光か ic to 女 中 11

わ わ わ

ŋ ŧ غ lt け 離 n 光 景 12 ず 泡 吹

展だ t ح の 7 Ţ 醜 態を 上 う ŋ ح + 演 シ 7 年 ľ X の 女た 女たれ 舞 + 才 ン 台 が 想像 ح ź 首 1 嘲 っ مح 笑 膨 す 7 G る ر 2 上 ŧ る 筈 t の 7 はを 誰 天い 蓋付 たもい 室 出た * 内 来 のにな はい ベ të ッ 緑ろ ١ 色 う の す の 光 ぐ 艶 側 z 10 帯か で はびな マた秘 グ怪め ダし

つ 7 7 ι, る ι, シ メ 才 ンの の 両を 手締 はめ 苦 しげ 7 7 うい ic to マのグだ ダ ١J ア の 手 首 付 近 \$

ŋ 得 1 IJ ۳, の 怪 カ で シ X 才 ン の 首を 締 b 付 H る 7 グ ダ ١J ア の

t, 12 妖 l < 輝 1, 7 ١, tz

7 !

掌を上 7 う 12 向 け < 囯 tz の 前 O いに差し レン 出 ス す。 ij 素早く 衣 の 内 12 l ŧ ι, 込ん で ι, tz 、玉石を 取 ŋ l

生 命 の 樹 **や** フィ ロト \forall の光、 宿 貫

O レ ン スが詠 唱を 取り憑か ふかれた マグダ玉石に 光 アをり に向し魔を て狩 け 人! o i 合 た図 で 獲 物 12 か る

ょう に、 邪悪 な存 在 12 ŋ け 突擊 i

tž が 次の 間 で あ 3

突し D tz 1 ・レンス ように 弾の か掌 れか G 地マ にグ 落 ダ ちり てア 輝へ きを到 失達 す っ たる 経 路 の 半 ば で 聖な る 光 冬 放 つ 玉 石 は 壁に 衝

何 っ ! ?

に 7 驚き の بح 隐 点 下 l 方 切 12 h 注 な かい 九口 3 1 ゜レ ン ス の 視 線が 玉 石 の 弾 か n tz 地 点 12 続 1, 7 11 ツ ح l tz Ţ う

12 0 绿色 1 レ地 ン 鈍い 光 絹 をの 放 絨 きて い覆 るわ これ 2 7 にい 気た 付が く床 が 7 グ ダリ P が 左 つ 位置を中 2/1 ح 7 円

けかっ!

に

よらばカづくで、取り憑いた何者か あくなった美 よらばカづくで 、こう叫 鋭く かい 12 D 突 1 き刺 レ ン さス る の 眼 光 は邪 悪に嗤う 7 グ ダ ij ア、 ι, ゃ 正 確 12 は 7 グ ダ ١J P

たシメ 突破 次するま 才 ンは 先ほど で ! \sqsubseteq ţ ŋ ŧ 幾 分 か 抵 抗 が 弱 ŧ つ 7 ι, る ţ う 12 感じ n tz

\$ 閉 瞬にび叫 唱 ۲ \$ 始 U める 1 レ ンスは 手 に L 7 ι, tz, バ 11 7 7 ţ ŋ 授 か、 っ tz 杖を両 手 で 掴

詠 唱 の長さ 例 l 7 杖に 嵌 め 7

たか 杖 っ 7 7 の l 突進 先 の \$ l 突き 間 先 左 ほ 7 ۳, O 玉石を る_。 レ ン ス 弾 lİ か れ両込 た手ま 魔 でれ 法握た 陣に水晶 よ杖が っを聖 て斜な 作める 5 に光 れ振を tz り帯 見 かび ぶて Ź なる輝 いとい 壁に マい 向 グく かダ つり てア 尖 に っ 向

ح の 魔 間 法 に陣 か端 衝 突が起こ 人がい りる 魔力 凄ま の ľ 壁と、 ι, 怒号 ~号が生じ 水晶から 杖 杖 の の先端 て作られた壁ので、一を送り続ける。一を送り続ける。 n l たる 聖な る 工 ネ ル ギ

U 1 レ ン ス 7 の てに でー

邪悪 \$ ti 注 カ ぎ \$ 込スは 打 n 破 tz る 杖 間 仪は最初、半ばほど间も詠唱を続け、山 に見え tz どまる 魔工 法ナ 陣ジ ŧ で 突き 刺 さ ŋ 7

l 1 が Ġ 方 5 が 経 で つ 法 12 陣 連 İİ ħ 無 7 機疲 質 弊 にの 魔力 色 Ź-\$ 濃 供く 給し 17 続い °I ン ス の 詠唱は 次第に

途切

n

ح

7 屋 さ た杖 叩き つ İİ け 徐 G 4 押 し戻 地 面 <u>^</u> され 遂 下 ľ す る杖けくっぱる口 U レ ン ス ŧ ろ ۲ ŧ 後 方 12 吹

で がに が tz さかれに の ţ う るな 地 響き が 起 ح ŋ 丈夫 1 石材で造ら n た壁に

強 \$ 物

12 \$ 光 せ tz 少 女 発 せ n tz の は 7 グ ダ ١J ア ح は 全く異なる 不 気味なま

う に ŧ つ ι, 7 横 tz る U 1 レ ン ス の 媏 正 な U かゝ Ġ は う っ す ر ک が 滲み 出 7

3 の 力 カ はル **ー** の 切 じ手 L こ援軍 5 が死ぶ h ح では ン行小 く様を、そり賢しい真似 こからじ \$ ら :: じっじ くゃ りが ۲ 味わ 2 の う が法 よ陣 いで \sqsubseteq は お

不気 殆ど きが な声 が 1 くな 語 3 って ۲ おり、 ١, tz 今や シ X 才 は 窒息により顔色を青ざめさ せ 宙 12 涥 1, た足

へどう す n ば のまま で は…、 っハ l 訳 あり Í せ ر ا ا

毯 の 上 12 12 陥 転 ŋ が っ う たっ 玉 ť かた 石 が 囯 O 1 入レ っ ン ス tz だバ たり が、様、 ٠, د の申 時目 線 の 先 12 魔法 陣 の壁に 弾 n

D 1 レ ン ス の がったと脳裏に かルーシ フ エに ル ح 戦 っ tz バ 11 7 7 の 姿が 浮 か び 何 かぎ

う、、 立ち 上 __

残ほ 嘲 った さ. たカ 冬 振 ŋ ŋ 壁に 手を 付 * 1 が Ġ 必 死 に左ち上が O レ ンスを不気味な声

石が再 が再び輝いて浮き上がな古しそうに震える杖をか てび りか ゚ゕ゚ 杖げ の 周口 りにレ 集まる ン ス が再 び念をこ め る ۲ カ *t*~ < 散 G ば っ 7 ١, tz 玉

行く。 そし ` U 1 レ ン スが 杖を 振 ŋ か ざ す ح 再 び玉石は魔法陣の あ る方向 ^ ح び 込ん

「同じ事を

緑色に 怪 < 光 る 瞳は 7 く る 玉 石 12 蔑 l tz 1 眼差 しを送っ tz

だが れた 次 の 瞬間 + 個 の 玉 魔法 石 が 陣 壁 12 の直 ţ っ 前 7 で 築さ 四 方 <u>^</u> n た侮 魔力 Ü 散 の かったよう 衝突し 、再度弾かれる運命を辿

嘲笑に 彩的 n 7 いた少女 の 色 が 変 わ っ 7 ι, <

て、こ、こ n は ŧ さ か 魔法 陣を 囲 ん で っ !

な声に 応える か のよう に玉石 の 輝き が 増して <

その配 魔法 列陣 たに気がバハ 7 す クやロー る よう 12 レ 整 ンス 然 ~と並ぶ が 秘 儀を石 操るも 際にも 決上い いまっつ空か てら俯 作らす れる ح る ح 玉 石が 出 の 構来 tz 成 とな 同らば

である ح 付 ν, tz にだろう

「一生命 Ó 樹 ^ セ フィ ロト ţ 魔の 堡塁 € II う る 互し 光で! っ

U 1 V ンス の 詠唱を合図と して玉石同 19怪しげな妖な 公則性に従ってcaい》を打ち消-いにえ 結 ば n る

4 の 間 部屋 E 充满 ĺ 7 1, tz 緑色 の 気 が 消 Ż tz

ー し ま っ た。 殺

っ んせられ れっ tz 不気 味な 声 は、 ι か L そ の 言葉を最後ま で 言 Ö 終える ۲ は で ŧ

る *t*~ る z カ つ水 晶 消 \$ l あ っ 7 効 力を失 $\widehat{\mathcal{L}}$ っ た 魔法 5 \forall をに陣 に飛 ί 燕 7 の "ح ح く 飛 あ び る įλ tż ス

n ١, ح h tž ح 共 に、少女 少の 女鳩 は尾 シ メ オぞ ンお の首 締 押 b 上 当 げ 7 to いの たで 両 手 ŧ す 気を

げ n tz L 7 シ う X にオ 咳を ンは、 l た最初 は 死 h で る か Ţ う に カな う っ 7

自 Ł n tz

iz 着 の した マ体る か グ ح ダ逃 思 1) の 美と しに (£ ι, ど形口 のを1 大 しレ たン * 耳ス さ 明むるいでは、 小 溜 l さな tz 蝿つ がい 飛 Ü 出 l tz が、 宙 Ł 彷 徨 1,

ح なる わ 細 n 臭。見る者 たい地 触覚と先 節 から 1 全 て端 る にに六うアた 嫌粘本と ح の足間 嗚 ŧ ` 咽 ۲ O b \$ 1 ŋ レ つ ン t < ス せ 突 る お * ぞ 出 ましてた日 · · の 複 肢そ し眼 体 がて 口不干 1 快の レな下 ン 音に スを伸 の発び 眼する 前る細 に羽か 春い あ G と毛 わ漂に

「七十二 ! 柱 € ti 1 ľ うふ tz は l G の 大 悪魔 12 l 7 ル シ フ 工 ル の 謀、 バ P ル ゼ

げロ つ けレ る ン ス は ι, つ か 師 で あ つ tz バ 71 7 7 か、 G 聞 1, tz 魔物 の 特 徴 12 符 合 l tz 名 称 12

* か 12 12 す ŧ Ź 7 の 時た \$ l みか たにし 待 つい てず 分いれ る がを ぬい癒 いし : tc : ル \sqsubseteq シ フ エ ル 様 Ł ι, お X مخ 八

ĩ 先 te lz の ーバ ど な撃アンケ tz ゼ か、 瞬 ブ 窓 G か時ブ 桑 らにはせ 夜 再 ` G の V 7 n 闇 小 の 7 ^ さ直 とな後 姿趣りのと ν 眩ま 寸 ン l なス 違 たる が ゎ こささ 不 で n 気 た力を持っ か、 わ ĺ 不 てい 快 放身 tì っ体 羽 た水晶で器官の 育を 残 のど L 7 杖こ にか 部 1 b 屋 るか

グ ダ 1) P ì 助 只け 今年 h te まぞう \sqsubseteq

7 ダ チリ P 5 ぞ! !

セ バ ス ャ ン ゃ 近 衛 兵を 31 き連 ħ tz 国王 が 部屋に 飛 び 込ん で tz の は 7 の 直 後 tž tz

*

う っ

うっに 人 わの 女 の 姿が 12 シ 目 メ にオ 入ン っが た。黄 そ う に 目を覚ま tz 時、 最 初 は Œ ゃ け 7 1, tz 視 界

う っ

ι, 7 tz の の ح 姿を は反 7 グ 側 ダ の 1) 床 P グヘだ 転 ح げ認 落識 5 1 らたた シ X 才 ン は 思わ ず 叫 び 声を 上 げ U 1 レ ン ス かゞ 座 2 7

め 目 tz 遠 筧 の 味かはめ G バま シア l メルた対 才 ゼね ン ブ z ブマ 見 ح 守いダ っうり 7 悪 ア 1, 魔 1 tz ĸ 取 U 1 ŋ う レ 憑 大 ンか 丈 スれ 7 優い一 た昨 l < か日 シ G メで お すと ン つ z もい 諭 う ≫ すべ の 配夜 ああ ŋ 1 \$ tc せの h 首 1 8 一 絞

Ġ 不 気く l tz め がな 才 付 緑 ン け 色 G 地 面 の n 眼 たが 7 妖 で は J°. の l 襲 っ時 < 1° 点 光 掛 つ ŋ か りか らだ ح っ べし 7 途 ッ 7 < ۴ ż カ る でがマ 7 目抜り ι, tz 筧 けダ `りは め 7 少ア 自女か 分のら 細必 の 命 , 死 ź 腕にオ か 逃 狙 n 6 げ たはよ 考え 少 女 ح ς L れな なが が 合 11 6 怪指 う カ 笛 で でを

う 7 1) P さ h ۳ め h : え っ Ð

グ \$ ア戻 tz ブ ラ L たりながとさ `のい 同瞳 辟 か 12 5 U 暫 1 レく l -ン スて昨 の何 言と? 葉 かー に状 鶭 況 1, \$ て把

う

力 は 還 -を晩 妨眠 げっ るて 魔い 法ま 陣し o t 中よに。 い紋 まめ ĹS たれ かた ら喉 ねに 問題 潜在 は 能力力 のま 分せ だん けで ` L 酷た くが 消 耗あ

ブロン なさ 别 tz 途中 から 何 ŧ 7 1, 1 < 7

۴ の **◎うる**≫

「 え っ?……は はが っ にす る ر ح 1 ι, Ţ

ゟ゙゙ の晩 の記 1 メか

ン l tz

作った笑顔の 作った笑顔の による、おかげ様 をあして駆けつは ですれる別荘 による、おかげ様 てがの荘裏も 下い側 な所作いた時、 時シ バオ アル ルはぜひ た行たブど ブく たでに落 意思を 奪わ n tz. ようで す ね お そら < に

がで移 って ι, の ι ょう

解説を っ

シ雅 囯 筧 め ح ι, う 報せ 耳 に L tz 国 王 ح セ バ ス チ ャ ン かゞ

たったか。数: 世 殿

取り直して、おかげば り無事を喜んだと主殿!」

もう元気一杯で す

気 を取 国 王に に応える

なり、シメオン 何故マグダリア! 「シメオン様、: れはっ、そのっ…・オンに問い掛けた。サア様の部屋にいる様、御無事でなりに様、御無事でなりにないなるをとりなった。 らより しゃったってござい 、ます。 でし たなし か しな が G シ X 才 ン 様 は あ の 時

らっしゃっ. l ょう ?

7 快気を祝 っ が そ の 後 執事の厳格な 眼差し

シメオ

っ ? n n

恥 ず * مخ っ ` l 1 が シ メ 才 ン は l ۳, ろ ŧ ۳, に 1

7 の仕 草を 王 は

さら てそうじ 「うむっ、シメ ねば \forall 1 Ġ ゃ ゃ っ た K X 才 れオ : 1: 来れない。 果は なが、 早ま うちにずっては いはマ゛ が修道院でかいれる つかを蓄え、これであるが、 ŋ アと の _ 堕天ル あれば 切 の 交際を認 皆恋を シフェル王家とあ ί 心めるわけれを打ち のって は بح に倒猶 し更る てもらなお

と厳粛な言葉を シ X 才 ン 12 投 げ つ け tz

づは 1,

突き すような 国王の言葉 に シ X 才 ン は 畏縮 l tz よう に返事を l tz かぎ そ の 後 で 王 女

親 11

ッグ じゃ てりゃ 事シ X オン 殿 が使命を成 し遂げ 7 下 さ tz お 12 は 儂も 是非シ X 才 ン 殿

P 交際を 応援させて ν, ただこ う

tž

で 世 に界を救に 入うない んて、マグ 全然り 然実感無かりでも少し っ困たっ たけど、う 一つ、これ れし だな けが it 5 で言える 彼 女を

ح ゃ か に *t*~ っ 7 ι, る ţ う に 感 ľ Ġ n tz 7 グ ダ ١J P の 微 笑を 眩 しそ う に シ X 才

つ

シは メ のオ 大丈夫 だがのら 止 具む合 頃はっ ` v t ロか が レで ンす スか がシ動 メけ オま ンす にか

国 王 1 質問を投げ かけ る

「よろし ベッド. い。それ で is to 出発 シ メ すオ ン る ح は し五 しまし l よが 9 う。 国四肢 様、 z 伸 出発の準 ΙÍ Ĺ 両 備は 手 を振 整っ ŋ 7 回 お l 7 ŋ ŧ 応 えた す で L

ょう か ? \sqsubseteq

を馬車ま りだし。……りだし。…… 覚悟を で 秘め おい 連れ ľ いてた ゃ お ゃ 表 する ろ る情 j. シ がで メオ 、シそメ の ľ ンれオ ゃ 殿 ŧ にン う 12 しは 言う ح て額 もい っ まて早た ŧ すが ١, ` ٥ ŧ セバス・ は流せ石 んの チいか国 る?王よりも ヤ ン ŋ 驚きを X Ţ 一才 シ シ刻 X ŧ 殿 隐 才 早もせ イン殿とローく安全など 目ず は見まり聞き返り 修道 さそ 1 れう レ 一院に着 to E ン ス殿 ばする

か ŧ 9 ŧ ι tz \sqsubseteq

五 7 てれてのかこ 馬車で 50 レ 殿をス 一二人とシ のすメ 皇女に が、 裏口 さ さから ンの新た 遅滞れたに 用 ŧ なか 意し o to た余 'n 囯 左 tz *t*~ ι, が 左 派な 三

公式 す なが Ġ 国王殿 ゃ セに バーい ス チ ヤ 7 l 7 7 グ ダ ŋ P が 見送る中で馬車は

注 が 12 'n 込 h të シ X 才 ン は 馬 車の後 部 扉を 開け 放 5, 手を振 3 そ の視線は 7 グ ゙゙ヺ゙゙゙゙゚゚゚゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙ヺ゚

、この時で、れていた。 後姿に の 4 グ 注 ダ 'n が n P 7 の 視 ١, 線がシ るこ ۲ 12 X 才 シ X ン 才 12 ン で は は 気付 なく か なか シ X っ 才 ンの tz 背後で馬を操る

適 に 道 h ŧ で 馬車 Ť _ 週 間 ほど の 道 の ŋ を O 1 レ ン ス ح シ X 才 ン は 順 調 に 7

一 と ョ こ て ŧ ンれ # 15 の っ旅ず地敷で 予 のか 乗進 定いれ 7 通 ι, tz ŋ 寝 の具 行 かよ 程そ いり l \$ 刻て シにむっ 3 疲 国 すり ぎほ ばを っ る 知てく大 G G ح ١, いいの 艶うソ広 p 国 1 のじか王セ めな の 1 白 _ ジた 三角 や 頭に ピ行 の恥り 筈が名じル馬 馬 ずス車 ح ŀ 3 い絨 少 っ 毯 7 1 の tz 風保下 雨存に \$ 用ク ŧ 食ッ

で は の 宿 日 1 最 かの 高 o to o 部が終 屋 着 のが そ点 あ 2 2 でな はる 既 宿 をれに場 おそメ肴 うのオけれき と土ン す地と 最 口特 1にな 高 のしあ ンら 馳 スか のが 宿 宿 泊 す 主舞 泊 る場 がわ 血れ 手所 tz 指 かぎ 定さ 完 にれ口 整 っい力 7 t ≥ おわ りけ

7 l 7 翌 か日 出 発 際 宿が 、な代わ 払 る ゃ 否 宿走 亭振 相 を 変え

世 主 様 御 ۳, 滅 相 ŧ 1

ح 入 慌 2 7 る ロを の 知 がら る 常 ح だ代 っを ح はが た頂にて で がく 喋 ŋ ₹ 1 女 かゞ 勤 め る 旅 館 で は 後 IJ ど 国 から 十分な 報

7 t なる 4 にと 1 レ ン ス 宿 屋き の _ に 設 け n tz 飲 食店 tì ۳ で 時 折 彼等を 伺 う 視

付ら 1 ι, ししい ていかた シいよ振い彼 l た等 ŋ のがそ 夜の で l 7 っ視 ぴ線 ι, メてに tz 才 宿 敵 ンが 意 に襲 や 殺 はわ それ 意 o te is り込め ح ح を馬 車れ 告 げがて ず、難ら ロにず 遭 1 ゎ D レ tì ン スいレ 自よン 身う ス 番 は 敢 \$ 国 えし 王 7 7 の 気い 遣 付る ゎ かこ l なとた いに間 上気諜

tz 7 悪 れ素 予 ŋ もを 感 でレ は ン 消 Ż 7 1, ح ح 自にバ 安 l 7 たたに だわ っれ te te ず ح わ tž か 7 ι,

ŧ 温 7 G 泉 **→** ¬ はれって 方 りはた 旅 ` X ŋ の し渡す 宿 士やてれ ン そ今 くののた取 つそ住道がっん ` tz 1 2 がそ ŋ G λ ح でな は U 彼 耳 1 露 レ知る っす ŧ ン てる 旅ス ず \$ の う道す 許 G 院 3 の堵 可 森をに \$ の取 連 ŧ n 7 れい 卷 7 宿 唯 主境 森 の 遇 _ \$ 関 気 手 内 がで 情 ŋ < で 報 がの 芽 名 tž び っ 生 所 たえ を近 案 7 < い内 12 っし あ てる tz

n あ う tz 7 や ス ŧ ح 7 7 ト ح P 修 で の 道 出森 ŧ 山 会に で が っ入辿高様旅いをはが口 tz っ ŋ tz びむす < か人の じ事え場 は こゃがた所 っだ が 出 来ん 7 語 ` け りど いあにに 0 う る なまや 儂 の っもがの修 道 7 若 眼 のもい前 途 山頃 か Ġ 中ま 興は手り で 出 辿味 っ前 り本 * かく 슾 着 G 位り つ でとはにの < 若 ح 一 目 山 いと度に頂す 旅はだ取付るか近 う人でけれ近 る 12 修 はき ん道 の修 か 院 じ道 っに 院 40 た行がの _ っ 建 てどて う 4 Ġ

7 迷 何 わる ず で なし きて 通て < れも の老 なす いぐ ι, ? よに う森 やう め にの ح な外 ŧ っへ 出 7 1 to t ι, る う あ h 7 いだ ح か はで Ġ ス ŀ 森 P ひのム \sim って ۲ ح つ る ح まう ح l 7 言 ح λ 者 ح ŋ $\boldsymbol{\mathfrak{b}}$ 込 かな h いだ

tz

ح ス tz

7 が僧 わ 12 ŋ 何駆に口 G 近1 かれ付し のたき シ 遠に メ < 張ンにい っが岩 て尋肌 ね の る 露 出 ح l tz 峻 厳 l N h げ h 1 ス ŀ P 山 が 臨 ť. 12 あ

界 がオ 1, る h で L Ţ う 12

う ろた える 素 振 りも なく、 冷静に 答える

け口 っし

は 7 冷 グ ダ 汗を流 1) P 部屋 す で 地 12 っ tz 怪 L < 緑色に 光っ tz 地 面 の緑色を思 ι, 出 l tz シ X 才

が く を 心配 判 森 ľ 别 か Ġ Ġ あ てそ n す ŋ 7 Ź" ŧ n ι, 12 せ h る 12 出 で 外 Ţ 7 の L まう L う 入れ ح \$ が 防 12 ι, で う : ぐ 得 : の ح 5 が いれ そ う tz 情 囯 の 証的 報 から察 拠に 作ら ħ す 邪た る た結界のよう!に、結界と はでい そ す っ 17 n ŧ 1 迷う ŋ 預 の 言 対 こ者 ۲ 抗 の も能 置な力

シ X 才 ン の 表 情 \$ 察 U 1 レ ン ス は 笑ま tz

し た 車 ゃ Ó が 手 7 綱 木 Ł 4 31 の 向 ١, 7 3 いう たにした X ŀ P 才 山 ン はが 入そ ŋ V 口え端 付 た麗 こ近の小されていまれず。 さずの微 岩 森 に の 腰入せ ŋ 17 け る一人に馬車 のが 老 近 付 人 のい 姿をと tz 目

道で _ こ こ ŧ か が は 山 ス ŀ P の 頟 域、 馬車を 捨て徒歩で 行 H ι, ŧ ح ŧ, 馬 通れ

る馬車が 両手 で 近付 杖 \$ < ح l tz ゃ てがい れか たに 声で ŧ 厳 一喝 松格そうな した 眼 つ きを l tz 白 髮白 一髯の老 人 Iţ シ X 才 ン の

馬車を降 スは t: 落 ち着 シメ 'n Ź 7 才 た様子で tz ン 1 は う 佇 7 馬 ∕ tc 《たたず》《車を止め め、 h で慌て 5 7 る。どうやら老人に、御者台から飛び降り - 1 喝さ ر م د れるに 1 11 り既 もに 前口 かー 5 V

それ がり付 ι, か らシ 7 お ŋ X 、老人 オン が 八が言う通 の 中 ŋ 見 ۲ 渡 7 す خ ۲ ŧ ľ 道 ゃ tì は 11 ti く岩場 が馬車 が ゃ 通れる 低木、 巨大 う に も な木 tì ١, 4 根 かゞ 地 面 lz

「馬と馬 車 どうしよう…… \sqsubseteq

1/2 に細そう にシ X 才 に 相 す る 、突如 老 人が

そこ 12 きいる 連中 ににン 持が 20 にてし いレ っン てス ŧ G Ż ば ι, 11 2 ľ ゃ

ح D を 開 鷹揚 地面 落 t 7 tz 小 石 \$ 拾 ι, 放り投げ

り過ぎた 小 石 İ 老人 道 の が 座 Ġ 12 2 あ tz いった大 ***** げ な岩 tz ح の裏側 は 思 え に 1 落 1, ţ 飛距離を飛ん 3 で、 馬車 ,の遥 か 後 方、 先 程 通

「 こ こ に ある 馬 と馬 車 お 前 5 が 都 に 持 っ 7 たけ ١, !

「お爺さんは 一瞬、 こで 何を tz ι てに 老人 いる Ň で 鳴 か ŋ ? つ \sqsubseteq け

人影

覗

1,

大岩

は

怒

老人が 投 げ 小 石の飛距 離 岩 陰 の 人す は tz ŧ tz 老 人 の 怒号 12 驚か さ n tz シ X 才 ン かゞ

恐る恐る 尋 12 ۲ 人 は

「ふんっ」

と不機 奴嫌そう に 鼻を Ġ l

の ような 不 ・届き者 の 為 12 ر ح で 張 ŋ の 番 مح l 7 ľ ゃ !

ン ح Ũ シ X 才 ン ح U レ ン ス見 مخ 射 る Ţ う に 交 互い にる 睨の 4 つ け 7 か、 Ġ 衣 の O

コ 靈気 か n 清廉潔癖 ŧ 預言 É 証 明 の力を持ってお l 7 お る ゎ。 る。 森を 7 抜 H の 力が体中 る 能 カ ŧ か Ġ そ l 滲み出てお 7 資格 ŧ る あ る L や何

بح り

の う。 入っそのに カシ がメ 全く · 感じ G れ返んる わ。

D ン ス ۲ X 時 る 老 人。

「 お 主ら は 4 にシ 森 ヘオ て同 ŧ いに見つめ

一 え つ ?

を見 老 つめ 人 の 宣告 る に 度 肝 \$ 抜 か n tz シ メ 才 ン は 老 人を、 続 ι, 7 救 ι, を求 め る よう に O レ ン ス

考え っ た シ 7 X O ーレンス 才 ンが なったレ ーが ン 瞬考え、なを振 7 はり そ向 か うい it to なの 5 II が、先ほの、当然口 どし かレ らン 何ス いなら反論 ĺ l 7 7 v < たれ かる o ti 1 ろ う う

っわ か ŧ した

ح 老 人 の 提案に 才 ン

1 tz なら ż せシ てメ の

ح す Ś ۲ , 1、水晶の杖を以出来ます。精神ないに同意した。? 水晶 片手に森 森 \sim ح け出 入口に っを 感 いじ っ取 たる やで がす 7 U レ ン ス

+ ` د 消え 7 行く

X ンは 7 の 狼 狽 l ま ご つ ١, 7 ١, tz が

うの 番じ ゃ ^{で鳴り声に押} 行って来い 後姿を見な ! が

ι, 人 の n 逃 げ る か の Ţ う 12 森 の 中 \sim 駆 け 込ん で ι, っ tz

**

木に ŋ 茂る枝 ح 7 の 姿を 12 顕 太 わ やにの ι 光 7 Ł ١, たわ スれ ト tz ア の の 中 位 مح 置 ŧ 1 こ、ここか G 步 はん うに響でいた から 1 の るい外 か は

いそ 鳥 達 の の 鳴き声も今 《さえ ず ý Ó D 1 レ 虫 の ス 鳴 * 12 声 は \mathcal{D}_{i} かぎ 細 唯 く感じら 一森 の 静 寂を n る 打 5 消 す Ţ 響 1, 7 ١, が

預言者な * っ ۲ の根を乗り越え、草を収入ってから幾度となくいなんだから、出口に出てなんだ大夫だ。真っ直ぐ液 G 進ン Ñ で 1, ず る んだん të し、そ 自 分を信じろってて何い ţ Ÿ ŋ 僕 は 力 工 ル を 召 喚し tz

大木の 根を乗り \mathcal{L} のれ 分け 中る では る叫 で来た言葉をシ ₹ て薄 1, 視界が 明は ŧ くう _ tì って度線 ŋ 返 る す

*

L

る

<

^出 ロだ

最後 の 瞬 間 地 面 の 5 tz 12 足 冬 取 n 転 が ŋ 1 が シ X 才 ン は 森 の 外 \sim 抜 け

情は驚きに \$ け いた達成 tz ° 感と Ŋ 感に包 n tz O レ ン ス tž tz かぎ 顏 \$ 見 上 げ tz 間 の表

_ ~ h *t*;

シ X 才 ンの表 !真っいて石 驚き か G 落 胆 いのへ ح 変わ 理 ŧ 1 ι, 上 げ tz そ の に は Œ

ح はじ ななを っつ 直に座 進る ~ 老人 る姿 のがあ っ たのだ G か G

抜

H

n

ح

で

ŧ

思

つ

tz

か、

IJ

っ ţ よ行 つ 7

は

っ

n 見 tz ح か ح 人 11 快 そ う に笑う

ţ っ

けた。 突き ĺ 進 んれ でにく ι, ζ < がうし 捨 暫 7 台台 し詞 てを か老 ら人 思に い残 五し って たシ ょメ う オ にン 森は の再 中び で森 立へ 5 2 止駆 まけ り入 9 拳を森 掌 冬 にー 叩直 き線

き返せ あ つ、 ば 出 7 ロに う か 出 れ真 る 2 んだ 直 ヾ 進 h ***** っ で と入 ` ŋ 2 0 のに に結戻 界っ 森ろはた そん うだ 界が返うから か、 Ġ 7 入く の 逆 ŋ なん \$ të つ **‡** \sqsubseteq ŋ は 途 Ť 31

る 7 7 走 う ŋ 独 ら言を それう غ か シ G 暫 X < しォ てンは 再びに わ 薄 暗 後 1, のを 視振 ŋ 明 る < ŋ 1 17 ŋ だっ 出 D to が方 近向 付に い向 てか くっ

にン スで そう、 座 ŋ 込 ŧ ス 1/3 の ١ 空を ア + 山 てだ で叫もび 仰 ヾ v. × ななが G 相森 変われの外 G \sim 出 ず 石た にシ 座メ つっす たン 老だ 人っ だた っが tz 彼 シを メ待 オ っ ンて はい 思た わの ずは 7 0 のし 場レ

今度 ñ てしまうぞ 11 , 31 * 返 ι, \sqsubseteq せ ば 出 U に 出 G n る ح で ŧ tz h ゃ ろ 図 星 か ? の ŧ で は Ð

再 び笑う 老 人

シ メオ 分 っ

ろ 国 でなに 大 賢 者 で ゃ バン チカケ H ク 瞬 る ĺ が老 h だろ 7 命人 くれて をに · · 賭けを て左 まて 7 れでた 守が で Ţ っ うてす ゃ くぐ れに っ て自 ح ح ロが ま)情 レけ で ンな 来 たスく っがな 7 _ 生懸命 に、守っ 2 7 h く なれ ح 7

ti カ 面 ti < t 俯 っでシメ ť. 才 ン \forall に語 ι, たシ 'n かメ けオ Š ン の 1/2 情 Ł 知 っ 7 か 知 Ġ ず か 老 人 は J. ۲ 笑 ,, 冬 止 め

これ 森 iz ŧ 修 口行 をじ ゃ 訊 < が瞑 想 Ţ ۱, 🌭 b ほいそ う お 前し、 はバハ 集中 クク から ż せ 託 ŗ 7 出 n tz 17 玉ま で辿り 石 が あ 着 る ľ く ゃ の ろ で う 11 がな

バ 71 まり での Ł 何 け故 てん は

修道 院 ŋ 老着 はれ そば わ か る

驚 < シ X 才 ン に 人 う 言 葉を 残す ح 霧の 様に っし

ح は シ メ 人 才 の ン 1 は う 暫く tj. 决 茫 (意に満 然 ...と左ち ţ 7 R いた ز ر 7 ι, tz が , 再 び 森 かへと 入消 7 t ι, **<** ° 7 の 表 情 は 先 IJ ۳,

に 入再 7 び別 両 っ 手 tz 森 かの中ほ \$ 平 組み 坦 1 合 座 ۳ わ る ŧ せ の で 囯 に 真 つ直 مخ 手 閉 頃 口ぐ進ん な岩に じ瞑 想を始 胡坐 tž が \$ め る か 今 ***** 度 は 直 バ ハ進 クす 7 る の か G で 授も か引 っき 返 tz すの 玉 石 で 4 囯 ŧ の 1 前 < に 置 目

tj. が z 7 無造 す ŋ う る ح の の 作 ح 同 12 \$ 暗 置 様 ١, Ö か 12 H 森 の幾 n tz シ + 何た < 玉 12 学 玉 X 石 的 な配輝 \$ ン の 掴 は き出 7 光 列 が z の 差 光 描 l 五 5 l ١, 7 が 上 森込 た浮 が ĺ か 遊 の っ + でと l で tz 。 一 そ うあ 際大が と の ゛バ き玉一八 陣ク な石 老に のク 木反風や の射が口 幹し吹り に何 きレ か、 ン 太ス がを れ照 陽が らが玉 7 いし入石 るた りで

中 ح 7 け 巨木 の 幹 3 照 5 l 続 H る。

達 L シ ン 照 輝 す 12 手 Ł 触 n る ح そ の 手 は 光 の ح 吸

る。 が 輝き、眼前に岩肌を剥き出したストア山がそびえたち、傍《そば》にはローレンスがい次の瞬間、シメオンの身体は光のドアから草原へと投げ出されていた。空を仰ぐと太陽込まれていく。シメオンは迷うことなく光の中に全身を預けた。

シメオンはローレンスの差し出した手に「ああ、有難う。それにしてもあの御爺さ「おめでとう。無事、森を抜けましたね」 助け起こされながら、感謝とんの正体は何なんだろう?」

そして疑問を呟

始めた。 何かを仄めかすように答え先に進んだ「きっと行けばわかりますよ」 D 1 レ ン スに 続い 7 シメオンはスト ア山を登り

ٔح َ う をは 開 7 らど 間 か 流

ځ 12 沈 一道 後 ŧ 1 せ 方 ず 7 \$ つ ι, 振 tz 9 6 向 ١, 步 き、 崖を ι, tz ح Ţ 辟 ŧ ľ に始 叠 は かって 囯 中 空に のか ι, 前 にどれ 高 tz シ < X ちだ 舞 オはけ ι, 上 ン だの ががか時 る っ 7 岩 盤 ,, ,, 息を吐きながらふとれただろ 息を だれ tz 凡平線に と手 我雨 に足 そ返を っ固 の 半たよ 定 *

う こに 遥 れ小 か、 t 下 く感じら 方 険 峻 れな た稜 かゞ 線 の の不 先 思 に 議 は t_ 試 程行 に錯 恐誤 何怖 の しのいるにア は末 tì ŋ か 抜 っけ 遠たた 森 の 木 4 が ŧ る で 砂 粒 の Ţ

ح を求 l t が う b tz ŧ ľ る 1, で 求道 感じ シ 者 X tz 5 達が を抱 才 ン え は 7 7 $\mathcal{D}_{\mathbf{i}}$ のい 仲た 隅 介が 12 つの地に 修 道院 相し が 7 応 山 故 l い腹 こかのら Ţ 山 振 う + tì ŋ に返 っ 隔 居 to 0 مح 構瞬地 え間に 位 る の孤 置 は絶 l 寧ろてい 上る 自 ح の のか 1 こ対理

っさ あ 7 ろ 7 \sqsubseteq

「 あ 先 あ z 行 < O 1 レろ る者き のま 声す ic £ わ ず か ば か ŋ の 乱 n ŧ 1 1, の は 旈 石 ح l か 1, 1, Ţ う かゞ 1 ι,

建物 に 到 7 と小 達う した イさなが、 たえて う シ きの て メ 沢 ` 才 山 そン た岩い れが まで tz 玉と同質に住居棟 岩 面 石壁に遮っ から こられる 1 る 7 ح いた視界 ` 簡 素 tj. がら 造 開 山 ŋ け頂 ` 付 建 7 近 物 のの 先 平 はが 囯 に坦 12 はな 然 入 礼起 っ 拝 伏 tz 堂 の とな 思い し箇 き所

ンース l 方 1 ス トそ の **でアの** 1, で よう シ 山 山 メオ ŧ の tj. tì 威 か 超 容 ン 絕 にを っ たた的 は 調 出 なあ 和 l 秘の L 術バ 7 をハ お 壁 操 ク ŋ 小クの命! 世を忍ぶ 穴の屋 Ź 者 根 た奪 隐 : や壁面 ちった 者 育人の 住から 成外 す の る組 な石 ح る l 織にて 7 はめめ 抗 の 砦 す う 外 とる っ 観 し本て て拠 つ は地け 厳 頼で の あ t ۲ ŋ う 1 ŋ 7 ŕž 1, び O っ え た左 ľ 1 がレ がつ

進 行 方 向 面 l G \sim ح 入 っ

てけ G tž 行 れだ っ 12 造ら 広 ti 11 12 雰囲 壁面 tz 椅子 気 12 3 天扉 ŧ 漂 使か 簡 ゎ p 素 せ古礼 なて代拝堂 製 tz 聖者 が で ŧ 描 外 囯 観にいて ح 付たい 同 い絵く 様 た画 にのが は配 7 t だれれってい ぐ tz Ġ 中 い央 で奥 あに は ŋ `祈 祭壇の 祭壇が っ設

tz ۲ シ X う 才 の 面 ۲ ン 貌 ۲ İİ 黑 ロれ フ v 1 修道 1 レ F ン 服 ス に引きれ 出 のを包みれ拝堂で 水た影の 黑 佇 1, 衣 h でので フぃ 12 る 1 埋 F ح $\overline{\mathfrak{t}}$ ` で n 頭や 部が素 て部が ι, る 覆っ 部屋 たの 一人與隅 のに 修道 僧ド がア 姿を開 現い した

~ 力 工 ル の 召 喚 者 ۲ バで 11 ク来 7 の弟子 Ţ 長闇 旅 御 苦 労 ľ ゃ っ tz ° 儂 かぎ 修道院長 の シ ŀ ľ

12 才 驚き ンに は登 の 聞場 声 ***** te te こ修 と道 G のある tz るシ 凄メ みす のン あと る O 声丨 とレ 、ン 森のに λ ? りうい語 でり 見た、 厳の 格 フ 7 1 うド な顔脱 つい きだ とと 顎き

っ あ 、っ、あ の け時 の か御 h

11 -1 tc ح シた はれ 何 ľ ľ ゃ ゃ l h į あー Ţ 1, わ ح ろ で バ 11 7 7 の 弟子 12 は 見 破

ン ŧ 喝 l tz 後 で 冷静な 表情を崩さ *t*, ι, U 1 レ ン ス の 方を 振 ŋ 向 <u>*</u> 語

はけ ン G はメ ン にご ざ ١, す

丁 重 レ ン ス け る

私 何 動 度 は 異 ŧ ti い頭 ŀ ŋ 7 まい す の が お 7 名 n 前 に のを匹 敵 聞 す 森 ₹ 及るの んエ入 で ネ ŋ いルロ ŧ ギで l 1 シ - を感じた ト tz \sqsubseteq 1 殿 と出会っ いからで すた 。 そ れ師 にバ バル ハク 7 7 クと 殿は 多少 か Ġ

<u>J</u>, λ で バー ハ様 7 11 儂 ح ح 何 ح ?

シ ト 1 は 不 嫌 う ĺz 鼻 鳴 Ġ tz

h 恐 で ないない ħ 1 いが 等 G 分 : 儂 į ŋ 、そり っ て強 いれ お か 縁 G のを れも V **\$** \(\) しれね たんくしを : \sqsubseteq n tz し頑 固 か、 爺 l ڠ 0 酒 天と 使は のい 守え 護 の ح 分同 だ様 け の カ や は ŋ 1, 儂 ゃ の 方 酒 がを

ロか 1 ゛レ はと 微仰 笑 す る

h 飲ン んス tž < n の 奴 G \$ 11 が こ 、ゟ ロで 1 奴 レは : 逝 つ った シか

シふ ŀ 1 に目再 V 鼻を 鳴 5 l 憎し れわ ロい ねを る 叩 : te e ン ス の 持 ١ G 受 H 継 1, tž

水晶 杖 ŧp る ح を呟く t う 12 尋 る

めー は 口師 1 バ い の レハ : : ンク スク シ 11 11 X 白 才 G の ン 命 ځ す引 7 * l 换 7 Ź 私 12 ゃ ル村 シの フ人 エ 4 ル 7 مخ 退 l it 7 ま何 Ţ l t: ŋ ŧ l 私 達 か 全ての l : 未来を 守る tz

視 線 \$ 落 ح

tz λ 来 ľ Ĺ ゃ ح 3 ろう ک ا 力工 ャル __ : で 1 < 7 7 2 II のル 小シ 僧フ 意工 外ル はを な倒 ` **†** ふこんと ۰ は じゃか ľ في ل_ي コそ イれ ッは をバ 連ハ れり 7 7 2 12 ま儂 でに 来も

シ ト 1 はロ 1 レ ン ス の 'n 尋 ħ tz

₹ _ は で 堕天 ι, 息を 使 ル シ引 ***** フ 工取 ルる に間 対抗する言葉を 対際 ベバ引 くりき カクり取り 養う かゞ 安うよう言い:>安全な修道: 残 院 さに 1 -ま 刻 ŧ l tz 早 ___ < シ X 才 ン Ł 移 l 7

頟 < シ ŀ 1

士 フ でー 不足 う エ ŧ ル感 t) いにの知 ` 陥復しこ 7 3 つ 活 7 ح お ノが育ってるのが現状 ι, 呼 って たの の 危 だ険 よがなも 状 じに近旅 魔物 ゃ < に御 都 の 手 強 の 空 t もいや 道 士を 発せった 常 す る 駐 る修小 す 頻 道 る 度 士 が ح がき ŧ と上 配力 さえままな 置 ŋ * ル れを 7 召 傷お G 者 G l ŧ んた : 増 での ź, **1** は 修ルシ t

険 l 表 八情 が _ 歪 にけあっ ` す すぐ に 崇高 1 冷 静 かさを 取 り戻 Ĺ 続 うけ るん

配 7 はま しあ バて ハお バ クらりん 7 かり は 何っ かた 言がて っのたに現 7 : të : お つ te e かこて?ろ、 **一 で お** 主 ル ション エ の 使 ル がい 手 再 ,は修道 び カ 院 取 ŋ 12 戻 ŧ 7 す ŧ で は の お 期 G 間 h 12 211 C

「 お ţ 7 、三年と __

「ミ シ か ١, 眼 7 光れ はだ シけ メあ オれ ば ン ŧ 刺何 すと か tì る ľ ゃ ろ。 確 か シ X 才 ン ľ ゃ っ tz 1

は

か 復 恵 た活 しず 預たし 言者 後人 tz の 生命を t は 食べ こめ れ樹 7 ひ ^ 上包 l のフ ŧ 罪 1 っ をロた 犯 ト 人 \forall 間 さ ぬには よ宿神 う ŋ ح 、し天 人力 使 里 \$ の を与加 離え護 11 6 \$ 、れ失 ι っ 修 行人た の 日すし 々なか をわし

で D ゃ ŋ ろ h — が が お 主わ ľ さ一知 人 ゃ n ただけ ! る け ゚ヺ 4 ۲ の ト は人 『無原 Ĺ \forall 出 が ŋ の 与 カ +j 罪えはかに のら 与 っ犯 御れえたし 宿 Ġ l り知れてま 5 かった原 かっ 9 1 H がトミッ の罪 ľ の 5 カのゃ 罰 エカ ح ルを宿かて 召 l l 生命 tz 還 ず る 3 _ ののの 無 は樹 とが罪 から

罪 の 宿 ŋ _ _

ン 初 め 7 耳 っにする 言葉を 繰 ŋ 返

のおシ 主はオ原 出 来は るこ れは き か 力 G 工修 いル 道 七士とな の 召 唤者 ŋ 中で相が、 応 ŋ ۲ l をい禁 カ 欲す でき、カンを身に、労働 をつ 高けそ める l よたて め何 のよ 修り 行も をル 行 シ っフ 7 エ ŧ ル ځ う倒 す

を避 け ` い穢 っれ の 1 幕 5 l の中 自 G

11 つ は 1

シ X 才 11 厳 粛 命 せ

5 汰な はみ にンは 霊山 思わかな使 P は女身 人を 禁制、 修道だ 士え o to 精神調が、シ 和卜 を惑が わ l そ の カ ئج 失 わ せ る

沙 ŧ っ 7 の ず! `\ ____

ح 宣言 した際に

一 え ` っ ! ? _

言 工道 ۲ まを対しませる。 士 飲 伐し 女 いみ込む。以み込む。しての禁忌に、あかしての禁忌に、あかしての禁忌に、あかしての禁忌に、あかしてのない。 アからグ シメオンの恋路を応援すると言っさまな驚きと不満を含んだ声を上ダリアの美しい妖精のような姿を たげ想 国そ像 王うし のに 約なシ 束 っト をた 1 思 が が · · · 返ルし しシた てフ修

は 修道 す ~ から 院 の歴史 ての責務しての数号があると の + で 自 っ 7 5 おの 3 カ とき悪 欲事 のに 戒用 をい 破 ` っ或 たい 場は 合そ もの じカ ゃ で 人 ځ – 闇 に 生 tz 外 道

すぐ が <

修行 はさ からくそれがいっ! 甚に 大痛続 じめ やつ 、け 覚て 悟や しる てわ お! けお ! 主 与え G n tz 3 力 工 ル 召 喚者 ح 7

の 分

ζ では 頑張 っ 7 数 さ年 せ後 ンなル シ 5 7 シェ 線をオを ン 倒 はせ ふば 5 to をにな い人 生 ロが 僕 レを ン待 スっ にて 目い をる 遣 ::

一期 待 ح 不安を 交 錯 が ح る 1

方 で シト ŧ O 1 V ス 12 視 ĺ 再 17 開 <

なら 対と ころ 送 峙 3 る日 ζ で お ŧ 12 置 主 いっとお はど か < う るも t 自 わ 然 る け ح ţ ? l 今 てで 7 Í の な能そ で n ι, カ バ はとハ移 失 も望む。 ŧ 7 の : そび傍 \sqsubseteq るな ì ίŝ や世 l ろうが… 7 来た ţ う 12 12 溶各 ŧ あけ地 、込をどみ巡 う、 ŋ し俗な て世が 606 と幕魔 11 6

7 地と بح 放ん せ 的 l いも 何だ G した のの 方 はが かき 力 エ 12 合ル っの 7 召 お喚 ŋ 者 ま捜 ず。 の 御 為 許 7 l か n 頂 に け 私 3 は tì ŧ ح 口も 1 2

ŀ 1 にく 変え ح *t*j` < U レ ン ス は 修 道 院 滞 在 の

1 る IJ ۳, 1

う なに O ン ス が 7 の 所 作 _ つ _ つ に 醸 l す 清净 ti 囲 気 の 理 由

ť n シ X ン の 12 屋 意 ĩ Ţ

がシ シ メ 才 かゞ ン 申 の 17 冬 3 突 ι, 7 出 7 tz 間 ŧ *t*, く でを あ用 る。 安 心う 感 か、 か 先程 か、 感じ 7 1, tz 素朴 *t*~ 疑

të っ 7 け * ど Ġ ۳, う で 修 行 をす 3 る の か 人 気 何 もか 1 いち L 1 $\overline{}$ っ ح 想像と違うな。 そ n に ŧ 魔 物 tz かゞ

tz す Ś tž

ふん 小 t ţ っ ح つ ι, 7 来

ン シ ح ŀ U はそ レ ン ス 言 葉に 12 指 再 で 合 び 大 図 きく لح す 3 鼻 \$ 鳴 5 ح 後 ろ Ł 振 ŋ 返 つ 7 步 * L 後 か シ X

など か 繋 胃 l が ŧ 1 っな が がらだ < 整然 7 シ ١, る ح X 陳 か ŧ 才 G う 列 ン * ح **一 と** n つ D ι, 7 っ の 1 7 レ 小 さ ンス 7 tì 2 時以邪 聖堂 が 外に を寄 シ で `] 出 t λ そに こ連 ŋ H ロなにれ が ι, はら があ Ţ 過れ る う 去て わ 1 のや 荘聖人って のけ で 達き な雰 ŧ 移な o t 囲気 遺の ١, 物は G が 漂 l 擅 2 い後 7 聖方 杯の は やド 1, る 僧ア 衣か

ŧ そな シ ١, X 7 才 の ン が 不 審 で 何 に ゃ 駆 Ġ Ġ ブ n ツ ブ 7 ツ の ح 詠 で 唱 あ ž-る 始 めシ tz ト 1 屋 隅 に 動 l tz か ح う ح 何

ζ. 階段 の 次 がの 現瞬間 で tz あ の で る る何 ŧ tì ι, か、 12 思 わ n tz 片 の 地 面 が Œ っ か ح 穴 Ł 開 け 地 下 に

っつ ι, 7 来 ι, \sqsubseteq

続き < 、シメオンを 最後にシメ 省み ン る ر ح 風 ŧ 行にな 吹く `れシ ŀ でらは ŧ そ 段 ځ 後降 ŋ しって 7 < U 1 レ ン ス が シ 12

シ ンが 暫く 階 才 段 人を降 'n 病 7 < とか 上な 方 が フ ッ ح の 杳 がに り行 返く る ح 出 入 ŋ D か 7

姿を 消 メ ` 壁面 12 設 置 終えれ tz と松 明 の 薄 光 の 4 が 段 \$ 照 らてい行 振 す の

姿を 細く 現暗しオ すい 階 段 z 下 ŋ る 左右 に暗 扉い が 続 天 階 井 に 鍾 乳 石 の 垂 n 下 が っ tz 広 1, 通 路

てこん 1 りは場所 が

X 才 思 わ 感嘆 の声 を漏 G l tz

「スシ ŀ P 山 は 巨 大 なず 地地 下要塞 $\stackrel{ extstyle \sim}{ extstyle 1}$ 9 コ にン 扉が破べ ح れな っ のがて お る をれは数 十年 前、 ر 2 で ル シ フ エ ル

の 决 戦 か 行わ n 上の 聖堂は たメす , , 壊 ż tz ح ح 落 5 んか っ たわ \sqsubseteq

7 人 n か G ι, < つ ŧ 迷 のわ 分 ず 岐の を森 越 えシ 先才 の ン 聞 の 前い でた あ シ ト 1 b は 足が 止た めた。

ح

老

の

17

か、

Ġ,

で

l

飛び

出

う 言 っ 7 シ 1 にが にらけ 放 つ 数かた 屝 の先 に あ る 光 景 は シ メ 才 は 勿 3 に 動 ľ る

の U レ ン ス す 分

っ tz \mathcal{Z}_{l} 部 12 詠 屋 の 内 唱 部 は幾 7 + る 人の も衝 の黒衣を着た修道僧逹繋を与えたようだった 達が 大 *t*j 環を 造る う 12 座

の は の こ唱 2 E 彼え 筝 かい Ġ 溢 1 出 る 才 ラ の 旈 n が シ X 才 12 すら 1, ι,

者た t の + の 能 央 カに には Ţ 大 つ 7 ŧ 7 1 れ円 ぞ形 れの 規シ 模 X 才 ح 色調 ン が 住 む大 濃 淡 陸地 Ł 異 に図 l が 置 7 光 か 1 る白 ح 7 黒 の 上 の 無 に 数 は の黒

案さ で昼 n つ てお ť. る ح と な E \sqsubseteq 発掘 ح < 1 探 する 査をを 続けのこと悪 特務機、そ ۰ 関 n IJ じに や修 Œ 優 道 全 7 士 れの の た居 計 預 預言 画 は ζ 者 \$ の探 ح 資質を持い金し、そ から 得ら n つし 高て る 僧 預 言者 逹 報 が を基

薄闇 か ,ら漆黒 12 溶 け 込 h tž シ ŀ 1 の声 か 聞 Ż

 $\bar{\mathfrak{r}}$ ゃあ ` 達 の 行 動 ŧ ? \sqsubseteq

「う む。 っ tz (£ ろ ど になこ う 12 弱 辿 バり 着くまで 11 7 7 が ١, は 1 把 け握 れし ばて おお 主っ it to 魔 物 l の か 餌し 食 お ح tì 主 ŋ の 能 今 カ 11 11 ر د ح の 世 か に G お G 知 h で ľ ₹

シ ŀ シ残 フ酷 エな ル回 返 さ シ とオ はン 出の 来背 な中 いに のは で冷 すや か汗 ? が 傷流 つれ v to

G の ば 地 今 のシ 図 か、 X G 才 ルの ン ŧ 恐ら の < 居 止 場 所 め 想はをれた る t こメ 筈 _ tz ル シ フ 工 ル

いシ O ŀ 1 レ の ン 言 ればがまか 質 Ġ 簡 バで を投 11 7 にげ 7 の it 死 る \$ l たる の tž ろう か 多に 自 分 か Ġ 12 ځ < ح の

: 7 は の n 邪 深 が 海 気 出 来 をの 操 魚 底 今頃ここ 術 ŧ Ł 身に或 着 る お け時 7 は G お極 λ 実の わ。 る 悔局 し地 : いでル がそシ の フ こ羽 エ こをル か休 は Ġ め ると 或る 探 言時 す るわ は これ 孤 7 島 ۲ はお の 不 る 火 可 山 能更 じに 中 ヤ奴 :は或

_ ~ う で す か

U 1 レ ン ス の 声 が 落 胆 12 沈 ť,

: ľ ゃ が L か l

ト は 冷 1 回 答 ï 補 足 Ł 加 え

書館 入を _ < 狙 ーシ る っつ tz に め 7 12 大 いけ j. tj. る 間 る ح 違 7 言う わ行 1, 庫 İ n 1 場 が く言える 勿 が n 論、 必 tz 要な シ 戦 ŀ 宿 の ح 泊 時 1 は施 といと の 全 設な ず が 声 や怪 るれ にて は揃 る っ我 ŧ 何 人て人 っ 7 12 お の地とれ 3 ŧ 為 下 ル は (の治戸) 要塞 シ フ 間 る ル寮設は が 工達 力 ルい せ 9 はな *t*~ 東西 戦いに 大軍 1 ١, < ン ル 絶 ベ ź シ の \forall 備 率 tì フ 决 Ź 秘 12 いエ 意が 儀 は長 てル カ ス \$ įλ \$ 集 ト シ め養 め 戦 P メ G う tz 山 ι, 巨を れが に よ大 7 勝攻の 図 5 ι, め命

7 シ X 才 ン 逹 の 修 道 生 活 が 始 ŧ tz

厳 ż ţ で ŋ の ŋ G 五 つ 7 シ 早い tz の 述べ tz 通 ŋ 祈 ح 労 l

起床 İİ 太 陽 が 昇 3 Ţ ŋ Ź 7 の 数 時 胃 が 想 に p さ tz

意識 \$ 無 12 l 4 7 `呼 吸 を調 に和 さ せ ` 生命 の 樹 ※セフ 雨イ瞑 O ト \forall を思 きいれ 描 < の ゃ

黑衣 ۲ iz 1 身を 語 り包 か け 祈 る 台 玉石 を置 ١, 7 囯 \$ 閉 ľ 膝 に ・手を付 座 一禅を す る シ X 才 ン

セ フ 1 **ラ** ≫ 《ネ P 9 1 デ ナ \vee D の 1 光に ホ の F Ţ り互 * ^ 整えい Ė 基 セ に礎ド 徴 関 l 連 1 7 しエ公お てソ正る。おド《。 * る ケ プれ 王 ラ は 1 王 国 ≷ 冠 ~ケ マ ル 7 テ ト ※ ル **今** \vee の 1 フ洞 性 工察 レ

王かシ n の 声 ĺz 石 従 がっ 配 7 列 シ ķ \$ tì 才 ン l が そ呼 の吸 一を整 _ つ がい 像 順 にを 光 浮 んを帯びて 1, Ź < 集中 す る 造 作 に

う ≫ は至高 の霊感 冠 (感は旬心《ケテル) 世 界 察 \forall の Ł ^ 表 木 神 7 ク的 属 7 1 お 性 \forall る は に洞 \sqsubseteq 於 察 いるホ 理り 知マ 1 ۲ **** l てに 平作 衡用 をし ち神 の この三霊感を つ顕 の現 t 性せ る セ フそ 1 1

光 生 線 - Ť 命 洞結び の 樹の n 三 セ 極 フ 1 造 O ŀ \forall ラ は 1 上 P 方 ンに グ 位 ル 置 》を形 成 つ す の 性 セ フ 1 ラ が 光 を 放 ţ 互 1,

相 ≪ セ フ 《ビナ 反 _ 方 す 1 る 1 ラ 原 *** *** 理 lt ۲ は ^ 美 神 ホ 7 び の ^ 偉大 テマ構 ŧ 1 1 フ 🗡 る エのト 理 レ ト \$ 知 徴 ` 💚 は 更に自 慈悲 Ġ ^ の居場所 へセ 美 **今** F 1 \forall ح フ \$ 工見 公る 出 正 レ す ŀ す。ケケ × ヤプ はろう 洞う1 ° ₩ 2 12 察 の至 朩 7 三り 7 つ の 愛と 1 性 正 理

更に \$ 形 三つ 作 る の 玉 石 が 光 \$ 旅 精 なら始めて霊を象 互する に び つ * 新 tz に **二** つ の 三 極 構 造 <u>^</u> ラ 1 ア ン グ

利 世に ۲ 美 そ ŧ · テ - t つら の反 1 フ カを 響と しト 表 7 😾 l 7 の 栄は お る 光 ح んを手に \sqsubseteq する。こ のッ 三ア つー Ø ₹ 属 反 性 響 令セ \wedge フホ イド ラ \forall 12 \forall は伝 神わ のり 使 い水 遠 かゞ の

ン グ新 ル tz 》を形 に 作る属すす力 性 令セ フ 1 ラ \checkmark かぎ 輝 1, 7 結 び つ ***** 更に ŧ うっつつ の 三極構 造 ŀ ラ 1 P

7 7 降 l 臨 7 `` ~ す る と の きカ が 万 \neg 無物 原 の 罪 属 性 の の御宿り』|に対位を含んだ基礎 _ 秘めるイ G 工 れッ しょ 知 \forall 加恵《ダに至り <u>\$</u> 1 1 王 \checkmark 国 の ペマ カ がル 顕り れト 3 × のを じ通

びシ つト ***** ` が 眩叫 < 0° 光 っシ てメ 9の肉体(中空に 集 囯 結を しか 、巨大 な開 代光芒を 放間 っ た属 性 セ フ 1 は に 的 に

る 神 で 1 Ő. ι, ぞ n てあ _ る 自 Ġ ح 神 の 肉 体 Ť あ る 世 界 11 本質的 に 同 _ ľ ゃ そ の 感覚忘 n

n が 想を 才 决 ŧ つ 7 の 言葉だ

で う l 塩で買 想を 味 付 終えた け l ン ۲ ょン 菜 ゃ < 食事 飲み 0 0 は時に të とる なシ H っト tz 1 朝 食 ^ ブっ うた ン チ は 質 素そ の

12 خ なる て麦と パン tz ح 野 菜野 が、 点そ 在の野うに し後 ての お労 り働 に物 修よ 道の水間す 院て 内賄 にわだ はれっパたた ン を修 作道 る院 to o め周 の辺 粉に 引は き 断 所や 焼縫

ح ン 7 る **₹** 畑 12 為 1 仕 は の G 生 事 # 様 ž 先 か 手 っ の n 4 た大 る な伝 試っ 白 Ġ 4 7 は以 、彼なり来滅多に はい の 邪 数た 念を 年シ 後メ 也 のス にオ れ待ン 迎ア さちに tž 山 せ構 ح っ Ł Ż っ た出 7 7 肉 1 体 v Z う るの tž 的 消 决 **ک** ک は 耗戦働 う せ は の の ず快恐時 ۲ 適 怖間 を迷な ځ は シゎ 眠 X ず ŋ 時い のを 才 々 の 森約マ時 ン の東 グで が 入 しダあ 道 りたりり

か n tz の は の 畑 仕 事 の 合 間 つ

n 畑 で は 、葡萄も 栽培さ n 7 お ŋ 穫された葡萄は労働 後 の正 餐で葡萄 酒と l 7

っ た 消 灯 の 祈 ŋ ح 瞑 想ま で の 間 シ X 才 ン に 課 せ n た修 行 は シ ŀ の 言 葉通 ŋ 過

を引率 あ る時 ί O 水 面 ス 画を指差 を伴 っ (してこう言った。たシトーは、地下要塞 **参**カ 9 コン ベ ≫ の 地 下深く ま で シ X 才

_ こ の とす ľ ゃ 地底湖 ۲ 、 う … 40 11 n 言 ħ . ば命 で あ が 助 n れば水面を渡るは初ぬめからんどころか死れ 步 体を捜すこと の 初 步。 獅子 すら は 自ら 出来ん深く の子を千 λ 事り o の 組 谷にだ

「まさ か 、っ、え

で 地 シ 底 ŀ 湖 1 の中央付 は は驚きの 近 表情 ĸ を浮 飛び か ちた べ tz シ X 才 ン 冬 背 後 か l tz tz か 蹴 ŋ シ メ 才 ン は そ の ι,

^ う 嘘だろ ? が は っ : : : : Œ っ

窺 V シ ン X ス オンは厳 で視界に į l 湖 の 1 視 水中 がら 線で へとそ シ 面 X 付 才 2近で暫く ンを捉え の 身を沈 ŧ る てがシ はいいト ってたい。た 7 1 ح tz がル 、や 配 7 がって カシ 尽き、 を見 透明 なっ がめ G る 底 口

間 もい な知 くシメオルれぬ地底 ン の 生死を 案じ 7 tz か にロー 12 レ ンめ ス 中 ľ Ü 込もう ح l tz が 7 シ

「シメオンを 1 信 にじるのじゃ」人の肩を押さえ、

は

O

レンス

と語った

時に よう そ の直 n そ かゞ ح に から 『無原罪 水面 後で 光 にあ \$ 円る 柱 の帯 Ü 状 地 た気を 宿 の 底 <u>j</u> 空間 湖 の 失った _ の が底 発生 カ シ ί か メオン 、が大光 大量のた の 姿が 地か 底湖 ح 思 涥 きの う 上がり、 私が溢れ出 上水と 出 水 中 ί 面 央 か 上方囲 ら巨 12 \$ 大 濡 浮 1 遊 G 穴 すが l غ tz 同い

スを視界に捉え 的 な飛翔 カ 1 がら で 地 を飛び シ ト 1 - はシメオンにス-- は感嘆の声を漏^ シメ 才 ンを G * ĺ か たかっえ 7 地 底 湖 の 対 岸 12 着 地 tz O ン

7 17 またあ る ١ -ア山頂 で 三 日 間 の 想を 命じた

力を失 シ X 才 ンは最 日日 初 囯 の数時間、シトー は 退屈 に、 そ 熱 i T がに 二日目 シト 1 から は絶食によ 学ん tż る飢 瞑 /想法を守 餓に 苦 ĺ っ瞑 7 め G 1, n た が tz. ゃ が 7 声

l か ながら 飢 餓 12 よる苦 り、自 吟峠を越え た三日目 か ららシ 才 き、遂に 訪 n る

飢え ۲ の感覚 自ら 7 で が + 次 1 第 < 、世界を に 無くな っ ***** ŋ 、と感じ 構成する有 自ら の 内 面 的 組的 織の ー が つ無 ۲ ۲ しなシス 捉て えいン 生 遂に のは 自 樹 Ġ セを フ 自己 1

7 上 の っ 馬を告 る 7 朝 いの が つ の Ł 上間 感 9 12 ľ もか 驚眼シ い前 X たにオ の現ン だれが った眼 た大を 天見 使開 \$ V tz 力 ح 工 <u>*</u> ル が 天自 の G 翼を の 羽が

工 っ

シ X ンを ン の見 守 預 (言者と)ってい l te てシ のト 能 1 カは 感嘆の声を上 ۲ 同 様、 あ る事柄 げ tz が 育ま

n

友

っのン はと ' D ン ス かゞ l にてだ 伏かっ っ tz 日 の後 でに あ起 2 3 っ tz シ X 才 ン に ح っ 7 は

7 お ح 7 の 第 1 tc G れけ 賢 < の は 者 何 過 や バ 年 かりに 7 G ŧ ゃ 7 わ 1 無 殿 tz 理 の る ح ŧ 供 疲 は z 労い口修り る 幼 が っ ŧ 少 蓄 7 積 ŧ か ι, : G l 預 勤 7 言 めい たが き の 倒 カがれせらた 工 ` る 3 ル < ح の Ġ にい 召 喚者を 来て ľ ゃ 表 求 に並 出大 め 7 た抵 諸 んの 国を じ過 や労 ろじ 延 う ゃ 4 ح tì 旅まい L あ

る Ġ ロい シ X ぐ レ 才 ン じ つ ンた ス に ŋ の 診 ح 治 寝 療 断 結込に 果 t) あ ŧ O tz 述 1 tz ベ レ る ン 治 ح ス 療 12 術 に 長 つ 翳け か tz l の 老 薬草 暫 僧 く は ź しそ 処 ての 方 か手 しらか to 15 G 配不 思 7 う 議 にな 口才 1 1 レラ ンを ス発 をし 見な

7 ح 7 のこ n つ えれがて U の 何信 1 時 ľ ŧ 故 レ 一から ンで シれス シ X X なが ほオい シオ ン 出メン に 来 オに は 事ンと 喜 で のっ は見 7 l あ 守 O か っる 1 った中 レ たが、これでいてを ッは 同 F 時 に で 彼 U 荒 \$ い守 1 る レ 息 ンを 超 スた人 ての ŧ _ 7 Ţ 人 いう るな の 人 完 7 間 全 1 れな は存 の tž シ在 とメだ 才 気 ンた 付 * 12

G 週 胃 ۳ すば る ŧ で U ン ス 見 5 tz

才 よる うかかそ 12 とに l 思 てか なわ つ いれ黒 でた 衣 は の 遂 O 修 鮮 12 1 道 で は レ 服 頑 ン を 会 快 ス 固 なが シ自 則 ン ١ G 付 1 のけ Ġ か 白 らいれシ 着 僧 てメ 衣衣 いオ にたン の 事バロ近許対修は 感 可し 道 熱 \$ \$ て院心 感じ も過でに ぎ剰 7 1 iz 取 っこのレ 因 た だ 集 ۲ わ団 ح 11 9 生を っ た 活 う 意頑な を完 なに 全 - 7 12 面れ受 もをけ シ変入 メえれ

う う tž ーン 方 12 う つ で バ 以ハて 7 Ţ l ŋ か 7 6 G い眼 なっ さロ かき 11 っが たレ た穏 大 役ス でや あか をに ろに果対 うなたす 畑りしる 仕 た親 やハー 料り レ ン 理ク なと ス ど各 にる も要 の地 労 z 1/2 遍境 働 のな に歴 ĺ 変 自 7 化 Ġ のいが 喜た訪 び際 n をにて 見はい 出自る す s t

は 1 勿 < h h 、や シ瞑 想 メ オ は ン熱 の心 修に 行行 にっ 付て きい 添た うけ 以れ 外ど o 6 場 面預 で 言 は者 滅と 多にて 秘の 儀自 G \$ 操 の 能 る こカ 2 % が用 ない くる なこ っと

l ‡ 方 tz に まもシ 変メ 化才 がン 生の ľ 7 言 1, る Ţ う 7 だの つ 能 たカ かぎ 成 長 l 7 ι, + で U 1 レ ン ス の シ メ 才 ン \sim の

7 シ 道 保 X 院 O 護 のてしすオ レ る ン で \$ ン の の だ人スに D 旅 は近 1 の シゕレ 途 + X っ ン てオた ス ン のがロ しをだ 守 はく仲 ŋ が レ 続 ン のシけ ス ーメた の 上交人才 シ ح とンとメ 合しの もオ て能 あン 极力 っへ ううが ての 成 れによ 長 ۳, う l į こ方 12 なて かは そっ D の のて1 優魔 友いレ し 物 っついに はたス大対 。へ人抗 と が す 近力る 付の術 くな \$ にい持 つ赤た

兄う 弟 し Ţ う ニ İİ ح ゃ が あ る親 ι, そ友間 n 情 以を だし ح もう Ţ か たな ŋ 情 老 僧 逹 の 間 で

7 バにれ か ヤが一 よべが 。に流 地政れ 方務 る にをよ お行う っに て過 ぎ ι, た去 っ tz あ る 日 都 の 宫 殿 で は 時 間 に 追 わ n 7 1, る か

セう ス国 手 王 ン H る 住 居 設 備 建築の 進捗 î h t ţ < W を伝えて < n ι,

***** 度 けス てク いて をた紙 抱国の え王山 てはに ` は 執傍ま 務にれ 室あ をる先 有程 行 き識者 識か G しゃ熱 て役心 い人に た達書 セを類 バ集 \$ スめ 読 チたん ヤ様で ン々は にな黄 作会金 業をで出て出 議 に来 行 い所た な用巨 が大 が あな G

只只 今 段 認お Ţ スの チ 進 卑い √ £ す

手 の 書 \$ l tz ヤ ン は 7 l 7 え る

ぞ つ ! ・工賃 っ \$ tz あ の確 げ 三 割 作 業 入 員 ۲ É ! ン 増 ? ÷ のにや l n 7 で ح は に 完 成 か く次 完第 成徐 4 \$ に丁 急 が疎重 せ 開に を答 る 始 の め tž tz ! ح ب 7 ŧ 間 12

国王 大 声 て バ ス チ ャ Ű る

は驚 つい ` tc 早速 エは 賃 の 増 加セ ح 新 規 雇 用 法命 案 Ł 用 意 かし ŧ す

ţ l つ ح で 食料 蓄 は 進 で る !

国 王 は ス っのチと `冷ヤ **ン**ろ の 返 事 大 備 < 頷 いん 7 せかお G 更 1 る 質疑 いを ま投 け tz

 \overline{z} 害 の 影 響 在 予 定 の 割 程 度 で "ح ざ

ヾ どぬら ti 国せぬむにセバ の Ġ ぬ年 表情には 1 Ġ 滅 す ば 3 悪 る にた徳かにの 見 商 め せに人現き るこ tz 共 h の ۲ ま買 の ŋ ι, 1 溜 占 め いめ 苛 込 tz んがを 立 t お の 国 表情 る 家 の で ť が 買 涥 ゃいすげ かか上! h G げー でなれ ١, 1 ば る __ ι, ι, ľ ゃ

セ人国 セ人国温 に陛 は 変え られ 'n わすは ! が、 __

下

御言葉で

今

の

相

場で

食

Ł

買

1

占

め

n

ば

国

家

財

政

かぎ

傾

ŧ

す

ぞ

チ の反 国 王

^一なせ $\bar{\vdots}\\ \vdots$ んバ スかス チ l こっと t ン は ŋ ŧ 国 したに 王 の ·.. ~ 少 4 無茶な れは では早速 提 案を 財し 承政た 服 숲 し議 to o 後議 で題 12 のと 配せ そ ŧ う l 12 1 . 言葉を う 。 ح 濁 ح ろ l たで

ľ ゃ ? ___

页政 が 策 賢 か明 ò 実行 か 熱心に 12 あ tz つ 7 _ 部 の 民 衆 が 混 乱 起 l 7 お ŋ ŧ す。 何 か 手 z 打 つ 7 お 1, tz II

に う う 先 *t*j 1 1 程 っ 7 ح t) l ح G れっ まが な か 21 16 つ 12 12 何て 書類 かは 手 ح \$ ح 今 は め あ ŧ る で か、 碩 者 の 張 け が う つ 7 乱 * l 王 たたの ? 魔 国 手 物民 が にを セ よ利バ る用ス 被しチ (害を減)ヤンの 5 8 言 す起葉だ す起 めしふ の ` と 政 国 止 策政ま ががる 乱 台 無れ しる

っそ 式 思 \$ う じに 名け ゃ 耽 ば シ X 国 をオ 王 ン të ま信 殿 っ じた l tz が ゃ 国 シ 暫 メ く 民 のは 团才 す ン る す 殿 ح る を何 ばに 逆 か 違 ż ι, ルっ シい ! フ た エよ ルう とに の両 戦手 いを に叩 向き け合 たわ 盛せ 大る 1 壮

7 しセ う n バ は カ は Ł 気 育 案 日 ヤ まに勝 ン 12 う ŧ なれ御利 て座 即り t 座 ŧ いい確 にす る 同がと か す 意 ti の ì ح 2 は 修 たれと 風 道 ル噂 院 の人 に提民シに結 のフょ 向 案 はたエれ け ル め tz 早馬 早 ! 討 卓 谏 伐シい 速 か 7 にメな 出 の修向才い 道けン * 日 院 た殿 れの うに救は tz t 打世修 に診 主道 開し 殿院 かて ので れみ修着 te \$ 行 実 臨し をに 時上中教 会う 断世 ざ主 議! せと 诵 7 1

セだ にに たう ح 熱都 Ţ 7 1, tz 国 12 そ 王 か 12 で か مخ 気 つ なぼぽ に 笑顏 あ Ġ ゃ 7 ŋ つ 7 ح の 花 空 絶マ を眺 弁 えグ なが _ め かり 枚た っア _ ŋ たの マ執 グ事 採 花 瓶ダを ŋ に ١J え活アれ

ことは全く知る由もなかったのである。られたという噂をどこからか聞きつけたマグダリアが、乙女心に悲壮な決意を固めていたるように変化していたことには全く気付かなかったし、ましてや修道院に早馬が差し向け

国 王 の 通 達 は 暫く 迷わ ず の 森 の 前 で 待ちぼうけ مح 喰らっ た伝 令より 修道院に ŧ tz らさ

ふん シに ŋ ぎ ľ 鹿 馬 廐 l ! \Box

暗 手 いー \$ 室で け tz ح は の 高 機嫌そう 僧 恒達で会議 に が開 呟 ι, か tz n が tz 7 れい で ŧ 7 の 日 の 夜 に は 修 道 院 の 狭

 $\overline{}$ る 達 ح 風 は っ tz ۲ 国民 ぼさ は が ι, Ź 2 n 逹 の の る 修 の 間 各 道 tž 12 地 院 は混 か に ŧ Ġ 住 乱 で 法 居 が生じ 届 設 や秩序は最早無 備が 1, 7 建築さ お ります 治安が悪化 n 用と ぞ 倹 たわやが敷 国 家 に 反 旗 にか はれ Ł ŧ 翻 う遅 遠 そ う か ح か Ġ すれずる早球 輩 か 開 れが が 魔行わ 増え てにれ い人る

老 のの 一噂 人 が 国 王 の 依 頼 12 固 拒 否 の姿勢を示 l tz シ ŀ 1 の 言葉に異を唱え tz

民 12 \$ 東ね 国家を 統 率 す る の は 国 政 بح 預 か る者 の 仕事じ ゃ ろう が っ ! h *t*~ ۲ で

修道 シ 2士頼みと ト は 吐き 情 け 1

「まあまあ 1 はこう 。……今 Ó 増て る。! . 国王 は 名君と 謳 令
う tz \forall わ n 7 お ŋ ます l 事態が大 ŧ <

うちに 賢明 \sqsubseteq 救 世 主 の 存 在 \$ 伝 え、 治安を守 ŋ 民 衆の 士気を 高 め Ţ う ح す る 判 断 は 施 政 なら 家と 1 l てい

 $\overline{\vdots}$ ている 、そ の 7 様子 持れ 続に 時シ 間メ もオ 日ン 々 自 成長、 長 し弛 てかた る VD ح \forall はま いぬ え修行 厳しお いか 修げ 行で のき 為力 かエ ル \mathcal{D}_{h} を自 身 خ ŧ G にの 疲労が 蓄 召 積喚

うし 「うむ。休養も 衆 の は つ 対 す す る意欲を か G の た取外 り戻させま 界 に 触 す しる ょう の は 1, 気 分 に 1

応 行 に

1, 最 ŧ で の 道 の ŋ 12 魔 物 ţ の 気配 は なさ そう ゃ

居並ぶ 老僧 tz 5 が 4 12 12 بح 開 ₹

ゃ が ん。 儂 は 建行か お 主 h G か が Ġ シ tj. X ! 才 ンを 連 ħ 7 行 tz ι, ح 1, つ う に 行 が 1,

当

可を示 修道僧 す 達の 捨て 台 訶 \$ 12 ・、シト 吐 ι, tz ° 1 は 不 愉快 そう に 沈 黙を 守 7 ι, tz が 暫く L 7 か Ġ 参加 許

都で そ の の ハシメオ 儀式 へ参 ン の 加 1/2 す に浮 る報 か t h が tž シ のメ はオン ン で何に ţ ŧ ŋ tz ŧ G ŧ t ろずった グ の ダは P 7 の の 笑顏 翌 日 tž の っ朝 tz 食だ っ tz

んじ ٠ * 7 グ っダ時 リアに なく る ح 喜ん 7 会え で ŋ < n る か 1 る ι, 爱 1 情 \mathcal{V} 彼 から再 * ţ 女 ゃ っは とす 喜ん $\stackrel{\circ}{\checkmark}$ V 夜る ح < の 部 n るだ あ 屋 こへ誘夜 n 4 7 t か ι, < にいり 3 か ゃ 今 ŧ 度 救 れは 世 何 主 1 が いか 12 会 取 Ü っりに 憑行く 7 行 何れん

いヤ 12 **t** 会え る 12 ťž 1

シ 少 4 不 純 ti 期 待をみ 押 ĺ 隐 7 同 道 げ n tz U ン

に か に 微 笑を 返 l tz かぎ 7 の 後 ۳, かゝ 浮 か 1 ι, 様子で中空を 眺 め tz

は 日 h 時を経て 始まっ tz ` 国王が今度は御者付きで用意した高級馬車で の 都

ŧ tz シ ば 劣 シ に そ 5 X ŀ ね 才 26 ン ι, ح 12 カ の ځ 加 。馬車 ż 身 悪魔 12 で つ 高 H 齢 ľ 乗り ľ 12 1 襲 会 撃さ 議 る 込ん 12 肉 ŧ 体 で れが 参 的 tz ι, 加な tz ۲ l 袞 の l 7 Ź は てた も通 ι, は 隠し tz 旅 ŋ U 二人 1 人 * レ 逹 の高 れン にが ・馬車を ス 擦 1 僧だ ι, ح ŋ ŧ 修 傷 襲撃は っ た ーつ の 行 の 、 で 与え 日を O l 追うご るこ 1 1 か レ ン ۲ がた ス ۲ に力を 出 に l 来 なよ る ح 増 かし

気付 都 シ か か X 才 *t*~ 付 ン ι, ح < は 12 ح が 連 L 何 n ١, 、マ 修行 度 もあ グ か 2 ダ G tz ŋ 離 P n の 姿を 純 粋 想 12 旅 \$ Ĺ 7 愉 l 放ん で $\mathcal{D}_{\mathbf{i}}$ l ι, る 7 よう tz **‡** tž にっ 掛 tz けが る 老そ 僧 n で 逹 o 6 声 には

御待 こう _ 方 t ι で で お 7 O z" Z" 越しを御 日 1 が レ , 食ら ン ŧ ス 待ち す ね ŧ うち _ 何 申 か 思わ ί か ら最後 上 し気 げ 7 お の に 馬車 宿 ŋ りました。国に場を出発し、 の窓から外を眺 、予 王 陛 定通 下 p め ŋ 姬 る 都 君 ح 様 に ح 着 が ŧ 増え 教 会 のて に 7 はい 早 首 を長 朝 tz tž っ < it

弘会を、 儀式 Ó は入 告示を 都 ŋ かの外 17 で 聞き れは にあ セ や歓声が上がった。つけて集まった夥し バ める豪壮 スチ ヤ なン 教が ひ会で行 出迎え、 , わ れる 数 そ の の ことになりまま儀式 人 4 が 取 っの ŋ ていたが会場へと 7 卷 ١, 7 t お ·、 林 案内 9 î シ す 囲ま X る 才 n ン tz 達 、閑静な の 乗る

こ の 姿も 登場 見 ž 時 八 既に ラけ 今 か 今 G かと待ち n 教 tz ,会内 部 侘 12 V は 7 国 お 王 りの 、 そ 通 達 ので 最前列 12 5 は集 国め 王ら やれ 二 t 人諸 の侯 姉ら とが と参 も刻 にし 7 グシ ダメ リオ アン

車

が

到

や否

ゃ

歓声

かぎ

かゞ

*t*z

式の始 íz 7 7 ど こ め、 n 1 グ 9 ŧ か ダ 4 か ij ŋ G アは を告 修道 G 間 の反 か、 ŧ げ 士 対 現 tj. 時 逹 tz 側 れく 4 12 tz l の Œ こ の て教 訪 位 置 n ゃ 教会の す 会 Ł の高 知とるあ る 国きっ 司祭が、広 名 ح G な演奏家に ` X 7 緊張 方向 の l に 名 た虚ら 手 ι, 達を 礼 Ţ 礼拝堂の る う 1 重厚 に視 集 時 め 1 4 tz 正 \$ パそ 面 聖 投 奥に 歌 1 わ げ 隊 プ 7 か あ 才 わ に け Ţ る ル ح 7 祭壇脇 る 周 ガ 荘厳 ンの 囲 tz を見 が 1 の 低 講 渡 賛美 昋 し衆達 壇 が l ī 鳴 歌 位 が ŋ め 置 tz

が < l ť. ح \forall ۲ ι, 進んで いが っ た。 聖典の 朗 読 \$ 始 め る。 鳴 ŋ 響く バ 1 プ 才 ル ガ ン。 儀 式は 粛 4

の 道 士 達は 教 会の 一室で

囯 が ح tz tz 会 の 助 祭 達 によっ ょってシで登場の い機会を待 はっ 儀式い でた 最も 重要な役 割 で あ る 聖体変

të の ح が が ۲ X ŋ 匍 オを 萄酒 ン与 ż 冬 の tz 祭 脇 パ壇 \$ に 固ン めと 捧 葡萄 if O 祈 酒 1 祷 レ は ン ` の ス神 後 が の 参 血列 香 肉 者達 炉 にな **⊘** に ると 分け う **み** 与える 信 役 ľ \$ 動れ 儀 7 礼 め るい \$ こた指 ح

功さ グ ダ りせ アな にけ 見れ ば つ めなら n 1 ι, る 恐怖 ح いう義務感か 7 グ ダ ŋ ら生まれ ア بح 見 つ る め 緊張、 る ح ح の 7 出 グ 来 ダ ŋ る 恍ァ ح

迫 る く

< l 才 ガ ン の Ţ, って n が 場 の 合 図 tž

tz る 擅 諸 刺 白 の Ġ 達 の かへ l Ġ ۲ 繋が は 大 う ***** る \vee Ż 1 F 歓 P 施 う 声 か ح かぎ SA l あ 広 たな 祭服 か ι, か 礼 拝堂へ に着替え tz tz O 1 姿を レ \$ ン 現済 ス l ŧ \$ たせ 除 たとき、そのない、踊った。 到 が か 、ら絢 来 iz 瘅 い爛 廊 ħ 廊のけ Ł のん 切 先 G G にん せ あ 7 るた 1,

シ X レ ン 才 ス ン は ゃ 老 重 僧 責 tz の t プ レ ッ がそ の シ 後 ヤ ろ 1 にかっ 続 G か ١, tz 明 G か 12 そ の 動 作を 硬 < せ 7 祭壇 ح 向 か ι,

シー X 才 ン の 瞳 İİ 緊 張 の 為 か 俯 ŧ 加 减 tž つ tz が l か l 1 が Ġ そ の 視 線 İİ 7 グ ダ ŋ P の

姿

す

人 最 つ 1 め の が 前 る勇気 王 Ġ 女 もに は 格位 E ح 調 置 ŧ l つ かい ح 衣自 < ح 服ら が 三 にの 出 姉 身王 来 妹 を権 tì の 包 ځ か + ん表 った で最も të す 三姉う 妹に 小 の真 振 安を見 ŋ 1 赤 衣 服 つガ 12 けゥ るン 身を 2 8 包 と身 はに h 容易か tż 纏 7 う グ 国 ダ っ王 ŋ たの が隣 P ` 12 の 表 国座 情 王る ゃ

7 供え うこ ると う l 7 再 ι, る び パ内 イプオ 12 ル ガ 到 ン 達 した の 重厚 シ けな音色がで 響老 僧 < 逹 か G バ ン ح ワ 1 ン Ł 受 け 取 ŋ

<u>増</u> シ に 刻 で 者 繋 X の か 才 れた香 周 ŋ Ł 列 步 炉 \$ 者 < 振 達 りに 背を 向 炉 にけ 7 繋 が祈 れり たの 鈴の音を唱 . أ 凛 4 2 0 響 1 か レ せン なス がが ら乳 ゆ香 っを く燻 9 t to 三 祭 壇 連 やの

目 秀麗 1 O 1 レ ン ス の 容 色 に ては教 切りが 分て後 方 の 諸 侯 夫 がワ人 逹 か Ġ は 溜息 から 漏 ħ る

_ 方 祈 りを 終える ح 達シ にメ ょオ っン けい s to れパ 、ン 詮と 抜イ ン \$ 再 \$ V 手 12 12 す る

会を そ の 满 バ たす ン と ワ 1 シ が 老 僧 か n る で 再 び 賛美 が

冬 持 7 Ţ う の つ 村 7 の ゃ 間 先 教会 7 < 祭 擅 で 程 の 歌 の P 前 っ 助 を見 tz で 祭 ح 参 tz ۲ 列ち つ め の 者 12 ある 達を る。 ţ っ 歌 正 7 面 Ł 素 12 单 17 にとく しらえ 参 列 つたいシ 者 シ 逹 俯メ に きオ小 がン 皿 はと 5 1 tž 小 教 さ つ tz 会 1 瞳 が杯 E 合 が あ唱 配 げに G 包れ 決まて 死れい る < の 勇気 中、

信 シ ..を持 X 才 2 ン はグダ 7 ١, マリ tz グ ダ ١J P を 見 tz 瞬 間、 の 視 線が J: つ か る ح ι, う 何 ŧ U 7 ン チ ツ 7

tz ゃ tż の が 妬 で あ 12 後に 襲わ る 自 n G たが こ抱 2 11 だて ろい うた そ シの メ根 才 拠 ンの のな 甘い 美な予想を思 想はい 次出 1 の 瞬た 間び - 12 裏 切何 ら度 れ耐 るえ ح 難 2 (1 羞 ح な影

先 7 グ 12 は ŋ P \$ 振視 っ 7 は ι, シ る メ O 才 1 ン ح ン は ス 異 の 1 姿 る へがあ 方 向 っを tz 振 の ŋ だ向 ι, 7 お ŋ そ 7 何 ح 視

7 グ ŋ P 瞳 は 潤 4 頬 は 紅レ 潮 l 7 ١, tz

つ 1 ?

tz す ح ۲ は ح 7 出 来 1, が 敢 Ż 7 言 う n IĬ 切 n tz ţ 1 感覚に シ

止 G 0 4 バ 間 ン ۲ ŧ 極 1 < 少 量 助 祭に促 の 葡萄 酒 t Ł n 配 tz っ シ 7 メ いオ くとは、 老僧達 の 助け

メの ŋ 左な げに国 掛な王 けっは がのシ メ 才 ン か Ġ 葡萄酒 の 杯 いを受け 1 G

福才 投派る te te シー

感じ ح G n 言 \$ X 才 ン 12 は 何 かそ の声 が 遠 < か Ġ 聞こえて < るように

ン次 は 12 王 今 女 度 達 11 に 正 バ 面 ン をかと 葡 つは菊 酒 てきを いり分 たとけ のマて はグい たダき 1) のアそ 偶のの 眼最 かを後 も見に つマ め グ なたダ ij P の 順 (番が来た 時 12 シ X

^さ っ きロ 1 レ ン ス 見ら めっ tž 然 l n ι, 1, ゃ ŧ っ ۲ そう に 違

tì ι, °

そ う

\$ マしシ グダリンメオン 先 る 12 で 気 は シは 口付 P 1 かは レな 皿才 ンいと ン か杯 の ŧ-必た 姿 ţ シ 死 う X にオ っ シ ン ι, 催かたメには 才 差 届 ン l か、 出 ず ۲ は l 再 全て くい度 たも試 異 1 るのみ 方の は 疑 向 12 12 11 はを 囯 こ確 ځ ح 泳 信 がにに せあ 変 7 5 え おず る の ŋ ` 7 4 7 のだ の存 っ 視在た

見れ たその 顕 バ の ロわ レ 後 なほ 宫 1 F 殿 最 どで 信スにも上 階 そのス 1 レ のバの ン 後 ル ス 王 コが 宫 ニあ 囯 で 1 ` ダ で 追さ G いアいれ市 た民 声 かを つ集 Ź 掛 てめ なて よい行 う 晩わ 餐会 か よて逡 の関 際も Ū 際 7 · p ι, たマ グ市 ダの リ中 ア心 は街 傍 で か行 5 6

方 ンー レ ン ははロ 7 とん 失な 望マを ヘグ 続り 7 ^ の 五 対 ち応 ぶ憂 の度し のる なよ いう 怒だ 9 0 o t

に そはシーて X 7 h オ tì 自 の Ġ 確 す 不 る 信 自 2 嫌 悪 ح 苛 ^ チプとにけ \forall 続 け tz 感情 \sim 最 後

レ 涂 ン 12 の 日 にい 何た が早 すに ぎ対 段 る ځ 11 出 事あ 左を Ł よう る "ح l n ح むへ 国 12 せ 王循 D よず 1 や環 セ レ バル 12 0 ン スー 1 ス レ ۲ つ 会 め ン ヤ 話 ス ンを の は بح 言 交 tž 7 わまに h つ たな シ シ 見 メメ送 オオら ンンれ をがそ そシ 憂のメ 旅才 ι, 気 の ン なる 間達 は

ŋ 合う 威 台 の と為 なに っ設 たけ ` Ġ 宫 n tz 殿 に祝 あ る か G ٠, お 応 Ţ 接室 そ _ るのヵ フ程 ア経 っ っ腰た 掛 け 国 い王 12 前 U 1 レ ン ス ح

tz に 囯 労を 少 の ti 前 ι, に れく 置 てつか いろ n るぎ tz 酒 のの でー の も時入 っ \$ あ味 tz ゎ グ る 11 0 ラ はて ス狭 ι, か 酒 る G Ţ 察 の 喜う す びだ にっにソ月 浸た っが携 わに 7 いそ るのて 表 ι, で 情 るて は過 ŧ t, 摂酷たは 取 ts < l 政 た務 睧 ア < の 沈 ル消 h コ耗 で 1 8 いル癒

呼ッ お音 ح か共 ま聞 l E た慣 n セた バ声 スが チャこ Ź 7 ご来 tz の **\$** 13 そ の ح tż tz

御 びク l 0 ン で ざ ١, す

う ť. 入にの っ 7 セく バれりに

۴ P が 開 * ス チ ャ ン かぎ 国 王 の 傍ら 12 佇 T)

ť. か 12

「お気 持 t tŧ け 今 頂 来戴 * せ ***** ŧ $\overline{}$

っそ ぅ **ກ**` 実は Ť は が っ 7

国王 は 固辞 * たれ る ۲ 判も 5 6 7 てっ頂 u t いの るにす ŧ のわ のけ 儀あ 礼 的 に の 酒 ځ 勧 め tz 後 で 苦 4 l ١, 表 ح 共 12

本題を と切 ŋ 出 l

ゎ け (‡ : 何 で £., ţ

セバ ス チャ 何 ح 1 < 察 Ĺ つ が 配 慮 か G 質 問 \$ 聞 ŧ 返 l tz

国王う はむ ` 娘 のン マに グは ダ ١J P ح ロが レい ンて スは 殿い o t ح ح ľ ゃ __

そう 言 う ح 片 手 で 17 V げ Ł つ ŧ ť

ζ の 仕 何 か、 困 ŋ ۳. ۲ の 国王 が 無 意 識 い行 う ح \$ う セ う チ ャ ン 11 知 つ 7 ι, tz

G 7 グ ダ ١J P が レ ン ス 殿 \$ 7 る 1

 $\overline{\vdots}$ 執事を 祝ど なうや 草を 勤 て御 お様 子 * 1 か、 がら G 察 す 7 る れにロ まそし で の Ţ そ う の ح で とす にな好に 気 付 き恥いこ まず せか んし でなでバ しがのス to b 私 め 7 グ ダ P

1, る チ ヤ

かい Ĺ や、 なと意セセ勤 父は外ババめ じスス 7 ゃ ヤ の :::: 儂 ン は 今 は儂 ての っ補 き佐 ح ŋ シし メて 才 活 ン躍 殿を į 7 好 ŧ 11 6 7 っ 7 お るお る_。 か ۲ 思 気 っ 付 7 か おな っ < 7 tz 当 の 然 ľ ľ ゃ かゞ ゃ

····女 1/2 わ のか G ね ŧ の ľ はゃ たの \sqsubseteq

子 煩 悩 親 表 情 で 国王 めう 息 ŧ つ

っさ Ţ う で "ح £. ι, ŧ す ti

に セ バ ス 7 ヤ

 $\overline{\vdots}$ ……儂は ۲ 交 l シ 7 X 才 結 ン 婚 \$ ح 一今許 マン グも ダう かても りな アづ いよりが好 がく * すには あ っ 7 7 お お がっる あたの る。 ! そ 1 G · À が 事 U ・堕天 ンスス 殿敗 tž l った た後 とで し修

同 か、 l ` は可 いし 事と 順 序

ŧ つ Ŧ, す

セ バ チ は 王 の 同 す る

冬 お か で ど ľ ゃ 今 ン で意見 人 ス が が教に 車通 会 のり で かマ かグ に っダ たり n て際ア 手にが をそロ 握の1 っ僧レ て衣ン いをス たわ殿 とざ の いと注 う踏 意を h だ 引 さとく ていた はう め 晚 些に 細 餐会 ti でも炉

お 夜が 遅 る < か 互 ニい l て人 が恋密 何 よ密 会 ŋ z 腹し 綴 左て tovita した手 いた紙 のと \$ はいや そうり の流と -言り つまし 一でた つがと `` () の 真偽 市月風 がは説 はお か Ġ っろ きか、 りせせ舞 į h とでに をは ι, うも晩 こ飛 とび交の

御心労お 国王 は 不 察機 嫌 ĺ いそ tz う しに まテ すー ブ ル z PP n く で グ は 思 ラ いス 切に っ 注 てが マれ グた ダリ葡萄 P 酒 様 か に 直接御 n 訊 Œ * n に る *t*j

n

もう、 は ? ۲ っ 12 訊 ι, tz わ ١, ! ľ ゃ が あ の ľ ゃ ľ ゃ 馬 め 全 < 12 冬 割 ろう ح l *t*j` ι, の ľ

国 王 セ バ 打 5 る Ţ う に 吐き捨 7

 $\bar{\ } \vdots$ 国 お 、 し 上 い tz l ŧ す

なんだ 途 方 ti に ŋ 幕 手 n : tz 何は 国 か 打 王 打 っ 2 が 助 け がだ بح 求 b ゃ せの 娘達 ۲ セか おバの か ス う : ŧ : 7 グ 最ダ の 近り 囯 が でア 光 はの った教 世 話 12 係 す ŧ G 聞 集中 す 出 来ぬ ح が

_ そ n で は ١, 切 っ 7 O 1 レ ン スる 様 \sim 尋 ねチ にヤ なン G n 7 は 如 何 で ざ ŧ L Ţ

_ _ ン ス 殿 ľ ゃ ح ! ?

国王は 思 わ 聞 き返 す

入は いい 1 。た レ っ が 7 市井 \$ 左い 知っま 7 l ゃ ζ 宫 1 ۲ る う + が ۲ . でず できま これ 国 上陛下、 りゅがっ 王 l ょう から通 通達が流れて 達 あ修道いれ ば、放け、残れば、残れば、残れば、残れ っロ っロるな はレ が ンら お か ス そ れ殿の ぬ苦。きっと風評は既に n ح 修 7 問 道 院 1, 1, たるだと の 耳

セ バ ス Ŧ ヤ ン は 確 に満ち tz. D 調 で 進言 る

う T. \$ Ż ĺ のう

王 手 4 持 で 早馬 ロひ げを が 都 か っ ŧ 4 出 発 1 ì が ら建言を tz 受け 入 n 翌 日 の 細

*

٦, か Ġ 言 ح っ ţ ゃ

シ はむ l る ţ うわ に あ \mathcal{V} げ 4 tì が の l る

筆 のセ 魔 の バ 手 物 ス 退治 チ p か、 ン ら帰還 ť の ک 言う スにはた é お 既修 ŋ 道 (付 僧に き番掴い 院 1 っ っ 人参加を て、マ た二人 決っグのの ダ老 たいり僧 アと半 tz ば無意識 U 1 レ ン ス 12 の 噂は G l シ tz ŀ 言 葉や 1 が 国 王

7 n tz の 日 の夜 O レ ン き 都に で修 の道 儀 式中 めて غ 同 様 の か Ġ *t*, る 会 に 呼 び

ι, Ź つ、 わ 達 n tz の 悲 詰 の ï 問 Ţ みにう · 、 か 1 事実 G レ か 11 冷静な ンスは あ ろ う 憂 そ いが 気 格 1 ざ 表い 12 っは情 ŧ て珍をせ ĺ 浮ん < か 、声を べま tì っ 震わ がた G < せ 頭の 1 をで が 振た Ġ Ġ ŋ 、自 答え め tz G す の 1 清

7 の 1/2 る 輩な 深さ どは 僧 達の中 の 修 道 で ŧ 評の に お判性 りと やな せ Ţ お _ る お 主が 色 恋に n 7 ι, る 1 ۳

う で 7 る 詮 議 五

 $\bar{\lambda}$ U h っ 、悪評 ン の ス -の が が 行 室 旈 内 れを る 12 知 る の ŧ 僧の ι, た自建じ 5 はゃ 取 の 不 h 徳乱れ とし以 知た上 れロは 11 ! V ン 暫 スて < はにす 修同主 道情い 院 l こより外出なって声を掛け 外出禁止 it ľ ゃ

*

シ

ŀ

道 Ġ の 返 事 1, の は そ か、 G 間 後 ۲ っ tz

拇 応 の l 印 tz 懲戒 が 7 tž す が l 1 1 بح 道 tz n 与 士 ح ば ح Ź ح 7 12 ح 7 いて ろ あ 道 tz いる れへ っ 7 ス tz ح ح して 道 手 11 ŀ そ P 院 紙 ۲ が の 山 は 長 にが 達筆で に口 で は届 7 あ 禁欲 レ る o to 記噂 ンス シ さが 的 ŀ レ れ流にの ン 1 、最後 生 交 が ス 涯 際 そが なと送いた抗 の 噂 に文さ \$ る 議障 全 意思を Ź 7 面 \$ する 恥 す 否 ず る 真実を示 理 定 べは 由 ح l * っ ŧ t to 事 きな ح ح す 態 りい更 で ح 12 か 伝え ` ` ` D あ 拠 とる U 修 G 1 道 の 7 で n レ 士 ン tz ン シ tz ح ス 7 る に とに う 1 n の相 ` 問 ح

7 長 殿 n には 済血料 ح ح ! E l て何 l は ŧ ح う ŧ わ n ι, __ ど う ゃ Ġ n で 疑 ι, が 聙 n tz の う。 ح は 1, Ż 修道

の手紙 国 王 は を傍 文面 Ġ をぬ 12 読 ι, 4 る 拇 印 ス Ó 1 千 ン ヤ ンクたあ に渡し たに 気 付 1, 7 驚い tz 後 で 安堵の溜息を つ < ح

「**ま**こ ۲ で ۳ ざ 1, ŧ す なセ _ \1.

セ バ ス チ ヤ ン ŧ 文 面 بح 読 4 t つ

7 ば n 7 12 ダ l 7 の り P さが VD) O n 1 7 レ か l ン の ŧ ス : う 殿な のも はが 罪ら 無 な相 理お槌 の方《 なじあ やい ι, このづ 0 ح ·····あ ľ ゃ 7 の グダ色 りに ア高 が口をか 割性 G んかえ って たみ

しそ Ġ バ 7 ŧ グ う 1 P ح U が か、 レ į ン 2 スを 7 い巡 る tz 王女連 この騒 美動 は l _ 1, 修 応 修道士との色恋沙☆心の決着を見せたよ 汰わ のけ 噂だ はが

7 ダいメ ン は 儀式 で の 出 不事以 来 抱 < よう に な っ tz 鬱屈 した感情 に 依 然 ح l 7 さ

わ る h レ が つ Ġ tž ľ ン 7 ス る 女 ゃ tj. シ 性 ないョ 君 修 の っ 11 道 Ţ ッ 7 \$ 士 ねり 7 P だグ で : tz っダ J: ては あ : tz ١J ŋ G で よ ア 1 か 12 ŧ が 言 君 好 G てを う ŧ か 下 t ι, る 同れ 1/3 の りん とか 情 7 をな 合 ح h う ? l ι, 持 け馬 7 る 7 っ つ 鹿 7 不 < Ţ て合 馬 れう 届 言 ١, 鹿 るだた * う 7 ĩ か ね の ľ 片 ι, 1, は ゃ tž £-自 1 të ! つ H ŧ 分 \vee ١, H 自身 ž か ۳, 1 `` っ 君 か、 7 君 僕 ľ 11 ゃ 責 は はゃ 修 ママなめ 道 G ググいれ 士 1 ダダかばとい リリ ° 1, 1, アア tž いう ž-\$ っの 五 好好たか場だ ? G 1, 1, にけ 7 7 何あど るいロ žŋ

スる ン \$ スこけ か 避 の 12 の け ţ 直 Ţ る う 接 う ti 7 グ答え う そ 12 の 1) の っ まア 1 7 いにいと いを つ問 囯 っ 1, 1, たにてを す 尋 延 る 12 4 る tz ح 続 び にと ` ŧ tj. 自 出 が 来 G 分 自 ず ŧ 身 がロ 体 恥 裁 1 レ ず かン 7 しスい のさ < な清い っ 廉 \checkmark さの 7 段 が悪 溶さ 4 とけか O 出ら 1 10 レてー ン い レ

気 う ľ 遣 U 1 1 っ ってレ てかン スよ ι, っ地 ŧ tz 下 の以な佇 来 図 修行 書 館 で で の度 文 4 献 注 歌研究な 仁意を失 ど ι, ` Ł 集中 D 上 ئج ۲ 乱 l 7 す よう 修 行 12 の 付 1 っ ŧ tz 添 シ 1, をメ 徐 才 4 ン にの 休 Ŋ 情 ť. Ţ \$

の ţ 関 係 ح ح

1 がら 老 僕 ح 僧 か ロの年 ークだな から から人 ン ス っの の U 部 7 1 屋 レ ン何が の 前 スも暫 12 \sim ロく の 1 続 ι, 簡単 tz レい ンた tj. スあ 言 へる の日 伝 \$ 連の 終を 頼 ŧ れ頼で たまあ なる シ X < 才 つ ン tz は つ 7 ح 1, うい の \mathcal{Z}' の 12 tì 中 で : Œ やき

で あ 7 で 9 あ の z る時 シとシー のスあメいメ 才 才 う る ン ح ン ح lt 11 12 ح う O ŧ `` ح 1 7 7 ح レ の ŧ ンの日 知 ス老 か Ġ へ僧 U tì のが1 か 遣 ロレ 1 ン っ 1, \$ レス ンの ス嫌 h tž の疑 の呼を はば否 れ 定 二たし 人修た 道手 の 院紙 関 会が 係 議国 12 気 に王 出に ځ 席届 h しい 7 7 tž 老いか te b 練 一数人 1 僧

D 1 なレ 木ンで 用 事 っ度が あ る ッん tž 0 居 る か いた ?

素 屝 \$ 1 7 l 7 声 ź 掛 け る

7 顏 tz \$ シ合 X わ 才 せ ン た tž < っな幾 がたか の で ` なる事 ح が に l o to G レ 用 ン件 スだ はけ 不を 在告 だげ 7 つ tz す ぐ 12 左 t 去 ろ う ۲ 考え

りシい か、 G \$ X 見 才 渡ン が は か、 l 7 _ 瞬 周 つ 7 7 囲 おにのた ら人 場 ずが £ 去る外 、い去 1 う イい ッのと を踏 い確み 出 う 認 軋 すしし みる tz حٌ か ح ` も粗何 か ti 内 \$ に扉 思 開 の ι, 取 つ ι, っ 手た によ 手う をに 掛 五 5 け 止 tz ŧ 9 屝 İİ

ح ζ ι, う で 言 入 っ 7 手 に が け か シで ら人 X シ ŧ の 才 メ行 部 ン 才 1, 屋 のン はへ のし入ぎ ŋ 行 1 \$ į٨ か \$ むと つ tz t う せ る 2 7 ح ک ts. z 真 ح は付 似と tz で け \$ き加 まえシに末 7 X おオ 衝かン ねがい 動 ば修た ح いな道 ら院 う になに はい入 十 だる ろま 分 う で 。も す ***** ŧ 出 る ほ来

れは苦 tì う る の たス ₹ とい べた ッ 子 ح か、 7 5 册 ti る る の 簡 書 か 素籍 ح 訊 tì が 部屋 置 か n か をれ n ばきた 7 ョ小 ロさ の キな 辟 シ 习 机 X U と修 才 見 道 ン 渡 士 自 達 l

いに 違 ι, キい o to キだ 可何 とか する 1 のの、ど ts. h な予 怪感 が l うた

で 3 1 きな か t った 当 tj. なよ がう らにな チ エ 3 スト ځ 開 H いて中身を調: 部屋を見渡; べ る ŧ ほど の ٦. う 7 やら 7 l l はそ 持 ちな 合品は

へ何 \$ 考え 7 る h tż

押さえ込み 自 分をとてつもな う なだ n < 恥知 tz らず 1 卑し ι, 低 俗 *t*, 人 間 12 思え tz シ X 才 ン は 掌で 頣 を pp ι, 7

7 ス の の間に紙片ら 時である。シメ l 1 白い影 才 シは がう つ覗な いだ 7 h v te る視 のを目にした。 n の である。 べ ツ ۴ ح 粗末な 7 ツ

そ る おそる 紙片 ż 隙間 か Ġ まみ出 す

ゃ İİ 封 筒 t ! \vee

ン 12 は は ...マ 筒 か ら手 グ 紙を取 ダ ij P ŋ ţ 出 ŋ 1 0 レン 読 ť. ス 様 \sim ح 書 か n 7 1, る 熱 に 浮か n tz Ţ う に シ

レ ン

あお の 日 再会のの表、 日を誰 いの姿が 私 の 頭 か Ġ 離 n ŧ せ

今日 の より御 ま待 5 ι 7 お ŋ ŧ した

お 迎えを 遣《よ ₹ */ す

に * 7 tž さ

7 グ ١J P

の 日 tż

ح 目 震わ 的 の せ ら左ち 7 考えうる最 尽く す 7 悪 の結 の 時、再 心果を告 木 げ 小の軋むる手紙な بح 読 h だシ tz X 才 ン が 肩 Ł 細 か、 わ

X ン がな り返 っ たそ の先に居た の はび O レンスだった。れむ音が聴こえ

手 12 部屋 n ては **9**

そ う言 , か、 けに た入 の 表情 は困 最 初 驚きだ っ tz かゞ シ X 才 ン の 持 つ 手 紙 が 囯 12 λ っ tz 間

怯え ^ د 変化 す る

一方で ・シメオ ン の表

えて苦し : だ け 「勝手に ۳ しい時を送っ、この手が 部屋に 入った っては いろっていうのに、は何だ!?恋文じゃか のは謝るよ。君が受け取った手情は嫉妬から生まれた憎悪に狂 ない 君 は か 王女様と恋愛か 7紙を勝手になっていた。 レンス、人 ι, ! が 読 必 h ? 死 で 何 で l ŧ ŗ 来る ŋ 君 っ べ tz II きの 修道 19道士じ時に備 ŧ

するよう シ メオンの ĺ O レ か ン Ġ スは 大雨で 水位を 傾《う o to せ川 き の 水 ι が tz 感情 が一気 気に溢 れに 出たれ 7 気 12

「違う で す。 そ n は

違う う h だよ。 ににそ n メじ は何 手紙を 1 き手 出ま 1, る h tž

否定す U レ ン ス シ オン 突

l 7 を貴 方 伝 Ź ます

め tz で U レ ン ス は シ X 才 ン を見 つ め る

う Ġ 日 U l れ人 Ţ ずいかし う 1 生 ンで か ス シ 残 っ を メ 酷 tz が ż 嘘 12 の を感は ン る Ü つ 士 \$ つてで自いたと で確 てかは っをいらい Ż ŧ 抑 なで え え ١, す 手 l G るこ ح 紙 tz \$ ح を は ŧ や なが真でや う 出 っすし **-**直がて 度 it t 来 なぐ l 出 l ح かに 手 ŧ 会う シ 紙 え っ たメもば こいし 才 今 賞と l 日 ŧ ン 2 ŧ + たな な望ん 見 に気 燃持でで彼 つ l め やち も女 l ままいの る てでうな部 瞳 ٠,١ か l ŧ **\$** & 7 直い 灰の修は 感 まに手道行 で しし紙士か ょてをとず うし捨

ロなし てオ いは と分 h やと かにい の

L 捨 嘘たな 捨 のと < ľ 葉 ? ___

1

う

tj.

言

U

1

レ

ス

は

悲

l

7

う

1

を表情を

l

こう、「私は貴 貴 方 いいにか さえ \$ く台 人詞 に え ŧ す ?

思

わ

G

出

呟 tz

: ゃ 7 h

O 1 思 つ め た に、、 シ 詰ま らせ

 $\bar{\vdots}\\ \vdots$ そしい れン じス や の 手 紙いな 11 貴 方 が表 処 情 分 す 3 とメ いオ いン では しょう ! 4 の 手 紙 を持っ 7 出 7 行 っ 7 く だ

! \sqsubseteq

4 う O 1 レ ン ス の 瞳 II 悲 l 4 に 濡 1 7 1, tz

「……ざ

向い か tz tz 屝 まめ れん に 手を 1 < 1 っ た シ tz X 才 ン は、 手紙を テ 1 ブ ル に置くと 部屋を出て行こう ۲ 出 12

7 の \$ 時い で あ * ĺ る ۰ め 駆掛 けけ 7 来 tz U 1 レ ンスが う tì ľ から そ の優美な腕をま わ 後 ろ シ

「 メ 私 オ っ シた 才 許 ン し がそ下 れさ にい . 応える

の去囁がン っく悪 メ る 間 ŧ *t*, く シ X 才 ン z 突き 飛 ば す ţ う 12 元 の 方 \sim ح

た扉りと ح \neg がまたとか抱 な対 か l っ かた っ 7 たな っ部 °ற た屋 か ー の 、と外口いで う 1 言 シ レ ン葉 X スのオ へにつれない。意味を考えなったは突然の 対応を 出 来事 しれに に茫然と たが こマ とグ にダし 対りな しアが てから なら O 恋文 の 1 レ مخ ン 受 ス シ メけの 才取口 っに

ス の ン触 \$ 思 流い 出 のか の が濡 てけ中 たをさ す

ス の l te L 涙た 跡 れに

聞 l うぶ

よう レ < 7 収 束 の 兆 l を見 た出来事から せ ようと 一ケ 7 月ほ ι, tz ۳ あ る が経過し、 日 の こ と 国中を飛び で あ る 回 っ 7 ١, tz

後 宮殿 の 広 間 で は 雅 冬 極 め tz 、饗宴が 催され 7 ١, tz

を招 とは 不 いて 待 はい 加 の 対象 Ź të 行 わ っ 'n ζ tz خ 諸侯 tz の 1 国威 招宴は国王 っ た 12 は混乱 発揚 の は の 遠 を狙 しに 1, 僻地 ح 式 2 11 0 12 たが、午前、 どうし に住 た謀反など 4 7 、あ も参 別から始まった以治的意味を持 の 3 の可能性も残さるいは政務や私口 残され 一連の 事に 出 7 来 いた。ていたため、修道士が不来なかった諸侯達だった。

n 国 tz 王 最悪の 事態を ŧ 予 想 7 午前か 式 は 滞 く 円 滑に 行

12 į 就く代理が ŋ 12 出席 で Ĺ 1 7 っ te te の は 旅も 叶 ゎ ね IJ ۳ 高 齢 の 諸 侯 tž け tž つ tz Ĺ そ の 諸侯も要

感じら 参 加 n 者は皆一様 ず、 怪し ١, に 談 順 合 と協 が 開 カ か、 n の 意を表 7 る ţ L うな気配 国王や セ ŧ なバ かス っ た。 チャ ン か ŧ 7 の 瞳に

三姉妹 ŧ 諸侯 近派になるの接待 iz 当た ŋ 万事は 順 調に Š か に見え tz

枚 世主 一殿も 五 のう。堕天 ねわ

きと軽い だが 国王が 悲鳴 の声が 諸侯 のな の一人と談笑しるられてのう。な 上がっ tz 7 ι, たな そど の取 時であれるに足 3 5 諸侯ら 12 同 席した夫 人達に ŧ. ゎ

飲んで 人国王は マグ 1, ダ 7 ヒセバス た飲料 国王が ŋ アは チャ屋 振 水 が白 ンに 運 瀉 \$ ١, . た そ 伴び <u>څ</u> っ込 しゃ の先 ŧ 7 ħ $\mathcal{D}_{\mathbf{i}}$ 配 12 すぐ さは 7 う R R ` n 宫中 大理石 こむマ 苦 ĺ そうな愛娘を見つめる。・の名医が呼ばれた。二人の娘 の床が のり 上ア で の いさな水溜! りを 床 に形 iz 作っては先程 接 作 待を 任 まで ι, tz せ

ってれ は :

か 娘はどうな りの診療を終える ぬはどうなんじ ゃ

_ 通 ŋ た後に 言葉を失 宫 延医に 国 王 は 詰 め tz

一者ら 国 三王陛 しく、落ち着 下、 人 払 いをし 1, た声で医 7 ι, 師 tz ただけま は 願 す 出 る か *t*;

1,

う ť お前 達、 しば はし席を 外 i 7 < n か \sqsubseteq

国 王 の 一声で マグダリアの 世話を して ロいぬ た宮女達はそそく さと部屋を後にす

7 n か Ġ 暫くして、医師 İİ ゆっく ŋ ح \$ 開 <

の 症 İİ で す 1

国 王 は の 言 言葉を一 瞬り 解 で きな か、 っ tz よう ŕž っ tz が は ح l たように マグ ダリア

り向

_ { つ、 お 前 \sqsubseteq

震える の ダ ŋ はア は 息を喘が せ ながら うな 交ず わい tz

のい おに 腹に、マ いグ る あ の 儀式 の 夜、 契 ŋ £ l tz O ン ス 様 の子供 で

tì

b 声を 漏 Ġ し た 国 王 の 表情が 、驚きか ら悲しみ に 続 ι, 7 怒 ŋ ^ ح 歪んで ι,

1 G 士 娘を J: G か l tz 1 ! お ŧ け 12 嘘な ۳ つ * っ 7

< どい ŋ 配行立 そうれた ま国 王は 部 い屋を出 7 行 ځ う ۲ L tz

国 王 下 2 \sim す 3 ! ?

セ バ ス 千 ヤ ン が 1/3 12 尋 ħ る

てええ ゃ ! 1, ŧ っ 7 お ろ j ! 儂 自 Ġ 修 道 院 に 乗 ŋ 込 h で 直 接 あ の 小 僧 め £ 紼 b 上 IF 7 ゃ る の

国 王 陛 下 の は儀 は 止ど やな さ る の で

「 え え ι, 7 h tj. の + ! __

ほころ 陛 下 び が生 お気 ľ \$ ŧ l か 1 12 なさ う ぞ れじう 落 ŧ 5 せ 着 7 ١, てん 下な さ ζ ح かいを ! L 7 は 7 n 7 結 束 L 7 ι, る 諸 侯 12 ŧ

血 相 Ł 変え 7 セ かバ ス 7 ヤ ン は 国 王 مخ 止 め 12 かれ る

「 え え ١, に離 7 \$2

1 わ け は 参 ŋ ŧ t X2 1

ン カ 12 づ 4 合 < 当 tz で ŧ ŋ が 部 屋 セま バ っ z スた 出 千 が Ţ う ヤ ح ンや はが す l てる たセ国 たバ王 スと か 尻 チ 必 餅 ヤ死 ンに ځ をそ つ い振れ tz ŋ Ł ほ止 ۳, め t ح う う ۲ ح す l たる セ 国 王バ のス 腕 チ がャ セン バと スの チ 間

す す ŧ K \sqsubseteq

Ĺ tz セ ス 千 ヤ 12 っ 国 王 は す まな ž 7 う 12 呟

スい ン こ バ はれ かゞ 執 な事のかっと 職姿 概務でござ 女を見て我. ١, ま 返 す かた G __

セ バ チ ャ 呻 * G 答え tz

* *

ح ス チ ン の 支 Ţ つ 7 事幕 ź 閉 ľ tz

マニ 7 グ ح れい ダの z う ١J 不 P 在 の は 場 の 風 で 説 邪 D 明 Ł にが 引中 す さ * る n · \ 者 国 II 王援 出 n はに ŧ 表 か で 向 * っの た。噂から は急な 3 政 務 < の 実 参 加は 者 子 は煩 悩 何 かに を任 感せ じて 取 娘 っに た付 t t う っ だ切

tz 12 は そ 普 の 段 日 と の は夜そ tì 例 ŋ の ح ľ 酒 瓶ん ځ <u>ځ</u> グ ŋ ラ と スし のたな 他小 に部 屋 紙 か の 載ソ せフ G P れに ` 国 国王 王の の 姿 手が にあ は つ ぺた ン がテ 握 1 らブ れル ての い上

応 接室 の りバ扉 か ンッ の く続 れい **└** て 訊 ***** tì n tz 執 事 の 声 が

う t) ませ ス チら ヤノ かり 入音 っと 7

か、 į ζ ŧ l tz

tz ペス ピ 書 国 記 王 ١J の 冬 声 ッ行 · j ĺZ ツ 国 応 \forall の 王 え ボ 7 の 姿 部 ŀ 屋 ルと ` 12 が 置 今 入 か 日 っ れ開て てけい 1, Ġ っ たれた たセ よバ う ス だチ がヤ 既ン にの 半目 分に I II ۳ まい でつ にも 減よ ŋ つ て明 ι, G る か 蒸留酒

「 お 7 わ \forall ŋ **‡** す ぞ \sqsubseteq

多 4 ic ic 国 4 す 王 の tz 酒 癖 か に 17 \$ ľ 出 ゃ す かゞ ζ `` ح 7 一空を見 ŧ セ めなバ てけス グれチ ラばャ スこン をんだ 手なっ に文た が ど to 2 10 7 配 ŧ か 書 G 声を ゖ ゎ け

ح 王 は 筆を 置 つ 取な っ

るかな?」

セ国 下 でございますな。勿論でござ、チャンよ、儂の妻を覚えておる

ス チ ヤ ン

「マグダリアに傷をつけおっか論大事に育てる。 左派に育のじゃ。 『この子は私が命をのじゃ。 『この子は私が命をのじゃ。 『この子は私が命を の 「う む 、 ス いし、幸せな 、幸せな人生を送らせる。そう約束したす。大事に育ててください』とな。儂はのが祟って亡くなる直前に、儂に言った

持た誓 てい いたグラスを一気にあを破らせおって!」

セバスチャ る 怒へとそ の表情を変え、 おると 再 び

ン

7

を見守る よりな かも たけって ١, ι, 言葉が 見当た らず、 tz të tz -1/3 乱 机 12 国王

tż

不

に

向

か

う

一の姿

出

そう言っ ι, 7 と怨恨 怨恨《おんこん》からか、おどろおどろしさに満ち溢れていた「王がセバスチャンに手渡した修道院への委細を訴える手紙は、来た。これを修道院に届けてくれい」 tz. 7 の 酊

っ た ľ ゃ ح ?……何 ح いうことじ ゃ バ 11 7 ク、 すまな h tŝ 儂の不行き届 *****

*t*_ 国 王か い弱 n _ 先 世を **冷**え 去 っ た \forall 友 の \sim 手 の 紙 謝罪がを受け ・ 嘆息とい取った がシ 共卜 12 1 漏 の 10 たから 滅多に 吐くこ

7 l 7 く 日 の 内 12 U 1 レ ン ス はシ ŀ 1 ・と老僧 急遽 開 ι, tz 会合 に 呼 び n tz

国 王 から手 か 来 İz 読む が 1 ι, \sqsubseteq

7 ぅ 言うと シ ŀ 1 は U レン ス に 手 紙 ŧ 手 こす

1, 7 文面 Ł 読 h tž D レ ンスの 表情 が 次 第 わ っ 17 く

交わ 三 l 王 腹 女 へであ の 子 は る 7 ログ ダ 1 ばレリー ン P が懐妊し、 ス、 お 主 の子 国王 tž とに 白対に渡 た状し 7 l たおば K Ţ う じ等い ゃが、儀 式 の夜、男 間 違 1, 女 tì いの な契 りを ?

シ ŀ 1 の 問 1, の 後 l l 一室を沈 黙が 支 配 l

は ι, 胃 違 ν, あ ŋ ŧ ん…..

D 1 レ ン ス の < ぐ ŧ っ た掠 かす》

なる。 は収まり つ h 7 そうなら うたもも ば なの 何 故 あ の 時 に 言わな 心の顔 んだ。 が つ J: あに n の た時老 正直 の は にが ح ŧ 語ざ っわ か、 ておく < , 嘘を れば つ ŧ か う n 沙 tz l ŧ 国 王 l のな ŋ

 $\overline{}$ \sqsubseteq

シ ŀ の 言 葉 iz 応 Ź る ح ۲ 1 < U 1 レ ン ス は 沈 つ 1,

l 7 7 1 相 n 応 İİ の ŧ 報 う 復 ţ ι, \$ 用 ح 意 l 7 l 7 いる 読ん と の tž の と こ お 'n ح 。 怒り 界 \mathcal{L} に頭黙 降にを 達守 ŋ ni ばたて ŧ 国 王た ۲ ŧ の な文 幕 面 5 12 ll はれ 送 ば n まお い主

ľ l ゃ が お 主 は 色 欲 の 戒 ž-破 っ tz っし

ゃ n tz シ 1 の 声 か ___ 段 ح ŧ tz

覚悟 11 l 7 お ŋ ます

U レ ン ス 12 限 っ 1 ح が

何 居並ぶ 12 ح 置 いか 老僧 1, う 7 の ح お 達 ح < か ľ 断 Ġ 12 の ゃ 異論を : は は 神 U ø, 唱 栄 レ ح える 光 ンれ の ス ほて に 為 \sim どそ でに修道 ののの 同清よ情廉う の声があ か院 1 っが 修道士な た頑 1 12 かゞ っど 守 た他 ŋ 続 がにお 、禁を け 7 ŧ tz 破と っいたう 掟 12 ŧ 僧 の をにこ: 関 わ n る 事で 12 上修 あ

ス 主 \$ 破門 ځ する \sqsubseteq

達 の 声 か 止 h tž 寂 の 中 Ť シ ١ 1 の声が 響 1, tz

**

ン嫉 ン よス妬 だ瞬 l 12 っ < 接 てた す 1, に あ 二る tz 修道 自 の う _ G を羞じ 自 室で 中を らを戒 の出け b 明 来 <u>;</u>(((事 7 G っ いか以た たに来 2 12 の シ 事件 前 k t 才 ŋ 12 はン ぎは誰 2 0 Ţ 5 1 ŋ なレ ŧ かったが 驚き、 ` () 7 7 れマ グ で つ もダい 自りた 然アの とのは 0 2 シ 1 と メ レでオ

う ゃ < 関 係 12 信 頼 が 取 ŋ 戻 さ n ţ う ۲ L 7 ι, たまさに 7 の 時 に 7 グ ダ ŋ P か

で U ン ス が 儀式 の 日 の 夜 iz 密会を 行 ι, 子 供 を孕ませ tz ح とを 認 め 破 門 ح 1 つ

強 列 7 ti レ グ 心怒 ン ダ ス ١J ŋ ح P れ妊 号信離娠 堂知叫をにて かる は をとうれの悔 ンメたが 悲い しの いか なか? 周 怒 ? " ŋ いや ゃ ざわ情 `` 7 う tž う そ !じん i やな な感 口口僕い情 は は 僕 ح かぎ ス切 今く 感 に 道たてて 院!いた \vee る のな lİ G

っ _ _ た と こ 見う 送と一 叫の りし人 っ ŧ 7 : なく いの る + こで 嘘 _ 人 ح 怒 レつ ***** 礼を スが拝察を頼れし 1 っのすん欺な僕 ! 扉るだ \sqsubseteq 出 て幕 才 修 れン強 道行は烈 院く を戸 後外 囲 にへのの しょれ うびめ 出 * ۲ ĺ す か ` 5 る 7 の 1 1 前 レレ にンン裏 立ス ちががら は寒修れじ だ嵐 かの りなを か 去 3

D Ł つン 11 7 の 拳を 甘 h ľ 7 受け 倒 n tz が ゃ が 7 起き上 が る ح 悲し げ 1 瞳で シ X

h

で

O

ン

\$

殴

つ

tz

シ

X

才

ン

に

ح

っ

か

に

手を

か

け

る

の

は

n

が最初だ

送 ŋ 涙ン ح 12 潤見レ ح h ŋ だめス 向 か 7 ての ti ľ 徐 か々 っに怒 たしり 下に 我を忘れ えれ 7 7 ,, ,, < t ロシ 1 メ レオ ンン スも の侘 し術 そが うわ なか 後ら ず、 姿を そ to o だ後 ため だっ

いそ さ後 のる 姿時こ振 がが修 ら進 道し む 院 方の出 角居来 焔 にに宝 の 融 お窓 け りか 7 Ġ ١, か < G U 様だ あし お レ っ G ン tz れス たの ح 風下 ١, うに山 揺 \$ G 囯 ぐに 沈 l A to 行く 夕士 日達 がに 輝まれ ば 7 のそ 優の し時 い悲

n \$ 王 版 で の 鈩 b 刷 n tì l ۳ 12 1 国 同レ + ン に席 配 l ス 布 に ί 口行 tz 1 v to ン仕 ス打 の t は 顏 なる知 るか 6宮廷画家に似顔公かな国王とは思えな 1 絵 をい 描ほ かせに

ح べ ح 国 似 す tz Ü 王 G 5 背 の 絵 禁止 德 n tz の に 下 す 不 12 Ť る は あ ۲ ^ ι, る 3. U ので 1 G 5 う 徹 レ \forall ン 底 *t*_ 的 職 ス や行 tì ti 宿を与えれるこの人 通 達 が 記 ること tz 物 さ n 上 は に修 7 · \ いはたお 道 士 ろ ので 真偽 か あ 同 時 ŋ 食料 をな 12 U 確が 1 \$ か G 施 め戒 レ る £ ン l スたに破 あ の ŋ ŋ tz 語 っ \sim てろ の ŋ か 虚 う 出 偽 け λ ŋ る \$

残 せ 酷 tì 1 か命 っ 令 が 布 n る ŧ で セ バ ス チ ン が 必 死 12 国 王 の 行 為 冬 止 め Ţ う ح tz が

果 か た 12 出 < nl 7 皆 U iz 蔑 ŧ n ス ` は 通憐 達 n بح tì 読 乞食と h で 憤 1 2 っ tz 4 物 か G ١, は 達 石 ح が共 投に げ村 G か n s た村 の \$ 転 4 ح

のる Ż 秘 t 人 7 ヤ な \$ をみ か 用 追 にば 12 1, 1, 1 払 色 tì ż 欲 1, る ばた の まか め沙 にも、 ι, ŋ 汰 **b**` を 破 あ っ た 7 る n \$ ι, ح ح 行 は 何 で お 自 う G か、 G ح す の の人 自 カ る な失っ Ġ 素 振 の 利益 ŋ tz さ ż の の 為 で l 1 にあ ŧ か、 ろ う っ tz ロか ح 1 ح V 7 z ンの ス ح 際 が投 ح 一石 12 切を 付 そす け

つ ۲ さえ 5 か あ G る 分 け 与えら tž か ` 神れ のる 御僅 かか 護な だ食 ろ 事 うに かよ ` る 口飢 1 え にレと ン風 ス雨 はの 命衰 取か 熱病 ŋ 留 b で た死 の z

父 -け の 中 は ン ス 差 た修 道 は かぎ l 七を 止 日 O め々 1 破 G の 19 れ祈 レ とな 7 ン ŋ ス ŧ を 忘れ っ 教 の tz 会 哀 の る n ح 前 は ح 1 いで熱 境 ۲ 遇 tì < を \mathcal{D}_{i} そに 変 近 祈 え の 祷 信 < 3 に 2h\$ ま行 教 は 至 会 で つ は 7 が 1 失い あ わたれを弱 か っれ ば te T 7 7 ح いの な行 に 詣 ١, \$ と知で 憐 つ れた時 み村に

子 供 Ł 7 產 U tz レ ン ス が 浮 浪 の 生活を送る ţ う 12 *t*~ っ 7 半年ほど が 過ぎた 時、 7 グ ダ ŋ P

1 2 れい の は時 時 間 7 グ グに ダ 庭 1) \$ P 散は 步都 す の 腹る教 を以会 左外の ては 一部 切 外 の 者 外 は 出禁止 _ 切 踏 がみ 置行入 われ れぬ て 閑 ι, 静 な部屋に tz 寝起き 人 気

のそ l れい 措マ帯 置 だダ っり P 12 ŧ ح 1 ひ 上 宫 殿 12 1, 7 お < ゎ け に は ι, か、 *t*~ ι, の

子 の 為 で ŧ 12 医 生 者 ŧ をれた 常 7 駐く さる 孫 せ tz 12 罪 1 ۳, 1 1, ح 7 グ ダ ١J P に は 優 秀な 產婦 É 付 け、 教 숲

夜し 7 び 供 が **‡** n る ح ح へ既 忍 12 V 疎 開 れが徐 子 4 供に を始ま っ 7 l て忙 ι, しさを増す tz 政 務 の 合間を 抜け

ン は の 12 1,

のメ ح 消 Ż かの っ tz 焚 **(** 火 tż け が i ŋ を 照ら す 闇 に 複 数 の 山 中

ž 闇 ŋ 林 \$ け

命 の セに フ身 1 O ŀ Ţ りょ 放才 つン 天も 界ま の炎、闇 邪の を一 裁部 ζ Έ ! 1 \sqsubseteq

の か G は 詠 唱と 共 12 炎 ゃ 光 線が 飛 Ü 出 Ĺ そ の 度 に 人外 の 呻 き声が 上が

シュ ι, つ で 後 tž っ 倒 n ろ っ ! _

X 才 ン 11 叫 J: ح 際巨大 な火炎を 闇 12 向 数か 発射 す る

7 の の先 面 \$ 12 11 l tz シ 怪 X 物 才 の ン に突 姿 が あ 進 こった。 身 ò 丈 (倍はある) ろう か ح ι, う 毛 で 覆 わ n tz 体 12 野

の 魔 の 物 玉 tz は ち怪 の物 12 亡 骸命 が中 転 l かぎ っ失 7 ι, te te 7 は 焔 に ŧ n 周 囲を G す。 地 面 12 は 1, 異

ゃ っ tz !

ح 手応 変 貌 Ź を感じ す Ś tz シ X 才 ン は 得 急げ に拳を 握 ŋ l め tz が l か l そ の 表 は す ぐ に 驚愕

渾身 は 至ら ò ず、 カを れ天怪 įλ 物 め シょがて 焼放 け っ 焦た よげ火 き た の お玉 ぞは ルま怪 ι 物 を邪いの 姿体で 突進を 続い H 表皮を焦 7 ŧ tz の が で す あ の みで る ゃ L 尽くす

つ た界 ŋ 出 で 力 о́л \$ 滅 たぼ がせい! __

っ た 追 ι, 詰 め Ġ メ オ ン は 召 喚 詠 唱 行 つ そ の 声 ĺΙ 虚 l < 夜 の 闇 に tž け tż

^ **5** つ t つっ 物で 手て 1 7 巨い 大ん

ŧ 11 ゃ 眼ち 前く ~ L ح 迫う tz ! 怪何 が出 にき てく いれ たな なだ 棍! 棒 **〉** 振 ŋ 上 げ tz

っ ゃ G n る

シャ 面 بح X 振 才 るわ ン が せ 自 る 轟 の 音 ح \$ 共 12 上 tz か Ġ の 落 時 で t あ 木の物。 頂 上 1 8 潰 確 認 î tz で 1 1, ß ど に巨 大

た土と 石 か 岩石 落ち か 7 G 来 t_ tz る 頭 上を 物 おの仰 ぐ 部だ ۲ だった İİ 大 数を 倍押 は あ ろ う ح ι, う 大 人

熟 1 ! 儂 が 1 け n ば体 る主足。、部 死 h で お っ tz ぞ

シ ŀ 1 の 叱 ŋ の 声 か 聴 2 え

tž っ tz シ tz ŀ とだ かゞ ح シ い訓 X オ に練 ン 慣 ح れい は 1 っ秘 儀 7 ١, ŧ の シ シ 特 X 訓 才 ンメ の Ł 才 為 ンのも 援護 経 う l 指 験か 導す のれ 為、 ح n る 数 魔 < 物 Ġ + い年ぶ の で、 気 ŋ 配 そにの 重 す の 点意思地 外 を域 は 上 \$ げ 完 転 tz 全 4 シと ti 実 トし 戦して

t) 実 ح ば シーし X ば 黀 ン 物 土のた 持ち うと 潜の 在戦 能い れへと還る ンシャ ル て手 \forall \$ \$ 引 出 さず き出 7 うシ とメ しォ てンいを た窮 地 に 追 1, 弘

け る 土 は ^ 石 は 石

12 う 4 え l n る tz tz ۲ 後 山 12 凄ま 中 巨 いで 大 ľ 1 ν, 物 X 育ととも 体は轟 才 ン はう 音 K \$ ず 響か 瓦 < **‡** 解 ĺ 7 頭 -ح 人 冬 抱え の の 岩石 ι, 7 る ح 1, 場 土塊と tz な離 っれ たて ۰, ۱ tz が

< n 1

や、 の 初 のの tż っシ 7 X オ 実 ン で 11 う 3 ŧ 力 < 工 ル ι, z つ tz 召喚する んだ。 実戦を積 ر ح が 出来な め ば 必 < 1 ず 一召喚で、 っ 7 1, ŧ る の よう 12 1

「終わ Ţ う

る 。 ~

シ ト が シ 才 ン にの ι, の 秀を 宣言 L tz 瞬

ヿ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゚ ι, の 魔物 はど で す か ?

血 ι, 走っ が 終 tz 囯 つ tz で ば シ か ŀ ŋ を見 の シ 7.据えた X 才 ン は ح の 戦 ι, で生 死を潜 ŋ 抜 H tz 集 中 の為 12 興奮

風 D 1 った。し、 で h る 直 か が 破 門 の ح 3 車 カな っ がエ 凄 ル 7 から ŧ \$ ľ 召 い喚 の 女する シ ι, X で ح 才 回 ح ン 転はは ど何 l てうか いしに て取 る よう り憑か ŧ 出来 な、そ ずれた そか h 1 のの 危う 修練 ょう めに 様修 が 感じ 子行 にに られ It 夢中

ここか <u>J</u>, シ ンス ŀ の こ と Ġ 1 なら は シメ で IZ 才 国 ン 王 数ば のに 日か 侘びルだ 要求 にを シと 近入フい 問れルの ばにに ι, にな。 対 す 何 都へ向 る策を伝 ľ が *t*, \neg か 次 っかたう の Ź 魔 ぞ ね物 ば ならん。 ľ \sqsubseteq ゃ tz わ け ! n : 7 に 儂は n ţ O

っ ? ?

ン は驚きと 躊躇

ゃ ゃ !はよ準 備漏 8 6 せす ١, !

い都じ

怒号 12 シ メオ ン は反 射的 に返事をし 7 l tz

*

に ŧ 才 空き家 囯 五 ۳, った 7 つ _o tz tz 通 太 陽 ŋ lİ が 空高 や は < り疎開の、登る時、 疎 修道 せ ι, だ服 ろに うかま 以九 前 tz _ Ţ 人 ŋ は宮 ŧ 12 が な到 < 着

ッシ X シ様に n İİ シい ŀ 1 様 つ < ぞ ١, Ġ っ ι ゃ ι, ŧ

セ バ ス 7 ヤ ン ŧ がやっ で 7 4 :

١, 応接間に シ ト ح シ 向 か X オン う が ゃ てう 来 た何 ٤ ٤ 聞り ii i i 駆 け っ け tz セ バ ス チ ヤ ン に 案内 さ n **二** 人 は 広

tz ζ お 7 内 来ら < お 12 tż 修道院 迎え建 れされれ ۲ 1, 手 長 殿 あ 紙 \$ へて頂い遠 は ゃ 路 け 困 n あ は 8、修道院長間らばるよく りま ばこちらより す か Ġ 1 殿ぞ ~との再 出 迎えた : 会は ŧ の先 っ を、大の大 tz 戦 勿 以以来 論 シ やでメ す 才 しかン かし手 殿 ŧ 来ら 紙で ŧ ず れは 書 いる 座

: بح 12 ソが フ P 12 対 ح す 案 る 毒 内 が l 含ま 自 n Ġ 7 ŧ tz o 対面する長椅子に座っ tz 国 王 の 言葉に は、

12 IĬ 5 ts. tz ŧ λ ね で が の : つ 7 ۲ ١, \sim は _ 度 訪 n 12 ば な ね ح 考え

そ う 王 12 える 呼 吸 お ι, 7 続け tz

なス tz で なといの か をない る 制手 裁 £ の ŧ ح 受け ح ţ ゃ う 果と 7 お 主 を 欺 < ح 12 1 つ

う う ト 1 は 深 4 か頭 垂 n る

シ ン 7 え 出 来 っ tz シ ŀ 1 驚

2 の れメ は \$ ` 抱 O * 1 起 レ ح ン す ス ح ح ' '' う 言 葉 iz _ 瞬 穏 和 なの 表情 بح 歪ま せ tz 国 王 12 ŧ 言え 7 慌 7 7 シ

忘れ $\overline{}$ 7 ゃ < ι, tż ゃ t n 4 の お 言 葉 さえ あ n ば 十 分 頭 冬 下 げ る ۲ ŧ あ ŋ ŧ せ h ぞ。 7 の 事は

۲ シ ト 1 ŧ. 庇 か つ

っう ť か tz にな ぎいいば · 🚿 ľ うのゃた

再 V シ ŀ 1 眼 つ l さ : が 느 宿 る

n 5 ŋ す ع か、 の う

ンの - **,** − **,** に張 ŧ ŋ あ 明紙 れは をさ Ġ がと か tż ĺ シゃのじ っ 7 ŀ たい。る 1 ځ ح の と旅達も はの ` 途 国中 王や、 të 宫 け で殿 なま くで シの メ 都 才 の ン街 + や ソゼ フ見 PG のれ 傍た G O 12 1 佇レ む ン セス バに スつ チい ヤて

暫 < l 国 王 かゞ 17 V £-っ 張 G 1, D \$

父 か セ バ親 12 スじ てう ハうチャ娘 おむて 0 ` の っ てな。は っンす純 のてがま潔 これでなる。 あ ح っなと っれちげ てから 面を l 孕 らが引 暫 5 tz ^ で ΊÌ ₹ G 見 セ G l なり 守る *11* ≥ てけな スま 回れが 中 7 せ 収ば ャ ` をな重 ぉ 今 ン 命 G 度 のまじ Ĺ は助 け tz Ţ 国 言に のう開 王に嘘 じじく が耳まやや \$ 頭 で がの · ` j \$ 傾 つ けい -下 度あ げる tz にいたべと 広の ま時 じいっは やえ、 てど しう た生 まに ŧ : 7 t n て腹 tz はに 孫の据

は持 後 神 Ţ ŋ る ŧ

るように、 溜 クなヤ 息 7 \$ 愛弟 tz 子 が ٤ ٦ が 国 7 王 のは 爱 娘の が御 置慈 心がれれ て任 いせ るる 不 幸 なあ 事 熊 旈 石 の シ ŀ 1 ŧ 咖

ح 沈黙をであれ 今 Á っ破がシ ζ 間 ح フ 違 エにつ `いル来い 隣なの tz く居 ŧ う ーや 1 8 つ ŋ 掴 の ŧ t) 理 由 ح ح をの ح は 振小はル 僧 出シ 来ん \$ い狙 っっっれへ くがの か、一つだけ け ゃ ح とい。 、えるこ ľ 修 道院 ゃ との が総 あカ るを持

る ۲ IZ シ なメ いオ ン ŋ 向 tz

「……う ť いそ ての 通 ŋ 1, __

7 の 言 葉に tz ŧ 頭 \$ 上 肯 <

Ţ け っ 工 ! 7 る ľ 小 ゃ 12 ろう 備え が \$ て修 え る 各 道い 12 地 院 従を巡風王達る何所 従を 12 は 7 l 変 l 7 発物た え G れれち る をげ も修 結 勢 道集 七字で 1 わ づ 逹 かく ŧ 先 o to 必の 要大戰 てめ < れ結小と い果限同 ー è を じ し残く 7 (ス てト も少り な院を かに決 ら帰戦 ぬしの 場 損 害儿

シ ŀ てん tz

7 勿 る にめ 開 Ł 進 め 7 お る ゎ ι, 安 $\mathcal{D}_{\mathbf{i}}$ l 7 堕天 ۲ の 戦 ι, に

たれく で ŧ 士気 ح 孫 12 E 関 す め Ţ る う \mathcal{Z}_{h} خ ` 痛 É 言葉を終える 抑 えて ι, つ ŧ の と、無理を 哄 笑 **≈** うし l 7 111 う る \checkmark をと 付は け明 加 えか

質 後 厳 素 矿 格 冬 で る 道 院長 ちに が の為に 自ら国王 宮殿を後 用 に面 意さ にし 会をれた う で求めた パと tz 野菜ス シト 1 を国王が強引に引 プ 12 少量の葡萄 酒 き留め の 4 ح いそ

を慮 セ バ ス 自ら チ ヤ シ か X 才 G ンとは 伝 Ź G 别 n に用予 意させ れぬ tz 面 会の シ ŀ 1 申 のし 部 出 屋 12 ^ 国 と王 赴は < 驚 1, tz が に 修道院長

「わざわ ざ済ま ね *t*;

ベ ッ 12 مخ け 7 l' te シ 1 it 部屋 てに、入 λ 用って **خ** ځ is to 国王に 近 く に あ る 椅子 ځ め tz

が 持子に にい ゃ 12 は 及 びませ h ぞ。.....し ?

座 ŋ 1 が Ġ 国王は尋ねた。

۲ やが、……あ ぶい が 出来なくなった」 シ メオ ゃ 5 ン は の O ح خ ا レ ン ゃ ス が 破門 ŧ ۲ なで っは た本人 連の が目の前だ 出来事の っ 後 tz の 3 で 力 V エに ル ι 冬 tì 呼 か び っ 出 tz す の

顎 ひげをさす ŋ ながら シ ŀ 1 は 打 t 明 け る

「何で すとっ!?」

とんでもない告白 に 国 る

「誰よりシメオ ン が 自 分自 身王 には (大声を ておげ る で な : 黙 7 お っ tz の ľ ゃ

「……うむう

王は返す言葉 ŧ 1 ζ, tz į か っ

件で 1/2 言者の使う力は集 を乱した今の シメオン 中の為 の声は完全にいれた呻るよりない ĺΙ は場 天合 た。通じた。 が 7 本 お 質は G B 神 ح の 内 的 対話。 の事

は憂慮にそ の表情を 墨 Š せ

小コ 僧も、 原罪を免 れえ *t*j` か つ tz の ŧ 知 n ね

ح 嘆息した。

何 ŋ ませ の う ?

も明ら O か、 -レンスを修道院に呼りのがあるない。 じゃ。 tž が 呼あ 何 び戻し か 1/2 の変化 to h とか ح l 7 なる契機が ŧ 結果は あ 変わらんだろうことは火を見 n ば、 あ る ι, は る より

国王 の ١, シト 1 は 沈 h だ表情で答える

部屋 ι, 沈 黙 八国王が一計れれずを配して **\$** 11 すた ぞが 7

で 儂に ι, tz \$ 案 ľ tz

どうし ^こん ん シ tz *t*j` 才 ららに ン は 宫 かる わからなる場合じゃ に 用 意 t いな n いっ tz 部屋 ど 7 n だ の で けにや : る 碩 張っ 1 てもろうたちに立 間だ 苛ま 来な っ n 。てい どかい ないた。 ŋ ゃ ι, で ŧ

tż

の ١ P が 1 ッ 7 n ŧ う 大 分 聞 * 慣 n 7 来 tz セ バ ス ャ ン の lz

王 の散 誘策 いに をお 告付 げき ら合 れい た頂 * tz 1, ح の ح ŧ す

ح シ 才 ン は 出

っ で ŧ

tz 知 晚 G の か さ o ? n 1 バ て ス 屋 7 tz IZ 1 + 戻 ャ シ X るり ン のオ 涂ア 、シ中の はに姿 なが 7 っ会 のて食 こよの とう席 とやに くな 国 王セい のバば 誘スか チり 1, にゃか ンー 関 か切 連 がらそ 宮の あ る殿こ ح にと 住に ι, う まっ 直っい 感 7 7 がい触 しなれ てい G 戸これ ۲

既 シ トセ 様 ŋ 出 許 す

に はと 宫 いに 殿 う の言 裏葉 DE さがか 王にそつら彼 いセに外 殿も対をにてバし 連シいスて てれメるチは可 ヤ 珍を ン し頂 くにうにいい わの呟が手押 بح しお 振 のり 強 G n 7 でー 国半 王ば と強 二引 人に 目 部 五 屋 たか ぬら 馬連 車れ に出 揺さ 5 h n ' て数 い分 た後

行 < 先 11 察 ĺ 思 の : • :

国 王 は 済ま tì う ン

シ 何 故 7 h はな 所 無てオと 行 でい っすた か ?

X ン 国 ĺ 礼 ح 7 Ġ ŧ 不 ŧ-17 に す

V 1 7 殿 : 1 かうオ \sqsubseteq t) : : ` シ X オも ンとに僕 がと 天は 使そ ミ ん カな 工失 ル礼か をな 召 2 喚すをな るしが ટ દ્ર とう がと 出は満 来なる くて なも っおる 7 5 しん まか っっ te te こが ح をシ

të 7 言う か G h つ で 7 す かそ ! n ? が 国 王 様 かゞ 僕 یخ 7 グ ダ ١J P の 所 連 n 7 行 < の ح う 1, う 係

自 分 二が 今 がー 番 気 12 l 7 果る ン な語 \$ げ tz

あ 世 の はし て人 J: あ ゃ そ ŧ の の 不 ţ l 王れ幸 う h がな : シ 結い X : 才 ___ 12 2 ンなと 殿 っを o to D 心のに をはさ 乱不れ 幸たとう l 新しメ たかオ 言 1 不いは よりわ 幸を 生がず h でい気 ٥ お 儂も る。 ح 愚 か の **‡** 1 **‡** 事 ~ で はし

7 う る 沈 1 国 面 ŧ 言 葉を は

ح P の なその 連 る l て鎖 は ず 二を じ人断 のちの 子 切 る 供 たち ۲ 会 めに っにシ はメ 7 み何オ てかン 勇気 < n あ 1, る ! 一失 そ 歩をたった n か 踏 解 み国 决 出王 に * 1 な続 る けけ ح れる は 思えな G h が 何マ かグ

か tz

n < 7 馬 車 11 教 슾 12 到 着 l tz

ベ ッ F 12 7 n 1) アに は そ の 在 7 す G G n 7 1, 1 1, 小 1 入 ŋ 17 か、 進 tż 屋

7 グ つ ダ Ţ ١) P 1 はグ 前殿微予ダ 笑 想 のし 表 7 寝情 い横 で なた かわ \$ つ つ 教し tz 1 シぃ たのがメた知 天小らす し入 広がシに くらメー 才 瞬 ン をい 迎え tz Ţ るう tž tz が 後 少

違以困 そ訪た しれ てたう 以宫 の の 広 1, の 室 にと咳 覆 わ n 蓋奇会ン付麗釈の きだ が の 高ん ح ι, べし y tc ド装 と飾 ŧ そ何 れも まな でい _ 公会で 用の

マれ に痩そ 表 シる を古 ッ然粗 F 違 ι, ι, 7 そ 12 横 tz

数トいとマるら て人ラかマグ ス もダリ ト \$ 高 リアリた と与級アのアの 専えその傍 医門てう、 だ棚 。部首のけ 屋 も付た使 ですい 唯わた情 一っ木がい 高て製 級いのメら 感なべオし をいビンい 漂乳」 わのべ愕い せみ て子ドと末 いががさな る静設せべ べか置たッ ビなし 1吐て 息あ ベ をり ツ ド左 がてそ 室てこ 内眠に にっは 奇て口 妙いし なるレ ・ン 1

てなーン ういく 王しる のの の う女 中 `をめ側め に医 よ者 ŧ ば配 ` ί 命身 ľ 娘にの をは回 て宮関り + わの にら世 置ん話 いがを て安頼 お 静ん けがで ば必お 何要る。 との産 悪 こ後 いとの 噂じ日 ŧ や経 耳 5 に教が 入会思 るにわ じ移し やしく

国 マは 付 7

tz る 7 言 葉を てけこの は : ころの通 無 にいれっ子り 詰実が顔孫は 眠る以てをだまじダをも当 上言 守 らゃりし親然 不 うる せしアかの戒 幸のた子た にかめ供国農祝たにの者のいなまはせの ンはな?にに王に福シ居為 っいも罪にとしょる てっ頑な何ってオのあれを もそ張んかてほンがる らてをはしに一が なあ感 やい気番 れ分 ľ きる は やわたり労いゃ 上状 幸熊 :けシ愛わ がメく っ せの にま 。なオるて説 なまだいンしほ明 んでけ 0 はいしす て倒どほ `孫いる 、らゆな等 なさ れれだ っのと やてけこくじは ししどん りゃ申 なま僕 なと : ż いうはあべ h どビ • 。か何 こん なけし tz なべ tž いのだ いッ やま 表ド 生 っまそ 情に ŧ !生ので近 n 一き為 眠付 7 体てに っく 7 何い命 tz

ロだ 7 グ ダ ١J P 供 愛で 1 が シ X 才 ン の ι, は

Ž

h

か ら半年ほど 過ぎ去っ た大 粒 の雨が窓を 叩く、 あ る 日 の 夜 tž っ tz

シ ¥ ンと ح 魔 ス をが 探 道 知 する特務 院 へ訪 n 機関 か 初 50 滅 日 多に地 tì 下 ι, 要塞 、驚愕 ^ の 力 声 9 がコ 漏 ン れべ tz で ŀ 1 かゞ

ح 環 Ţ ح < IJ ど急い 階 7 Ł \$ ι, 上 る 組 がる ため 4 か、 熱 12 普段ならればいま 丁寧に続けて 開 ι, た黒 け 閉 衣 め の す 修 る 道 F 士の アを 一人 荒 4 が 素早く < 開 閉 し五 t 聖 上 が

修道 士 の 走段 ŋ つ いけ tz 先 は 道 院長 の居 室だ っ tz

礼 1 がら

こう 叫 Ü 1 荒々 l F アを 叩く

F シアにア か っ 7 お 5 < ず `` 荒々 l < pp 1, tz そ の 反 動 で ۴ P は 開 ι, tz

「 う む ! \sqsubseteq

寝台 ゚゙ぉ゙゙゙ぅ \forall ついた で シ ルシフトーは し 閉 ľ 寝台よ り脚を下ろい眼を素早く し見 て座した サイ ボ

消えて 先 勢力を から 放 感 エ ル の 気 11 読 4 取れ ŧ せ んが、 時期 ح

「特務 せて で は 関 に で は 関 に 門 は 掛 か を に 駆 け い た 蝋 燭 。 りとう来よっ、や率いる軍勢と いる級指 の 十勢と 思 わ n 知 **!** す ! \sqsubseteq

部屋に 咳き あに

っ 山へ到達するまで、!とうとう来り tz たかは !小 …小僧が の調子は報告す 調子 だる ۲ 1, う の に っ l 7 P

トス山 で 残され tz 時 間 は !

, , ż っ、そロ n が · ... _

シト

は口角泡を

飛

心ばす

iz l てお る 暇 1 ど 1 はい の ľ しゃ

D ご も る修道士を シ ŀ 1 急か tz!

: 申 し上げ ľ < 明い 日の ので 日す 没が は軍 勢 かが 襲向 わか ままは ح に あ 宫 の 位置 す

! の 速 4 で は 12 都 れう !

っ 何じ ゃ ح !

シ ኑ | で が襲わてすら予 れ期 t ばぬ 被魔 害物

n ば 首 _ 昼 夜 で 都 $\dot{\sim}$ n 到着 で できます。都へ必らは甚大!僧達の進路に狼狽も 戦のを 戦いの場を移してみ!の親族も多数居住し!と禁じえなかった。 7 7 はお ŋ ! ? ‡ † . 預 言 者 の 秘

修道 士 の 声 ĺΙ 熱 بح 帯 V 7

5 ₹ の ゃ っ ! 都 ₀ 住い 民 は そ の 殆 ۳ が 疎 開 を終 え 7 お る 7 n 12 シメ がにエ

tì ぞぬじ 百 !鍊 界 p の 防 御 達 o) 整っ ح 言 7 Ź ۳ お る修道院で す ぐ に 滅 Œ され戦 7 11 ですら l まう りわ!儂が勝機が *t*, Ġ がい 死と ねいが ばう 人のカ

で 義 を見 失う 1

で 道 士 は 正 気 \$ 取 ŋ 戻 l tz Ţ う に ι, tz

ŧ ŋ *t*j` シ 1 は 呟

の 11 秘 12 7 お け X 才 ン の 耳 12 届 く ۲ 介 12 *t*j ŋ う ゃ

知 l

こう首肯 $\hat{\epsilon}$ l 7 道 士 は 部屋

通 かこ Ţ 路を った G の tj. 選 か l っんだ シ Ũ か の シ 知 X メオ Ġ 7 才 で いること あ 1 ン人う シがっ か が る 気 白ら の tz 偶 tì の抑え ŧ 然 ١, 灬シト 修道 そし 院 7 ţ 1 達や 7 う 室 雨 Ó の の 会話 降 1 ۴ 7 の P ŋ 1, 日の わ がに 冬 僅 聞 の 日 tž 夜に * かかた 散はまに 及 策そ h っ開 の の tov で 散歩 通 ι, ようなり道に B る を 修道院長 抑 ど かゞ 修道 える ح は 院 tz 7 の の め 部 廊 の 屋 時 下 夜気 思 のと なに 前な夜し ι,

7 tz い次 tz の 瞑日 シ 想 12 シト メー オ の ン指 が姿を を以 現っ さて な静 か謐 っ 🦔 たせ 2 11 * V につ *t*; ≥ っな て地 よ下 うの や小 く部 屋 シで 卜行 1 8 はれ 異る 変こ にと 気に 付な 11 0

急ぎ、 P ŧ-

tz にガシ 雨 31 ラメ き出さ の ンオ 止 とン h しの të た部 n た部屋 空 にチ屋へ エにと 力 ストには修道 1 テ ン は修道院の公的 が 舞っ 公的着衣である開ける。 7 Cへ到着するまでき の着衣である黒衣の ι, tz 着 の て修 いが成 旅が 装べ 東が 無に く投 げ 窓 出 がさ 開れ け 放乱

か *t*j`

呟い

ーシ 方 7 1 のは 時 暁 光 が差す光 の 中を 疾風 の < it

は て多 い分 る の今 夜シた殺メ。 か ? いされるが 4 tż う ろう ľ ゃ ····· 7 *t*j ι, 僕はじ 40 僕 で何 あ の 為 る たに如 走 め にっ駆 走て っいて てるいいんた tž る h ? だ! され る tz め

っみ 太 \$ 背に 都へ ح 到 着 l tz シ X 才 ン を 待 っ 7 1, tz の は 燃え tž つ tz

< か、 つ ·ろたえ:

魔を シ 自 X 才 ン は う で 薙 だぎ倒 ては し な がた 5 が、 あ 一人 る 方 で 向 \sim 沢 ح 山 駆 の け 住 7 民 بح < 救お う ۲ 住 民達を襲う異形 の

延長 緑上に は 宮殿と 、更に 7 の先には 教 会 かぎ 位 置 l 7 tz

7 tz の シ 道 つの途 X 才 中 ン Ť は の高い怪物 1, の 民家の屋の襲来を怖 怖れ 根 iz ti が 飛 j Ù. 宫 ŧ 5殿を遠く目 12 囯 す 指 る l 7 ι, る ح 12 気

列 すい \$ 3 成 ۲ i て普 押段 し来 寄 訪 nせており 素早く背 産民達が け 城れ 壁ば の閉 上鎖 にき はれ 悪 7 魔い 用る 筈 の 半の 透城 明門 の合き 界ど **j**∶ ≫ 半が 円 開 状 放 にさ 巡れ 6 さ住 れ民 て達

シ ヘメ わ Ù. ン 上は っ 7 屋 根 < ŋ 、、った る 2 11 かに ら宮 淳 殿 遊へ し近 て付 * 結 界 城壁の側: 触 ŧ れで 辿り る。 。 着く す る **ک** ک 碩 一 丈 跳 な金 城 の壁 ょの 遥 う なか

る 認 証

シ X ン がこう 呟 いせ te s 次 の 瞬 間 迷 ゎ ず の 森 で シ X 才 ン が 大樹 \sim ح 吸 ι, 这隻 n 7

う メ 透 ^ ح 過 l 7 つ

tz 庭が 7 n が で は救 世 っオ たン の返は 設置 し半 7 さとい明 れ知たの いるとそ 住結 民 達の 玉ののは内 空 はか き、三転登 叠 し場 7 Ù 造歓 tiv 喜謎 ののた 声 存 に在 変 iz わ _ っ瞬 悲鳴 tz ŧ び か

7 界 1, 中 る の 祈 ŋ 中 \$ 1/3 12 唱 て祭 い増主 たが 7 の + 央 で は るが輝 修道僧 悲鳴は 極構 生 命 <u>^</u> の ラ 1 セ ファ ン 1 ログトル \checkmark \forall をに 形座 ĺ 成 7 l

ッシ X ン を断 Ţ つ tz 1

「今修道 無 駄 Ġ tì tž ح け 院 ح ľ へめ ľ 勢 ゃ カ l ゃ ĺ ζ 結で の結 集来 何 ŗ 7 界 せ ŋ 意味 ŧ ι, 僧 が ず \$ なれ 常 か破 駐 ろ G さ うれせ : : る 7 • ι, る 力 の 工は ル ح ζ Ł 召 都 喚 tž 出 け 来 ねょ シ っ メて 才 守 ン つ がて 来い たる との

 $\overset{-}{\vdots}$ 神し ľ 召 ゃ l が ľ 7 かや 。シ グ ダ X ŋ 才 ア 姬 ン がが子 力 z 工 ル か っ を tz 召 喚で の ŧ * なロ < 1 なレ っン たス 挙が 句破 ` 19 ح ک 2 ts にっ 来た to o O 1 ŧ な全 7

 $\bar{\ } \vdots$ の 御 1/2 の う \sqsubseteq

: ŧ l n K :

l シ たメ オや ン の 気 配 冬 察 知 l 7 括 囯 か つ ŧ < \checkmark L tz 僧 逹 は 語 ŋ う ح 囯 z 閉 ľ 詠 唱 ź. 再

手 国 \$ 王 大 は ŧ く以 振前 っシ てメ いオ たン が U レ ン ス ゃ 7 グ ダ ŋ P ۲ 民 衆達 \sim 閲覧式 بح 行 っ tz テ ラ ス か Ġ

ぐ $\overset{\textstyle \neg}{\underset{\displaystyle \vdots}{\vdots}}$ \forall 12 悪 にそ Ł O n ١, ままで マ起 بح < 1 ! グ ح レ 囯 ダ l ン に 今 ť. ١J ス l ŧ Ιž tz : P H 教 たけ ŧ-シ 会 z X 助 が かけ 見 才 らて人つ ン 動く 4 めの へて脳不い裏 かれ せい 安を与え ん! たに の上しの あは の や娘 日マ 達 tì ! のグ は 光ダ 今 ١, ŧ ţ 景り セう う がア 体 よが バ疎 勢を ぎシ ス開 チ さ りょ ヤせ 整え 、オシン ンて \$ お メの 国 才 存 向 る かが 王 ン在 の はを わ せマ ŧ _ 忘 瞬れ てグ ح おダ \sim - 1 1) 降眩い る ! アり 量る は 五 ♠ か つ 具 ŧ めの t t す合

ځ シ メ行 Ł 思 才 う ン 悲 が頼 心嘆へ変え、ショ到着するや否! 到 X ゃ 才 ン 国 へ懇は 願 人 l 4 たを 勇気 付 H る tz め 12 作 ŋ 続 H 7 ١, tz 余 裕 の 表

シ X オ ン で 肯き テ ラ ス ţ り教会の 方角 ^ ح V 立 つ

+ か G 見えた tz 教会が 位 置 す 3 森 は、 あ ţ G ţ G に飛 火 の 手 が 上 か つ 7 お ŋ 囯 で は

会 が 無 事 か ٣ う か す Ś 彈 判 别 で * tì ι,

う l 7 シ メ 才 ン が 教 会に ***** 辿 ŋ 着 l ι, た風 のの lt t 、う 太に 陽がを 地駆 平け 線抜 のけ 下 ヘシ 完 メ 全才 にン 沈は 没走 しっ 1 tz う ح l

さ 12 7 左の 胃 際だ つ tz

行

<

手

ŧ

塞

ぐ

魔

物

達を

飛

ΙÍ

4 ۲ Ł 7 火 12 包 ŧ n 7 周 囲 に 火 の 粉 ば Ġ 教 の 側 セ バ ス チ ャ が 7

ダ P 両 Ł 死 で 抱 Ź

シ に ーメリ ン が がけ ż す ح に セ バて スい チた ヤ ン は 修道 院 で 日 Ł 過ご L 1, る 救 主 の 奁

す 外 7 の 帰 様 ń を 火 確 事 が め

P

l

tz

の

子

か

Ţ

う

ح

気

が

1

体

調

\$

理

l

7

外を調

l 7 いに 1 بح 振 ŋ 回 す 7 グ ダ 1) P の 振 3 舞い 御

「それじゃ、赤ん坊は……」
「それじゃ、赤ん坊は……」
「それじゃ、赤ん坊は……」
「それじゃ、赤ん坊は……」

メオ ľ ろぎな がら 振 ŋ 向 ι, tz そ の 先 に は ゃ は ŋ 他 1 Ġ ね O 1 レ ン ス の 姿があ

にだ が、 はこ 火 の 柱 五 シ 5 X 髪は 上 る は 教 か 乱朽 会 O の 1 7 建物 レ ١, ン る ^ د ス の 吸 美 7 の美 ι, l の い姿を 这集 炎 î ī n ١, 着いに 整っ . し た た 顔 っ tz tz の貌そ はの は ほ口瞳 んりは の レ 赤 ーン 色 スに 瞬 でに輝 、違き、 の な痩 姿 か ŧ 衰えたそ İţ っ tz 瞬く

追 ح の 2 7 シ 教会 ムへとオ 辿 ン りの 後 着 Ü z 7 追 い た っ 7 都 \sim と辿 ŋ tz シ ŀ 修 道 僧 逹 が シ X 才

流 石 12 戒 の ŧ で僧が蔑 かゞ 可 爱 る で しに た飛 び 込 4 Ţ tz

偏屈 で 知 G n tz ^ **さげ** う 12 言葉を 発

例外な 意しな 「 … う 皮膚を焦 れを が ۳ 隣 ť G 1 ŧ で ι, 聞 か 0 ľ ľ す ゃ 囯 ,, 7 火 やが老 の いのが への、 た僧 ` 火 に 不義 ح 骨をも は かあら 偏屈で Ü o焼き尽く うば、預言 うなんだ口 出 来 知 G れる す熱し 驚きを禁じ 1 者 レ の 老僧 ン カ ŋ スを 11 例 の U え 辛 見 外 1 辣 tz tì V 1 く神 か か ン ^ っ ĺ スを ! Ň あ tz の Ġ 守 奴 裁 護し つ の * 身 で 体を *t*, 7 失 皮 お わ 肉に大れた の 対 ! Ċ 衣 今 ĺ がま 7 同 で

我 が 子を 想 う 父前 神っのた 御 \mathcal{D}_{h} か事に う :: ::

ŀ 11 呟 tz

で神 Ţ ダ救 1, tz ŧ え Ţ ι, tz ŧ ż : \sqsubseteq

7 7 め グ う ŋ P ŧ のは 、痩せ にこ神 う け ずた く口救 **£** 1 りレ ・ン 両手を組み み焔 合立 わっ せ教 て会 天へ にと 掲げ 、声 行 < にそ なの 後 G 必姿を *t*, ι, 祈

え いア か、 は 身 火 ľ の ろ ぎが すら そ の 美 l いよういたうい 髪や غ せ 衣服 ず を焦が 祈 ŋ \$ 続 け tz n tz 灰 が そ 身体を襲

tz 地 面 مخ 湿 G せ 7

に

小 さ tì 生 の 気れ 配 \$ 1, tì が G O レ ン ス の F 開 H る

苦 たマ そう グ か ダ ベリ ビア命 の h 1 居 ベ ッ 室は の 泣 ド きが部 既 に熱 屋 聴こえ 一の中 気 12 央付近 包 į 1 tz n に 設上 置方は さは部 れ煙屋 てで い覆 たわア 幸れを 運で 壁 あの ろ ー うう、おは İİ 既 屋に の中え 心盛 1 0 9 7

7 界に そし tz の は、 声 よりな赤 の 日口坊 宫 1 レ ンス で シ X がが 赤子 才 ン ŧ の 位置を っ tz 巨 把 大 握 1 l 蝿 ベ の 姿が ビ 1 赤子 ベ ッ の ۴ 傍 に で 囯 佇 冬 五 ゃ っ tz 瞬 ţ 間、 ŋ つ 7 \forall の

バ P ル ゼ

ح レ ベスはブブ と、余 'n 身 に構 え、 4 周囲 l か っ 12 た。意を 配 る。 tž が 7 の İ あ の 日 の l ι, L 1 ゃ

っ てな 。……ああ、 X が ح 魔法 陣は張っておらんよ。今の小僧なら魔法陣ぐらい気付くじゃろうと…。小僧が来ると読んでいたが……。これは意外や意外……。まあ まあ

い手足で赤 音を唸らせ 子 のな 額 G にぬ 声を 触 n た。た。し、 触覚をピ クピ 7 ۲ 動 か L *t*, が Ġ バ ア ル ゼ ブ ブは 7 の

「赤子に 手を出 す tj. !

ローレ ンスは叶 J:

も直ぐに 「手を出 ルゼブブの言葉が言いぬ命の樹《セフィロト》には殺せなかったほどじ出すな?……知っておれ ľ る か 40 、?儂は、 ら放が 実 戦 の 方 は のかか ٠ , , , ŧ で の う 生 の 小

「一生命 矢と なり

部を貫 バ アル ₹ 終わり らぬ内にローレンスの扱つ天界の光、一閃のか、赤子となるとわい の 放 っ た光 の矢が 八がバアルで貫け! ゼ ブ ブ の 腹

緑色 の 粘液が $\hat{\iota}$

_ ∷ ≿ ころで 大な蝿の怪物の言葉ヒマ・・・・・、一方儂は知吟かその傷口から滴≪ー 言葉に版は知略 は、自らだた》る。 が致命的には自信が なあ ・傷を受けいってのう :

の様子がなかった。しかし、巨大な蝿の 様子が tz にも 関 わら ず _ 切 動 揺

緑色 に染まる の言葉に反応する ように 部屋の 内 部が 緑色に怪し く光を放ち 始 め 部屋を燻す煙が

る

それ ۲ 同 時 に 7 n まで シ X オンを炎の熱から護っ 7 ι, tz 光の 才 1 ラ が 薄らぎ消えて 1,

火の粉が肩を焦 れまで 感じ が *t*~ す。 tz 熱 気 と煙を一身に 受け tz O レ ン ス くは思わ ず 呻 ι, tz ŋ か る

が、お 儂の命 ……小僧を誘き寄 z しを が燃え尽きる 道連れも悪くない ŧ る為、 そ の時に 都を襲わ · : : 発動す せる tz ţ のうに 12 儂 l じて おいた: ١, た :: ::、、 小 僧で 2 1 n かに っ は た気 付 の は < 無念

う苦しそうに 羽音を震わせると、 バ ア ル ゼ ブ ブ は 斃 ∕ tc お n tz

部屋を包む炎が 7 の 骸を tz

ロお بح Ġ 7 の 姿を ŋ ス H 現 7 tz 達 の X 間 才 シ 12 ۳ の 後 暫く 1 め \$ っ 7 が 起こ 7 教 会 の 12 辿 12 幼子を ŋ 着 Ü た抱 国 ż 王た ゃ O ` 1 固 レ ン 唾 \$ ス 吞 が ん火 での

姿を見 tz O 1 る 五 レ ゃ つ ン 否 ス ゃ の に 姿に 正気 V tz べを失 気 すら 付 祈 < tz や ŋ 否 \$ か の 続 よう け 雷 7 てのにに ١, 雨打 そた tz の 7 されたち グ たようになっている。 V it れ寄口 っしたレ l がンス tz ス 業火 にか 皮れ (膚を焼 かの

U 1 レ ン ス は Vざま ず < 7 グ 1) 子 \$ 受け 渡 す伏

O 傷 1 の レ ンス 跡 が 全 が < ţ 1 IJ か ۳ っ 大 事に tz 抱 * かダや か えア ι, た手 tž ろ う 元 気 に 泣 ŧ 叫 J: 幼 児 12 は 怪 我

駆ける 一火 方 う 幼 ` 児 7 \$ の 庇 1/2 身 o) 生 カを 一身で 失 火 1, の ` + 地 ئج < \sim ح ヾ 倒 ŋ れ抜 る け tz U ン ス Iİ 赤子を手渡す ح 力尽きた

寄ったシ X 才 ン が か つ 7 の 友の半身を 抱 ι, tz

 $\overset{\neg}{\vdots} \\ \vdots$ U 1 レン ス お っ、神よ : __

Ġ の 孫を救 っ tz O 1 レ ン はどの火傷でいると、そのなってと、そのな と、そ は奇 跡 農らる で王 もは 治ぬ 癒か のづ **.** う祈 がり なを い……」

[「] う 自 っ ` ひどい・・・・、 これ IJ ` ا لا

۲ なける、 そ神 のの 憐 n 4 ľ ゃ \sqsubseteq

破 戒 者 命 の 終 焉 に徳行の 機 会を与え Ġ n tz の ľ ф :: ::

の時 絶え で 絶 心えに息を ある す る O 1 レ ンス 12 歩み 寄 っ tz 僧 達 が 各 4 に 語 ŋ 祈りを捧 げょう ح した

子を抱え 淚 幕 如 シ の 前 身を げ 出 l tz の

を通 の ľ tz 子 諸侯 供 は の O 息 レに ح ン の スれ 間様て にのい 出 御た 来た 子マ にグ 子 ごダ 供 ざり でいア ۳, まが £. せ突 h ι, ŧ 0 ロト す ! 1 1 V ン スは身 が 都投 Ź 去 っ 7 数 日 情

7 る う 燃え るマ さ グ か ダ子 る ١J 炎をの 反淚 射に し濡 てれ ` tz 瞳は 7 の 体真 実 は 12 赤 く輝 * 輝 1, たそ の 言 葉に 嘘 偽

っなん ľ ゃ ۲

シト もそ の 悔 12 11 tż う ţ

ちを察し ス様を なら D 魔に V ば ンス 7 せ 1, ι, 慕 tì れめ 七七 が っ が懺 く私 Ġ 7 初 なの 見 お b 7 向き っ手 ŋ ź たで 宮た 殿だ と不 ŧ l をた l tz 幸 の 報 に 7 訪 いれ、私に : : け 5 l < 7 tž 聞 いや さ てりい n ど取 ŧ tz 出 ١, せ ŋ 憑いな 来た ح h O ` 0 し 7 : てか 子 ン の : 11 0 を 女 ス te te 後 U の意地 邪 内 1 ŧ-レ通 ンし 退 スた の 散 敬 諸 執 l れ 虔さて以 侯 の 子 の 供子 来、 共 か Ġ 息 ح 12 から 幸か私 遊 t 私 つ は 猟 12 tz の U 気 1 のの で最れ持し

ح

の は \$ 抱 え、 え て 地 う < っ

\$ ۳, 下 さ 私 ず が tz 7 ح の れどこ れほ で す ۳, ろかそ 卑劣 :: --なに の存い の 憐 いず * \$ n 命 l 4 ź tz の 心犠にた 牲も 天に関 のしわ 神 7 G ず、 • かぎ 私怖 にろ U l そ きレ の 火 化 ン 身を 焔 ス の 遣 中 の 慈 ゎ か G さ 悲 n 私 の たの 御 の子心

! 1 か の 身を 31 * ι, 7 く tž さ 1, 煉 獄 12 落 ح 7 の 身を 1, 7 下

7 グ ダ P 赤 を え 1 G 地 12 伏 身を震わ せ 7 淚 冬 旈

Ó 身じ 40 ! 一子

殉教

U. ت ع <u>'</u> 為 12 そ の 地 に 堕 ح l 命を 捨て 7 そ の子を 1, お っ tz ! 何 tz る 慈

膚 達 淚 がり に伝も っ の か 全 7 の 感情 冬 失 つ tz が 如 * の 乾 涸 び tz 皺 12 n

ン tz 「 王 女 7 子を大 ス シ ŧ ح ŧ \$ メを マら出移 才 ĺ ン 育り っいゆ てアた様っきた < よが子 か 作 目 で そな 4 ح なた う 粛 7 4 のなれ たトにとの。1億善罪 の仰 ぐの ならをいるの 灯たし 火 レ ŧ 積 7 1 瞳 が 遥むレは 今 のス か がン ゃ 皮は によス以消 慮 凌駕してお いの 前 えは : 尊き Ţ か、 ŋ かけ : 7 る ŧ 贖 l l 髪は聴 、≪あ いて \sqsubseteq 輝い らが * る をなを ح げと 犠 \forall 宿 ۲ つ 牲ゎ はき l とれ 7 誰 言ダ したいの た。た目 をア 口救 か 語へ 1 わ Ġ しれ 見ると

じマ てダダ行 かに っ語年 ロたり少 涙 か レ が け た た て スれシ既 の 乾 ١, tz 頬 \$ す Ś 遠 1, 昔にそ の 役 割 \$ 失 っ tz ح ŧ かぎ

‡ : : ţ 1 め h 疑 つ 7 め λ 殴 つ tz ŋ l 7 め h

のそ シ X z の 才 5 ン あよ しは ŋ なそ が の ら間 あら っか 1 だの 玉 ひ声 の た **も** ょす 耳 うらに なに入 乳詫ら びな 房 がてい 顕 いか わたの にのよ なだう っがに tz 7 7 辟 のの 直淚 後で 口焼 1 1 レ爛 ンれ スた のロ 焼ー けレ たン 衣ス

っ あ っ あ `!

やれな 1 鳴 £ 上げ z 仰 ι, tž

! 見 G n Ţ

女 D レ ン ス ,事実を、は女じ

シ か G X ح ti の 異変 < D 1 レ ŋ ン ス の 12 i v to -ざ 7 哭せ漏まグダ * 1) P れそと がのそ の 父、 オれ 7 l 7 王 逹 ば、 驚愕の 共 に

ŋ あ ŧ ゃ っ 7 の か 寂 あ の 5 空 こ前 \$ t 震 Ţ わ ŋ 漏 • 4 パ頭 イを プ垂 n to ガ ン ح 美 l ι, 賛歌 の

ン は بح 寄 *t*, がせ ら息を * シ X ح っオ たン 擁を受け ながら、 穏やか に 7

ح で あ 会の る 炎に照らさ n 紅 に く星空を暗黒の闇が 支配 tz の は n か Ġ 間 1 く の

常闇 <u>%</u> د ゃ 4 \forall りが 周 州を支配 す る

暗黒を吐き、瞬く間に常温 出 す 闇 の 心中 į 降り 左 っ tz. の は、 破 壊 の 翼持 7 漆黑 に 輝 < ル シ フ エ ル tż

「堕天じ

のゃ o · よわ 諦ゃ

百 戦錬磨の僧 達 ŧ 観 のっ 肩た めが

であ 、の光 る . D が空 シスと、そのの人り混じ n る。 で顔を埋た悲鳴の声 、飛び 哭し 7 ١, tz シ X 才 ン が 眩 1, 光

そして、光がもた輝に包まれ、その光は天空 ある。 た空 へらされ たたへし そのとレ のかなた 場所 場所より剣を手に,暗闇を突き抜けれ l te た気高く 一点よ くも美しい天使がよいより光芒を放ち間 光臨 しを た照 5 の で

ぞ

惠 ダ 1 **├ ≫** の霊力を与え tz の ľ

「あの剣こそはな「おおっ!あれい

は高まった。シメオンジ ンがミ 力工人質、気高 八を切りた大天 召還の、心がシステ使ミ の力を取り戻したこ欲く天界の宝器!」シメオンに再び知恵 た こ ح で 僧達の間に 歓 声が 上 が ŋ そ 士気

|大戦 中空に大戦以 来よ の

漂 1, 1 がう 宝の剣を両手,、いい」 、宵決着のいれば大天に 時 使 12 語 ŋ か け る

ミカエ ルい が斬堕 !

、手に構 7 の 矢 先 で

放 7 1 っ !

ŀ 1 の掛 it

燃える 火焔に か る 真空 の合 の刃、そしてに図に居並ぶに 巨大な永塊、あらゆる猛攻が至ると修道僧達が先制して渾身の強襲を行 ころた Ţ ŋ ル シ フ エ ル

ルシフ か l 工 ル の 周 ŋ は 噴煙に 包 ŧ n 爆音と詠唱 の 声 は 暫 7 鳴 ŋ 止 t) 気配 が 1 か

tz

「無駄だ

断せざるを得 煙 の 中 得な地 か Ţ り漏 つ *t*z n tz 億劫そう tj. ル シ フ エ ル の声で修道僧達は思わ ず 自 の 試み 中

のそし て、数瞬 っ た ø 後ル シ フ 工 ル بح 覆っ 7 1, tz 煙 幕が 消 えた そ の 先 に は 傷 _ つ 1 1, ル シ フ エ

っ

れに修道した悪魔め 僧 の! 放 一 っ tz 光 線 が ル シ フ エ ル の 纏 う 闇 の 空間 12 飲 4 込 n に

しゃう っ フゥ 様子は連中だ

Œ L ル シと エ ルし のい まる で 身に 纏わ ŋ つ < ダニを 疎ん ľ 7 ι, る か の Ţ う

っ

シ ŀ 1

ル相 シ 手 **₹** 上 フ が 工 用 る ル ţ う 12 7 ろ の 姿を する で 12 Ţ tz の + 地 _ 柱 面 が *₹* 黒く *t*j 変 ľ 化 うふ l 地た は 底 l G の 闇 \forall か G の 異 上 位 形 悪 の 魔 魔 物 1 tz 5

に l 狙 7 部 あ 7 切 に る 1, お n 具 味鋭 魔は ŋ <u>څ</u> (自 い巨大 ح *t*~ 巨大 ぐえ の 世 G の の tì *t*, ま た 能 何 カ Ţ بح の で ŋ 手 る悪魔 透 12 明 ι ١, 12 な不 で 7 元は翼 あ ι, l ろた 可視 ι, 。 そ の う 女 の存在 生せの 7 の犬 17 た他 漆黒蛇 あ とない 歯 で る 悪魔 の馬猫 る 戯 n 鬼は巨大に跨り に 岩石 n te \$ 1 あ 粉 鷲 実 る の 4 体 翼を に 'n 魔 1 噛 11 4 l 1, 犬 tz 甲 砕 狂胄 < · 犬 ۲ の 獲物姿と蛇

tž H そ で の 怪奇極 歷 の僧達 ŧ る 容姿 \$ 戦 慄(は 様々 ż せ る tż 1 が う tj. 共 強い 通 l 妖 て言えること 気を 放 っ 7 ι, は 居並 る ح J: ۲ tž 全 7 っ の悪魔 tz が そ の 気

人 の 世 の 興廃、 ح の 戦 にに あ ŋ ! \sqsubseteq

ろ

(戦が始 突進と まった 士気を高 め ţ う ح l 7 発 l tz シ ŀ 1 の か 開 の 火 の

烈な竜 l に い染める蒼き馬を操るで巨大な梟がありとありとなり、遂に決戦悪魔達の修道僧への空 心の前足 がそ な竜巻を発生させ、肉を切ながら暴れまわる。翼を生 の 手 で翼を 面 \$ 休 PP < め と地 百獣 5 7 Ø ١, 割 tz のる 鷹を り裂く 王 闇 土の面で、秋柳、 が 起 放 き、 直 親を つと 雹を 五步 \$ 降 し駆 ら行 tz 7 た使 戦せて 5 の せ す \$ 鷹 、巨 Ś II 鹿 地 が攻 大 の瞬 燃防 の な怪 えの 底 Į, ī 鰐 さ優 胃 物 門に鋭利 飲み は天変 かる 这 眼 tì が \$ 球 わ h 刃 っ自 よん り炎熱 ۲ ح tz 在 ح に操 Ĺ すな 老 るり人 預 の ŋ の黒 通 言 形 ŋ 線を 道を 者 を敵 \$ l 地 照射 たに 悪猛

せ る て対 聖 あ する 1 l る る 7 居並んが地 い天は上 光 \$ は槍 1 放 J: で 僧 ŋ 7 天達 l 7 使 の の びを呼 五 中 勇 教に 臓 Ť \$ V ŧ 抉 寄 シれ 《えぐ》 ト ŧ っ 、翼持つ tz Ġ ん美 霊験あ Ù ۲ l ð 戦 Ġ tz あ 士 達 か、 る 1 は ι, は杖悪魔 老僧 1 0 達 ŋ 硬 は 邪い 白 悪な存 皮 5 膚を の 召 在 貫還 ŧ くの 脆弱を霊力 \$ に浴 すび以

双 方 囲 7]に悪魔 の l 勢力 7 あ る者 は の 急襲 拮 抗 Ü 数 l \$ 防 体 凄ま の岩石 ぐ 鉄 ľ 壁 の障壁を構築 で 出来た巨大 防 'n すな げら る傀)。 光と 儡 れた ^ く 闇 ぐ つ》を操 が衝突し、 9 弾 またあ け、 打ち る者 消 しあ は 僧達 つ ての

向 _ 方 か Ġ で 対峙 3 力 l エ 7 ル ι, ۲ tz ル シ フ エ ルい は攻 中 空に 浮 か広 び *t*, が Ġ 永年 の 因 縁 に 決着を つ け う

何 故 人 間 \$ ż ?

7 の Ł の 王 12 向 が G 力 工 ル は 問

っそ n の め tž らだ

ル シ か、 応 えた

ダに ト - \vee の カ ځ 人 に 与 え、 樂園 か 追 ι, 出 l そ の 人 間 12 牙 冬 向 け

め が 私 \$ 滅 す څ の うに な ……」

1/2 1 LIE か 言 いと 知 ns ね 哀愁を帯び tz ţ う に n

せ 7 ŧ G う

冬 下 は l ح \$ ŋ 上 げ ル シ フ 工 ル の 眼 前 ŧ で 翔 す る ح そ の

叉た * の h の 7 Ś の りれ身 雷 の 3 \$ 如 力 切 < ŋ ル 裂 の ح l 剣 うも と の 生し しル たシ 止 そフ めのエ た瞬ル 間 さえ ル防 シ ぎ フ よ エう ルも のな 手い によ 柄う のに 長思 いわ 三れ

ح 槍 の 突 l いがたが 点 握 Ţ は凄 į かじ らいエ 衝 擊波 がを 空が 震え 大 地 が 揺

来 る フが I L ι, 同 胞 Ġ \forall ţ

ル は 呟 tz

が 互 堕 は 薙 天シ 速にぎと 度争 大 倒 さ天ル . , れ使 そ たの そい 大 のは さ 様壮 \$ 相烈 たを る極 つ 互てやめ 衝 容 突 た双ししに 7 し引いい止 がま か Ġ 取の 敢ぬ ţ え剣 う て戟 っ えけ るん tì げ Ġ * ば 夜の 空 余 に波 浮 で か地 J: 11 星 割 2 N

7 ŧ ル さそ ` シそ 硬 ミいフのい 物 I ル 質 をに 道力さのにのさ 一破 え E ミ 手 壊 たれカに貫 のカの 長.強 工 l < ルたルが剣 シの刃 シあ 技 フ る tz 工 る ŋ ル 下 シル す ゃ でのろフのら 角 l 工槍 あ たルがって エに必の磨 殺 槍 耗 方 の ح まかける 心 エ 一 の 摩擦 ŧ l \$ う 柄 で \forall 戦ら Ţ l 1 ι, て突受り、がいまける。 がか っ ぎ 止 te te れ引 さめす 味 く るたま がにい ルさ 落 つや だりれち n がフ 7 7 7 エいい 技 こル つ < 2 K ののたのの関 に世し 槍 かゞ 対のて シ切 し最は

フ断 工 ルれし れ遅 tz 槍 ル の 先 フ端フ振は のェ 刃ル 21 ? カ臓 ルミ のカ 臓ル撃を 貫 剣 いがで た刺 時 ル

工 ル シ 工 生は 互 1, の \$ * が G PP

2 2 え 地わ にっのう 7 っ、! も切筋 後 が あ な た た 傷 修 ご 大 た た 傷 修 ! あ か 選 ル 瞬者 間も 僧 よ続 達ル り出 はと そし の、尽 カ 最 * \$ 後 せ 失の ねル 砦 ι, 、、悪なな 命 カ \$ つ 持胸 の た 足結 つ 元界た押 12 悪 ŧ 現破 魔え のな 11 5 大 Ţ 群 いうに地 と対に へし l とててき 劣付 いた勢け 込がとら ŧ なれ れルりた るシ よフ守 う I にルに

ŧ

お やお れ天 は使 相様 討が ル じシ ヤフ 工 ル 1 tz

ι, 5 \sqsubseteq

心大 天 使 様

身 の 消 よ耗 うも \$ ŧ 也 n 修道僧 逹 は 3 力 工 ル ح ル シ フ 工 ル の ŧ ح \sim ۲ 駆 け 寄る

わ つ tz ľ ゃ 1 \sqsubseteq

シ ト 動 1 të は 12 そ せ の ぬ様子 メを 才 目 ンに のし 肩て に溜 手を やつ ろき ` う と次 しい てで 労を 12 ぎら お う ح O 1 レ ンスを抱きな

7 ح ľ : \sqsubseteq

ح び 声 ź 举

Ġ ځ ン 1 ス っ z tz 抱 ミげ * 力た tì 工 が G の メ ح 才 グン慣 はれ 息絶 1 1, え長 7 時 王い間 tz の 召 還 あ で気 る カ \$ 極 限 ŧ で 酷 使 した

4 た道 士 tž の tz 死 tż 12 気 に く付 れいシ傷 るた の 7 tž ダ たり P や 国 セの バで ス チ ŧ 身を n

お お

の ح シ フ エ ル の \sim 駆 け 寄っ tz 逹 の か Ġ ۳, ţ め ***** の 声 かぎ 上 が っ tz の

う シ l 7 逹 ١, てた が l かけ した 7 の先 動 で きは はき 緩力 慢工 でル ` の 気前が のき表情 75 12 はっ 死た 相ル がシ 現フ 1 I てル いが た五 t 上 かゞ

め z 刺 l < n る っ

7 の 様子 Ł 7 tz 気 * 逹 は ル シ フ エ ル の の 止 め 1 う ح l tz かゞ

「早ま っ 7 は 1 G h ! 待 つ ľ ゃ

う 叫 Ĵ. シ ŀ の 声 ル シフ エ ル * 葬 ŋ 去 ろ う ح は ゃ る 僧 tz

シそ 1 ŀ 1 は ル 抜 シ フ ι, エ 7 1, ル のが 纏う 霊的 気 配 の 中 に ŧ う 禍 4 **\$** が ま達 がを ll い止 殺め 気 が 含ま n 7

カ をい 事を見 失 ŧ う 空 \$ 駆 tz の だ it る ح ۲ ŧ ‡ ‡ 1 堕天 7 の Ù ι, -の 翼を

ば ン た スつ 人のか せい 脚を 歩むき とず ŋ tì が Ġ っ抱 き合 ι, 1 がぬ Ġ, 眠は る Ţ う に美 亡 < な十 っ た枚 シ X 才 b ン ず ح D か 1 12

レ 傍ら ŧ で ح う語 tz

殺 願 不 \neg しい関合だに 私 か いっ思 間を襲うれる。だが、そのにい、そのにからい、そのにからい、そのにかがいる。 知恵の力 l て人 ý き間たに ŀ 一 知 で \forall 恵を与え の実を食 Į, ŋ 正 てしまいくせ 、 た よ り は 来、 は、 人 幸福に、善悪 は 自 G 人を の 欲 間知 水水に がら 生ず 溺 き獣 ての n ι, Ţ けう 相 互 るに よう に 支 配 にる と人 ゃ い間 争 うを

 \sqsubseteq

葉に 国 は 肩 ۲

「私ルそ ぼがシの す人フ通 たよう 12 そな王 のっ 為た にのを は落 ` 互し 地いた にに 堕をう し人 た間 の達 \$ 罰する tz め tż っ tz 実 際 私 は 人

冬 予定だ 2 ` 自 Ġ \$ tż つ tz

 \overline{v} むむむ

言葉を 失 っ tz シ

えた ししか は 行 ζ え ۲ ι は間 今 違 回 tj. 1, の でロ 行 1 1 為だ かしは っ ン唸 ルかた ス G ح ح だ確シ 信义 エタしオ ル回たンの、。の の 自 一連 ح の己 者 犠 の 逹 牲 出 ح は 来 事を た私他 者 の 与え ^ 見 の 届 tz 無 け 試 償 城棟を乗り 私は人に 'n 真に 越え の知 叡 tz 智 の カ 1 < Ł し与

7 ι, 血 の の 言 立葉の後 ţ う 1 液 ルる 体 シ 掌 フェ で 救 いは 3 力 の 剣 で 貫 か n 胸 か Ġ 旈 n 落 t る 7 グ 7 の Ţ う ĸ

私 の ŧ tz の 名 11 サ タを ン。 7 の かい掌に りす たれ が 神 1 ŋ 私 かぎ 託 n tz 使 命

7 う 言 葉を 発 か らそ の 赤 込 めそ

次 の ン の D 12 そ i î の 液 血な 体 は ځ 輝 含 け ŧ る 透 せ 明 再の び液 3体祈試 カに 工変を者 ル化 のし ` ح ル ヘシ とフ 步工 んル では 息絶え ι, < tz O 1 レ ン ス ح シ

IJ IJ っ

っ Ł つ は の U 1 レ ン ス ح シ X 才 ン の 喉 Ţ 吱 込 ť. l tz の は n か、 1

返 tz

の声 か 波 の Ţ う 広 が っ tz

? 僕 は 生き てに ι, る の か ?

てメ いオ自 たン分 かが 目 O بح 1 覚ま レ ン スを見 Ĺ 息を つ め l たて 2 1 ***** る 事に 計 1 ŋ レ ン知 スれ ŧ 1 まい te l3 潤 ۳ の不思議 l んだその 瞳でシメ と神 秘を感じ オンを見 tì が G つ めシ

tž U 1 \vee レ ン ス ŧ 生 ŧ 7 ١, る_。 僕 達 は 生き 7 ١, る。 そ l 7 n か ŧ _ 緒 12 生き 7 ι, <

シ 才 ン ン <

化し ルーさてそ るは方せき のメ 3 力時 ゃ シ、が力傷 工 あ光やフ暗てエフル ₹ と ルいの 力口 のた胸 エー 傷そに ル たの傷の取けの刺 させス ŋ ル胸 戻シにれ フたたがすつ注た のか 三前た ح エぐ ルと 叉 12 照に倒の の屹強 遂 照れ治 槍 左く らた癒にを l のルれさル《そ引 て擁 シちの ***** いを たフ ゆ命抜た交 l I \forall 'n * ルわ うルで灯 シし 瞬火再 にを フ た くを自火を自ル 明抱 るき にっ 5 It くか 輝か そたの え のの赤 残 始た痕だ * き` 跡ろ血れ すう をた か不少 死な 1 く地のい なへ液生 りと体命 倒 へを ミれと燃 力た変焼

いな tz っいそ光 た天しが の使てル の ` をがエい意 ルは識 纏て っ神のずを ル 与 つ夜 シえい空 慈悲 胸陽 に光 は の 射 24 そが 7 る シ É フ はエ たル めの か傷 4 6 ながら Ġ 天ミ 空彼 方ル ^ と 吸 い今 込やお nn 7 6

す

ح

n

*

め

7

の

輝

ι,

た戦 7 1 tz あ る 日。 で は れた。 帰還 した住民達 ゃ は る ば

国 12 祝 賀 Ó 儀 が催され

ľ は 道僧 が ば n 侯 が 各 地 か ら集めら n tz °

7 の 日 国 が ۲ 1 ŋ tž け で *t*~ < 各 地で 厳か な儀式 の 後 に は あ 限 ŋ の

n 人 4 は 皆美酒 12 酔 5 tz

を無 の 式 事 12 育 7 は ょう 幼児 ح z ι, 胸 う に l の tz 強 7 グ 決ダ 意 ŋ のにア 满 の 姿も 5 7 ι, 見 受 へけら n そ の 表 情 11 命 \$ 助 け n tz

か に シ X 才 ン ۲ D 1 レい ンス 姿 İİ 見 Ġ れた 1 か つ tz

ι, つも の 日 の小 夕方 さ の tì ζ 棚に美 ح で あ 酒 る の並宮 べ 殿 G の れ広 間 で 接間わ の n tz ソ ファに < 下た たろ祝 l 宴 7 E い抜 たけ tz 国 王

姿が 7 こに あ っ は tz ° 国 王 tž け で 1 < そ の 12 佇 ti t セ応 バ ス チ ヤ ン ۲ 対面を l ソ フ P に 座る

お主の 酒好き っ J°. 9 りに声を掛けるもっと、 2 \boldsymbol{t} 変 わ っ 7 お G h

一へ皮 る

「何を言わりの道院長 られる、 シト 1 殿。 修道院の教え に ŧ あ ŋ ŧ l tz ぞ。 人 の 糧 11 竈 ţ ず る の 4

あらず غ · · · · · ·

誰 かぎ 料 外 言 栄養、 の ľ ゃ

١ 1 の指理以 摘 はに 厳 酒 格も っだ飲 っめたと が ` > 冗た 八談 建 知の 7 か 、すな りわ はち こ信 め仰 らめ 11 13 てが い必 ない要な

はシ っ っ は たっ こ は つ、 わ がか 一てお りま りす じぞ 4 n にし 7 ŧ シメ 才 ン 殿 ح O 1 レ ン ス 殿 が 参加

t, か と だ け 唯 1/3 残 ゃ : . . .

っさ よう で "ح £., ι, ŧ す , な \sqsubseteq

快 酩 酊 の 国 の 17 z 突 念そ う tj. -言 12 セ バ ス チ ヤ ン は 同 意 l tz

<u>J</u>. んい っ、あ ヤ中 つで Ġ は王 ŧ う ۲ っ < 1° にて 破出 門 た じ残 ゃ。 お 主ら が ۳, う l 7 ŧ ح 言う な 5 5 は

せ h が :: :: \sqsubseteq

シ ト 1 が ・毒舌を 交え 7 説 明 z 加 え る。

_ ~ れも 辞 退さ n 7 ŧ ι, ŧ l 7 11 止 t) مخ えま せ h 1

١, 7 7 ヤ ン もシ ト 1 12 相 の手を 入 れ る

今 回 人 々 セ がバス わ n 7 tz のは だシ 1 いれ騒いで-殿等のお力-いるというのなるも去ることなど も申し 訳シメ 才 ン 殿 ۲ O レ ス

殿のお 陰 こう ゃ つ 儂 5 H 浮 ι, Ĺ ١, 気 分 ľ ゃ

「構う ŧ ι,

名 そう tì 国王 に シ ト は 言 葉を 返 l tz が

_ そ n ても……不 、思議じ

か と思い l tz ょう にゃ 続 H

か ?

王 が わ ず 尋 ۲ 卜 1 は 首 ŧ-

X 才 ン 12 は 従 修 道院 ι, 俗 のね 世 に捉る 還に っ従 たいシ あ 奴民 <u>^</u> の 戻 人った。……人のたる。 つ 預言者 の カ 11 弱まる しなが ら不 ۳, ころ

L お る

王と Û ぎ

知恵 かり、そうじゃが言葉を シ シフェ 執事は 、 部屋のできたが言葉を続け、 が言葉を続け、 - ト》の実を食べたこしれん。シメオンとし が吟 たことも、神だローレンス! トッしのた か が卓積の道を辿ってこの世を救ったのかが煉獄の道を辿ってこの世を救ったよう罪であり、悪であると思っておった。しを人に食わせたことも、人が誘惑に負け 負 かうし it にかて l l 人が違 れん

クよりう ίέ <u> </u> ι 7 1, る の やも l n ね

後にな 小窓か G タ 焼 H の 日差しが差し込み、 三人を < 照ら tz

*

*を見 5 £ 渡せ るそ 頭数での頃、 数の増えた羊達が草を食べ小高い丘の牧草地にあった頃、夕焼けに照らされたシ にあった。 ン の 姿は故 郷の 村、 遠くに陽の 沈 h で V) <

回 っ以 7 前 ١, Ţ る。 ŋ ŧ へ は み、 そ の 周 りを数頭 の 牧羊犬が 元 気に 走 ŋ

ン 草 の上に インはふ 7 寝 転 とたがロ。つ っ 7 1, tz シ X 才 ン は J. ح 体を起こす。 隣に は美し 9 闇 12 映え tz 1 レ

シメオン tz O 1 レ ン ス に目をやる O 1 V ンスは今や、 シ X 才 ン に ح 7 の 全て tž

メ O オン はン 5 の と空を だ暗も てた ŧ の だ た、その時 シ X 才 ンを見 つ め 7 1, tz U レ ン ス 12 ح 7 ŧ

平線よ ŋ 海 空を染め 輝く 斜陽を望みなが シ メオ O ン スは 手を

 \mathcal{Z}_{l} 地 ţ 1, _ 旋 の 風 が 通りすぎた

* *

る ン ح スしこ、ての tż ろ 7 の う マい 物 がダ る。 語 の こりバ 前 のアハ 12 物語はこれがからからが歩いてり、かりの子らが歩いた。 で終じる。 去 に が秘 め G る歴史である。 の大戦を駆け はれた軌跡が開 。抜眠こけり れた は斬がるし して tz なそ新 るした てシ 1 る メオオ の 主才 ン が 題 始 ۲ ۲ なロ ŧ 9 1 ろ うレう